

専門科目

目次

領域実技①② ピアノ(a)(前期),(b)(後期).....	1	歌曲演習Ⅱ(a)(前期).....	131
領域実技①② 弦楽器(a)(前期),(b)(後期).....	5	台本研究(後期).....	135
領域実技①② 声楽(a)(前期),(b)(後期).....	9	修了研究 A(a)(前期),(b)(後期).....	137
領域実技①② 作曲(a)(前期),(b)(後期).....	13	修了研究 B(a)(前期),(b)(後期).....	141
領域実技①② 音楽学(a)(前期),(b)(後期).....	17	修了研究 C(a)(前期),(b)(後期).....	144
器楽特殊研究A①②二重奏 (a)(前期),(b)(後期).....	20	修了研究 D(a)(前期),(b)(後期).....	148
器楽特殊研究B①②室内楽 (a)(前期),(b)(後期).....	25	創作演習 A(a)(前期),(b)(後期).....	152
器楽特殊研究C①②ピアノデュオ (a)(前期),(b)(後期)	29	創作演習 C(a)(前期),(b)(後期).....	156
領域実技①② 室内楽(a)(前期),(b)(後期).....	33	創作演習 D(a)(前期),(b)(後期).....	161
領域実技①② ソルフエージュ教育(a)(前期),(b)(後期)	36	創作演習 E(a)(前期),(b)(後期).....	165
声楽特殊研究 A①(a)(前期),(b)(後期).....	40	創作演習 F(a)(前期),(b)(後期).....	169
声楽特殊研究 A②(a)(前期),(b)(後期).....	45	創作演習 G(集中).....	173
声楽特殊研究 B①(a)(前期),(b)(後期).....	49	創作演習 H(b)(後期).....	175
声楽特殊研究 B②(a)(前期),(b)(後期).....	54	創作演習 I(b)(後期).....	178
声楽特殊研究 C①(a)(前期),(b)(後期).....	58	創作演習 J(a)(前期),(b)(後期).....	180
声楽特殊研究 C②(a)(前期),(b)(後期).....	63	創作演習 K(a)(前期),(b)(後期).....	184
ソルフエージュ特殊研究 B①②(a)(前期),(b)(後期).....	67	創作演習 L(a)(前期),(b)(後期).....	188
ソルフエージュ特殊研究 A①(a)(前期),(b)(後期).....	72	音楽・音響特殊研究(a)(前期).....	193
ソルフエージュ演習①(a)(前期),(b)(後期).....	79	音楽・音響特殊研究(b)(後期).....	196
音楽学特殊研究 A①(a)(前期),(b)(後期).....	84	MSD 共同制作研究Ⅰ(a)(前期).....	198
音楽学特殊研究 A②(a)(前期),(b)(後期).....	88	MSD 共同制作研究Ⅰ(b)(後期).....	202
音楽学特殊研究 B①(a)(前期),(b)(後期).....	93	MSD 共同制作研究Ⅱ(a)(前期).....	205
音楽学特殊研究 B②(a)(前期),(b)(後期).....	102	MSD 共同制作研究Ⅱ(b)(後期).....	208
歌曲伴奏研究①(a)(前期),(b)(後期).....	111	MSD 共同制作研究Ⅲ(a)(前期).....	211
歌曲伴奏研究②(a)(前期),(b)(後期).....	120	MSD 共同制作研究Ⅲ(b)(後期).....	214
歌曲演習Ⅰ(b)(後期).....	129	音楽学特別研究①(a)(前期),(b)(後期).....	216
		音楽学特別研究②(a)(前期),(b)(後期).....	220

領域実技①② ピアノ(a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

実技個人レッスン。

ピアノコースには、入学試験・修了試験の課題曲が異なる3つの専門分野(ピアノソロ、コレペティツィオン、歌曲伴奏)が用意されている。

【到達目標】

ピアノソロでは、高度な演奏技術を習得し、ピアノにおける音楽的表現の可能性を探求する。作曲家やその作品の背景、時代やスタイルも考え、作品の内容をより深く理解し、各自の感性と個性を活かした芸術的な演奏を目指す。

コレペティツィオンにおいては、オペラ全体を把握し音楽を組み立てる力を養い、トータルな面からオペラ歌手を指導するスキルを身に付ける。

歌曲伴奏では、歌詞の内容や背景、言葉と音の関係、歌曲におけるピアノの役割を追求し、ピアノと歌唱が対等な芸術表現を目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ピアノコース1年、2年

【授業の形式】

【対面を中心】演習。個人レッスン

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	100%	

【成績評価の要点②】

演奏:60%、レッスンへの取り組み:40%

1年次は、後期に演奏会形式(20～30分程度のプログラム)による「中間演奏発表」を行うこと。

2年次は、後期に「修了試験」を行うこと。

日程は後日通知する。

掲示発表される所定の期日までにプログラムを提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

各担当教員または教員室・事務局(平日 8:30-16:30)にて確認すること。責任者のオフィスアワーは金曜日5限後アネックス

【教材】

学生と指導教員とで相談のうえ選択した作品の楽譜

【その他】

<担当教員>

新井 博江、有吉 亮治、清水 和音、中井 恒仁、仲道 郁代、朴 久玲、今井 彩子、関本 昌平、沼沢 淑音、

岡本 美智子、山田 富士子、上野 久子、海老 彰子、玉置 善己、村上 弦一郎、須田 眞美子、若林 顕、田部 京子、エマニュエル・リモルディ、

阿部 美果子、広瀬 康、川島 伸達、奈良場 恒美、斎木 隆、木村 徹、星野 明子(歌曲伴奏)、金子 恵、山崎 牧子、鶴園 紫磯子、高橋 多佳子、江澤 聖子、練木 繁夫、三輪 郁、青柳 晋、大西 真由子、高田 匡隆、河村 晋吾、大伏 啓太、吉武 優、田島 亘祥(コレペティツィオン)、三原 未紗子、廻 由美子、入江 一雄、佐藤 彦大、外山 啓介

領域実技①② 弦楽器(a)(前期),(b)(後期)

曜日時限・単位・担当教員

実施キャンパス

対象年次 修士1年～

【授業の概要】

主専攻の実技個人レッスン。高度な演奏技術を習得し、弦楽器における音楽的表現の可能性を追求する。

【到達目標】

作曲家やその作品の背景、時代やスタイルも考え、作品の内容をより深く理解し、各自の感性と個性を活かした芸術的な演奏を目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

弦楽器コース1年、2年

【授業の形式】

個人レッスン

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	100%	

【成績評価の要点②】

演奏:60%、レッスンへの取り組み:40%

1年次は、後期に演奏会形式(20～30分程度のプログラム)による「中間演奏発表」を行うこと。

2年次は、後期に「修了試験」を行うこと。

日程は後日通知する。

掲示発表される所定の期日までにプログラムを提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

担当教員または教員室・事務局(平日 8:30ー16:30)にて確認すること。責任者は火曜日午後・仙川教室にてレッスン前後に時間を確保します

【教材】

学生と指導教員とで相談のうえ、選択した作品の楽譜等。

【その他】

<担当教員>

[ヴァイオリン・ヴィオラ]

景山 誠治、久保田 巧、豊田 弓乃、神谷 美千子、田中 晶子、

辰巳 明子、原田 幸一郎、篠崎 功子、石井 志都子、加藤 知子、徳永 二男、磯村 和英、堀 正文、恵藤 久美子、漆原 啓子、清水 高師、久保 良治、山口 裕之、

豊嶋 泰嗣、木野 雅之、篠崎 史紀、佐々木 亮、戸田 弥生、鈴木 康浩、清水 醍輝、伊藤 亮太郎、水谷 晃、篠崎 友美、篠原 悠那、土岐 祐奈、南 紫音

[チェロ]

長谷川 陽子、

倉田 澄子、堤 剛、毛利 伯郎、山崎 伸子、上村 昇、北本 秀樹、苅田 雅治、木越 洋、銅銀 久弥、菅野 博文、菊地 知也、古川 展生

[コントラバス]

市川 雅典、

稲川 永示、本間 達朗、石川 滋、吉田 秀

領域実技①② 声楽(a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

大学院声楽コースでは自己の研究課題を確実に定め、実技担当指導教員と相談の上、研究計画書を立案し、尚且つ修士リサイタルを視野に入れた選曲をし、実技担当指導教員の個人レッスンを受けるものである。

【到達目標】

各声楽特殊研究で実習した各研究課題を含め、より高度な発声、音楽表現、作品分析、演奏解釈、作曲者の考察等、総合的に研究する事を目標とする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

声楽コース1年、2年

【授業の形式】

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	100%	

【成績評価の要点②】

演奏:60%、レッスンへの取り組み:40%

オペラ研究分野生は、前後期各1回のオペラ試演会で演奏すること。

歌曲研究分野生1年は、後期に演奏会形式(20分～30分程度のプログラム)による「中間演奏発表」を行うこと。

2年次は、後期に「修了試験」を行うこと。

日程は後日通知する。

掲示発表される所定の期日までにプログラムを提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(唱法研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(唱法研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(唱法研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(唱法研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

担当教員または教員室・事務局(平日 8:30ー16:30)にて確認すること

【教材】

適宜指示する。

【その他】

＜担当教員＞

大橋 ゆり、腰越 満美、鈴木 准、宮本 益光、藤川 泰彰、大島 幾雄、谷 茂樹、篠原 百合乃、友清 崇、塚田 裕之、与那城 敬、藺田 真木子、里中 トヨコ、丹藤 麻砂美、落合 美和子、安井 陽子、長尾 康世、駒井 ゆり子、松井 康司、村上 明子、森 麻季、嘉目 真木子

領域実技①② 作曲(a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

作品作成のための個人指導を行う。

【到達目標】

作品の完成

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし

【授業の形式】

【対面を中心】演習。 個人指導を中心とする

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	100%	

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.和音と非和声音

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.調性の概観

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.拡大調性の可能性

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.調性と無調

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.形式の定義と応用

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.和声と対位法

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.12 音技法

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.歴史的作曲様式の理解

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.年代ごとの作曲技法ールネッサンス期

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.年代ごとの作曲技法ーバロック期

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.年代ごとの作曲技法ー古典期

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.年代ごとの作曲技法ーロマン派

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.年代ごとの作曲技法ー近現代

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.現代の音楽へのアプローチ

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.楽曲研究ー分析法

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.楽曲研究ー楽器奏法

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.楽曲研究ー音響構造の特性等

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.楽曲研究ー楽器編成による特性等

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.楽曲研究ー記譜法

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.楽曲研究－構成法

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.後期提出作品の創作①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.後期提出作品の創作②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.後期提出作品の創作③

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.後期提出作品の創作④

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.後期提出作品の創作⑤

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.後期提出作品の創作⑥

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.作品の自己分析①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.作品の自己分析②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

教員室または事務局(平日 8:30－16:30)にて確認すること

【その他】

〈担当教員〉

石島 正博、土田 英介、森山 智宏、加藤 真一郎、余田 有希子、正門 憲也、鈴木 輝昭、鷹羽 弘晃、三瀬 和朗、金子

領域実技①② 音楽学(a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

当該学生の研究計画に基づいて資料の収集および収集した資料についての考察、そしてその考察結果の論文にすることがこの指導の骨子である。資料収集方法や資料検索、資料の読解などを毎回の指導で実施する。後期は論文作成のための文章構成についても指導する。

【到達目標】

前期は研究課題の特定、関連資料の検索と資料の収集、資料の解釈と考察を目標とする。後期は収集した資料に基づいてそれを解釈し論文にまとめることを目標とする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

大学院音楽学専攻生

【授業の形式】

【対面を中心】個人指導。演習（ゼミナール）を中心。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	100%	

【成績評価の要点②】

研究計画に基づいて、資料の調査と考察の進捗具合と取り組みがもっとも大きな評価の基準となる。前期及び後期に研究内容を文書でまとめてもらい、それをもって前期及び後期の最終評価とする。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.研究テーマの設定

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.研究テーマと執筆スケジュールの確認

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.先行研究の検討①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.先行研究の検討②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.先行研究の検討③

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.仮説の検討と作成

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.研究方法の検討

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.論文の構成①(序論の検討)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.論文の構成②(序論の作成)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.論文の構成③(結論の検討)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.論文の構成④(結論の想定)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.論文の構成⑤(本論の検討)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.研究計画の作成①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.研究計画の作成②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.卒業論文提出までのスケジュールの確認

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.研究の個別指導①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.研究の個別指導②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.研究の個別指導③

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.研究の個別指導④

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.研究の個別指導⑤

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.論文の作成および修正①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.論文の作成および修正②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.論文の作成および修正③

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.論文の作成および修正④

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.論文の作成および修正⑤

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.論文の作成および修正⑥

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.論文の点検と修正

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.論文要旨の作成と修正

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.研究発表に向けての準備

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

論文指導時に行うが、そのほか教員室または事務局(平日 8:30-16:30)にて確認すること

【教材】

適宜指示する。

【その他】

〈担当教員〉

沼野 雄司、安田 和信、佐藤康太

器楽特殊研究A①②二重奏 (a)(前期),(b)(後期)

曜日時限・単位・担当教員

実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

世界に通用する演奏家として成功するには、室内楽、特に二重奏の経験が不可欠である。

半期7回のレッスンにおいて、学生の新しい可能性を引き出し、楽器奏者としての能力を更に高める。そしてソロ的要素を活用しつつ、他楽器との合奏によって、より大きな音楽を創り内容の深い演奏を目指す。

【到達目標】

バロック、古典、ロマン派、近現代の作品から作曲家のコンセプトを読み、経験豊かな講師たちの指導により、知性的な音楽家へと成長させるのがこの授業の目標である。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

修士課程の学生でグループを作って受講すること。(要:WEB 申込フォームからの申し込み)

【授業の形式】

【対面を中心】演習。 半期・7回(1回 90 分)のレッスンから成る。

受講曲目は、各グループで選択した、バロック、古典、ロマン派、近現代の二重奏曲。 各グループで2名までの担当教員希望を出すことができる。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

合格・不合格で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究) ②

事前学習		時間	
------	--	----	--

事後学習		時間	
------	--	----	--

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

随時対応する。

【教材】

バロック、古典、ロマン派、近現代の重要な二重奏曲

【その他】

<担当教員>

阿部 美果子、新井 博江、有吉 亮治、石井 楓子、今井 彩子、入江 一雄、江澤 聖子、エマニュエル・リモルディ、大西 真由子、大伏 啓太、岡本 美智子、河村 晋吾、木村 徹、斎木 隆、佐藤 彦大、島田 彩乃、清水 和音、須田 眞美子、関本 昌平、高田 匡隆、高橋 多佳子、玉置 善己、鶴園 紫磯子、外山 啓介、中井 恒仁、奈良場 恒美、西村 翔太郎、練木 繁夫、朴 久玲、三原 未紗子、三輪 郁、廻 由美子、山崎 牧子、山田 富士子、吉武 優、吉村 真代、若林 顕、池田 菊衛、石井 志都子、石川 滋、磯村 和英、市川 雅典、伊藤 亮太郎、稲川 永示、漆原 啓子、恵藤 久美子、景山 誠治、加藤 知子、上村 昇、神谷 美千子、苅田 雅治、菊地 知也、木越 洋、北本 秀樹、木野 雅之、久保 良治、久保田 巧、倉田 澄子、佐々木 亮、篠崎 功子、篠崎 友美、篠崎 史紀、篠原 悠那、清水 詩織、清水 醍輝、清水 高師、鈴木 康浩、高木 慶太、辰巳 明子、田中 晶子、堤 剛、銅銀 久弥、土岐 祐奈、徳永 二男、戸田 弥生、豊嶋 泰嗣、豊田 弓乃、長谷川 陽子、原田 幸一郎、古川 展生、堀 正文、本間 達朗、水谷 晃、南 紫音、宮田 大、毛利 伯郎、山口 裕之、山崎 伸子、吉田 秀、鷹羽 弘晃、土田 英介、石島 正博、加藤 真一郎、森山 智宏

器楽特殊研究B①②室内楽 (a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

室内楽の作品を学ぶことは音楽家としての成長に必要不可欠である。楽曲をグループのメンバーによる積極的な意見交換を誘導しつつ多角的に掘り下げていく。レッスンは演奏家として経験豊かな講師陣が担当し、リアリティの高い内容となっている。

【到達目標】

一人一人の音楽的世界観を広げ豊かなものに発展させていくことがこの授業の目標である。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

修士課程の学生でグループを作って受講すること。(要:WEB 申込フォームからの申し込み)

【授業の形式】

【対面を中心】演習。 半期・7回(1回 90 分)のレッスンからなる。

受講曲目は、各グループで選択した、古典派、ロマン派、近現代の作品の中から選択した室内楽曲。

各グループで3名までの担当教員の希望を出すことができる。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

合格・不合格で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
------	--	----	--

事後学習		時間	
------	--	----	--

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
------	--	----	--

事後学習		時間	
------	--	----	--

10.レッスン(テクニカルな課題の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

火曜日 午後 仙川教室にてレッスン前後に時間を確保します

【教材】

古典派、ロマン派、近現代の作品の中から選択した室内楽曲のパート譜と総譜

【その他】

<担当教員>

阿部 美果子、新井 博江、有吉 亮治、石井 楓子、今井 彩子、入江 一雄、江澤 聖子、エマニュエル・リモルディ、大西 真由子、大伏 啓太、岡本 美智子、河村 晋吾、木村 徹、斎木 隆、佐藤 彦大、島田 彩乃、清水 和音、須田 眞美子、関本 昌平、高田 匡隆、高橋 多佳子、玉置 善己、鶴園 紫磯子、外山 啓介、中井 恒仁、奈良場 恒美、西村 翔太郎、練木 繁夫、朴 久玲、三原 未紗子、三輪 郁、廻 由美子、山崎 牧子、山田 富士子、吉武 優、吉村 真代、若林 顕、石井 志都子、石川 滋、磯村 和英、伊藤 亮太郎、稲川 永示、漆原 啓子、恵藤 久美子、景山 誠治、加藤 知子、神谷 美千子、菊地 知也、木越 洋、北本 秀樹、木野 雅之、久保 良治、久保田 巧、倉田 澄子、篠原 悠那、清水 詩織、清水 颯輝、清水 高師、鈴木 康浩、高木 慶太、辰巳 明子、田中 晶子、堤 剛、銅銀 久弥、土岐 祐奈、徳永 二男、戸田 弥生、豊田 弓乃、長谷川 陽子、原田 幸一郎、古川 展生、堀 正文、本間 達朗、水谷 晃、南 紫音、宮田 大、毛利 伯郎、山口 裕之、山崎 伸子、吉田 秀、鷹羽 弘晃、土田 英介、石島 正博、加藤 真一郎、森山 智宏

器楽特殊研究C①②ピアノデュオ (a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

近年、演奏会でも取り上げられることの多いピアノデュオにおける芸術的演奏表現の研究。

半期7回のペアごとの個別レッスンで行う。レッスンは演奏家として経験豊かな講師陣が担当する。ピアノデュオにおける譜面の読み方や聴き方等、アンサンブルの具体的な指導を通し、2人の多層に渡る響きのバランス感覚を身につけ、アンサンブルにおける意思疎通を深める。

【到達目標】

音楽を表現するための奏法を追求し、想像力豊かで魅力的なピアノデュオの演奏を作り上げてゆく事を目的とする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

修士課程の学生でペアを作って受講すること。(要:WEB 申込フォームからの申し込み)

【授業の形式】

半期・7回(1回 90 分)のレッスンから成る。受講曲目は、各ペアと指導教員とで相談のうえ選択した作品。各ペアで2名までの担当教員希望を出すことができる。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

合格・不合格で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

各担当教員に確認すること。責任者のオフィスアワーは金曜日5限後アネックス

【教材】

各ペアと指導教員とで相談のうえ選択した作品の楽譜

【その他】

<担当教員>

阿部 美果子、新井 博江、有吉 亮治、石井 楓子、今井 彩子、入江 一雄、江澤 聖子、エマニュエル・リモルディ、大西 真由子、大伏 啓太、岡本 美智子、河村 晋吾、木村 徹、斎木 隆、佐藤 彦大、島田 彩乃、清水 和音、須田 眞美子、関本 昌平、高田 匡隆、高橋 多佳子、武田 美和子、玉置 善己、鶴園 紫磯子、外山 啓介、中井 恒仁、奈良場 恒美、西村 翔太郎、練木 繁夫、朴 久玲、三原 未紗子、三輪 郁、廻 由美子、山崎 牧子、山田 富士子、吉武 優、吉村 真代、若林 顕、鷹羽 弘晃、土田 英介、石島 正博、加藤 真一郎、森山 智宏

領域実技①② 室内楽(a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

主専攻の実技個人レッスン。高度な演奏技術を習得し、室内楽における音楽的表現の可能性を追求する。

【到達目標】

作曲家やその作品の背景、時代やスタイルも考え、作品の内容をより深く理解し、各自の感性と個性を活かした芸術的な演奏を目指す。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

室内楽コース1年、2 年

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%	25%	25%

【成績評価の要点②】

演奏:60%、レッスンへの取り組み:40%

1 年次は、後期に演奏会形式(20～30 分程度のプログラム)による「中間演奏発表」を行うこと。

2 年次は、後期に「修了試験」を行うこと。

日程は後日通知する。

掲示発表される所定の期日までにプログラムを提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回レッスン時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究) ①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究) ②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【授業展開と内容-後期】

1.オリエンテーション(レッスン計画等)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン(取り組んでいる楽曲の分析)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン(奏法研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン(奏法研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン(テクニカルな課題の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン(テクニカルな課題の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン(表現技法の研究)①

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン(表現技法の研究)②

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン(試演)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

担当教員または教員室・事務局(平日 8:30-16:30)にて確認すること。

【教材】

学生と指導教員とで相談のうえ、選択した作品の楽譜等。

領域実技①② ソルフェージュ教育(a)(前期),(b)(後期)	
曜日時限・単位・担当教員	
実施キャンパス	
対象年次	修士1年～

【授業の概要】

実技個人レッスン。

ピアノ実技レッスンとソルフェージュ教育個人指導を行う。

【到達目標】

ソルフェージュ授業の基本となるピアノ演奏の技術を習得し、さらに高度なピアノの専門的領域における音楽的表現の可能性について探究する。ソルフェージュ教育研究において基礎となる見解を学び、自身の教育研究に役立てることができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ソルフェージュ教育コース1年、2年、

【授業の形式】

演習。個人レッスン

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

1 年次は、後期に「中間研究発表(ピアノ実技とソルフェージュ教育研究発表)」を行うこと。

2 年次は、後期に「中間研究発表(ソルフェージュ研究発表)」と「修了試験(ピアノ実技とソルフェージュ教育研究発表)」を行うこと。

日程は後日発表する。掲示発表される所定の期日までにピアノ実技の演奏曲目と研究発表内容を提出すること。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション・レッスン計画

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン:ピアノ実技(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン:ピアノ実技(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン:ソルフェージュ教育(先行研究について①)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン:ピアノ実技(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン:ピアノ実技(取り組んでいる楽曲の分析)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン:ソルフェージュ教育(先行研究について②)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン:ピアノ実技(奏法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン:ピアノ実技(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン:ソルフェージュ教育(先行研究について③)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン:ピアノ実技(テクニカルな課題の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン:ピアノ実技(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン:ソルフェージュ教育(教育法について①)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン:ピアノ実技(表現技法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン:ピアノ実技(試演・総合的な表現の探究)

事前学習		時間	
------	--	----	--

事後学習		時間	
------	--	----	--

【授業展開と内容-後期】

1.レッスン:ソルフェージュ教育(前期の研究についてのまとめと今後の計画)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

2.レッスン:ピアノ実技(読譜と演奏スタイルの研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

3.レッスン:ピアノ実技(作曲者についての研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

4.レッスン:ソルフェージュ教育(教育法について②)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

5.レッスン:ピアノ実技(楽曲の歴史的背景の理解)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

6.レッスン:ピアノ実技(取り組んでいる楽曲の分析)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

7.レッスン:ソルフェージュ教育(教育法について③)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

8.レッスン:ピアノ実技(奏法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

9.レッスン:ピアノ実技(練習法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

10.レッスン:ソルフェージュ教育(研究テーマについての個別指導①)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

11.レッスン:ピアノ実技(テクニカルな課題の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

12.レッスン:ピアノ実技(演奏解釈の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

13.レッスン:ソルフェージュ教育(研究テーマについての個別指導②)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

14.レッスン:ピアノ実技(表現技法の研究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

15.レッスン:ピアノ実技(試演・総合的な表現の探究)

事前学習		時間	
事後学習		時間	

【オフィスアワー】

ソルフェージュ研究室にて確認すること

【教材】

適宜指示する。

【その他】

〈ソルフェージュ教育 担当教員〉

伊倉 由紀子、加藤 真一郎、鈴木 しのぶ、鷹羽 弘晃、間谷 琴未、森山 智宏

ピアノ実技担当については大学院のピアノ実技担当教員を参照のこと

声楽特殊研究 A①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	宮本 益光 教授		曜日時限	木 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 1 年

【授業の概要】

声楽特殊研究 A①では、オペラの実習としてレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルの歌唱表現及び、舞台において必要な身体表現、舞台演技を主とし、前期と後期の最後に試演会として発表する実習である。同時にピアノコースの学生(主にコレペティツィオン)を育成する。(ピアノコースの学生については声楽特殊研究 C も参照のこと。これについては声楽専攻生もピアノコース院生と共に受講することができる。)ならびに、舞台作りや照明技術など実際にオペラを上演するまでの成り立ちや

関わり方等を実習する。実習する演目は、古典から現代まで幅広い演目から取り上げることとし、受講生それぞれの技術、声に見合ったものを講師が選択し与える。

【到達目標】

実習を通して、オペラにおける歌唱法(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)、舞台演技法等、総合芸術であるオペラを深く理解し、大学院修了後にはオペラの現場で即戦力となるような人材に成長できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

履修対象: 声楽コース、ピアノ(コレペティツィオン)コース、その他(担当教員が履修を認めた者)

【授業の形式】

【対面】演習形式 声楽講師、指揮者、演出家、ピアニストを配し、いくつかの部屋で演目ごとに分かれて行う。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1. 声聞き(それぞれ任意のアリアを歌うこと)

演目、配役決め。

事前学習	オリエンテーション及び、シラバスの内容を確認しておくこと。	時間	45 分
事後学習	指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分

2. 音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3. 音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4. 音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13.通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けてよく準備すること。	時間	45 分
事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

14.ゲネラルプロローベ

事前学習	試演会に向けて、より体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15.試演会

事前学習	体調管理に留意し、G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	後期に向けての反省点をまとめておくこと。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べてすぐに答えられるようにしておくこと。	時間	45 分

2.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13.通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けてよく準備すること。	時間	45 分
事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

14.ゲネラルブローベ

事前学習	試演会に向けて、より体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15.試演会

事前学習	体調管理に留意し、G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	次年度に向けての反省点をまとめておくこと。	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日 6 限後調布教員室にて受け付ける。

【教材】

前期は授業初回に声聞きをした後、それぞれの声にあった演目、配役決め、適宜指示する。

後期は、授業初回までにそれぞれの声にあった演目、配役決め、適宜指示する。

【その他】

立ち稽古以降は、ひざ下丈、ロングスカート、また、動きやすい靴(パンプス)等、役柄に適した稽古着を準備すること。

声楽特殊研究 A②(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 宮本 益光 教授			曜日時限		木 5 時限
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年

【授業の概要】

声楽特殊研究 A②では、オペラの実習としてレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルの歌唱表現及び、舞台において必要な身体表現、舞台演技を主とし、前期と後期の最後に試演会として発表する実習である。同時にピアノコースの学生(主にコレペティツィオン)を育成する。(ピアノコースの学生については声楽特殊研究 C も参照のこと。これについては声楽専攻生もピアノコース院生と共に受講することができる。)ならびに、舞台作りや照明技術など実際にオペラを上演するまでの成り立ちや関わり方等を実習する。実習する演目は、古典から現代まで幅広い演目から取り上げることとし、受講生それぞれの技術、声に見合ったものを講師が選択し与える。

【到達目標】

実習を通して、オペラにおける歌唱法(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)、舞台演技法等、総合芸術であるオペラを深く理解し、大学院修了後にはオペラの現場で即戦力となるような人材に成長できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

履修対象: 声楽コース、ピアノ(コレペティツィオン)コース、その他(担当教員が履修を認めた者)

【授業の形式】

【対面】演習形式 声楽講師、指揮者、演出家、ピアニストを配し、いくつかの部屋で演目ごとに分かれて行う。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.声聞き(それぞれ任意のアリアを歌うこと)

演目、配役決め。

事前学習	オリエンテーション及び、シラバスの内容を確認しておくこと。	時間	45 分
事後学習	指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分

2.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13.通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けてよく準備すること。	時間	45 分
事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

14.ゲネラルプロローベ

事前学習	試演会に向けて、より体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15.試演会

事前学習	体調管理に留意し、G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	後期に向けての反省点をまとめておくこと。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べてすぐに答えられるようにしておくこと。	時間	45 分

2.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献などを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13. 通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けてよく準備すること。	時間	45 分
事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

14. ジェネラルプローブ

事前学習	試演会に向けて、より体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15. 試演会

事前学習	体調管理に留意し、G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	次年度に向けての反省点をまとめておくこと。	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日 6 限後調布教員室にて受け付ける。

【教材】

前期は授業初回に声聞きをした後、それぞれの声にあった演目、配役決め、適宜指示する。

後期は、授業初回までにそれぞれの声にあった演目、配役決め、適宜指示する。

【その他】

立ち稽古以降は、ひざ下丈、ロングスカート、また、動きやすい靴(パンプス)等、役柄に適した稽古着を準備すること。

声楽特殊研究 B①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	腰越 満美 教授	曜日時限		木 6 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 1 年

【授業の概要】

声楽特殊研究 B①では、オペラの実習としてレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルの歌唱表現及び、舞台において必要な身体表現、舞台演技を主とし、前期と後期の最後に試演会として発表する実習である。同時にピアノコースの学生(主にコレペティツィオン)を育成する。(ピアノコースの学生については声楽特殊研究 C も参照のこと。これについては声楽専攻生もピアノコース院生と共に受講することができる。)ならびに、舞台作りや照明技術など実際にオペラを上演するまでの成り立ちや関わり方等を実習する。実習する演目は、古典から現代まで幅広い演目から取り上げることとし、受講生それぞれの技術、声

に見合ったものを講師が選択し与える。

【到達目標】

大学院 1 年次の実習を通して学んだことを生かし、さらに深く、高度なオペラ歌唱法(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)、舞台演技法を実践し、大学院修了後にはオペラの現場で即戦力となるような人材に成長できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

履修対象: 声楽コース、ピアノ(コレペティツィオン)コース、その他(担当教員が履修を認めた者)

【授業の形式】

【対面】演習形式 声楽講師、指揮者、演出家、コレペティートル(ピアニスト)を配し、いくつかの部屋で演目ごとに分かれて行う。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	事前に指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べて指摘された際にはすぐ答えられるようにしておくこと。	時間	45 分

2.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について	時間	45 分
------	-------------------------------------	----	------

	分析したりすること。		
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13.通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けて、よく準備すること。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分
------	-----------------------------	----	------

14.ゲネラルプロローベ

事前学習	試演会に向けて、より体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15.試演会

事前学習	体調管理に留意し G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	後期に向けての反省点をまとめておくこと。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	事前に指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べて指摘された際にはすぐ答えられるようにしておくこと。	時間	45 分

2.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について	時間	45 分
------	-------------------------------------	----	------

	分析したりすること。		
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13.通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けて、よく準備すること。	時間	45 分
事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

14.ゲネラルブローベ

事前学習	試演会に向けて体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15.試演会

事前学習	体調管理に留意し G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	試演会を振り返り、技術改善の課題をまとめること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日 6 限後 調布教員室にて受け付ける。

【教材】

それぞれの声にあった演目を選択し、演目決定次第適宜指示する。

【その他】

立ち稽古以降は、ひざ下丈、ロングスカート、また、動きやすい靴(パンプス)等、役柄に適した稽古着を準備すること。

声楽特殊研究 B②(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 腰越 満美 教授			曜日時限		木 6 時限
実施キャンパス 調布	単位	各 1 単位		対象年次	修士 2 年

【授業の概要】

声楽特殊研究 B②では、オペラの実習としてレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルの歌唱表現及び、舞台において必要な身体表現、舞台演技を主とし、前期と後期の最後に試演会として発表する実習である。同時にピアノコースの学生(主にコレペティツィオン)を育成する。(ピアノコースの学生については声楽特殊研究 C も参照のこと。これについては声楽専攻生もピアノコース院生と共に受講することができる。)ならびに、舞台作りや照明技術など実際にオペラを上演するまでの成り立ちや関わり方等を実習する。実習する演目は、古典から現代まで幅広い演目から取り上げることとし、受講生それぞれの技術、声に見合ったものを講師が選択し与える。

【到達目標】

大学院 1 年次の実習を通して学んだことを生かし、さらに深く、高度なオペラ歌唱法(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)、舞台演技法を実践し、大学院修了後にはオペラの現場で即戦力となるような人材に成長できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

履修対象: 声楽コース、ピアノ(コレペティツィオン)コース、その他(担当教員が履修を認めた者)

【授業の形式】

【対面】演習形式 声楽講師、指揮者、演出家、コレペティートル(ピアニスト)を配し、いくつかの部屋で演目ごとに分かれて行う。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	事前に指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べて指摘された際にはすぐ答えられるようにしておくこと。	時間	45 分

2.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
------	---	----	------

事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分
------	--------------------------------------	----	------

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13.通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けて、よく準備すること。	時間	45 分
事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

14.ゲネラルブローベ

事前学習	試演会に向けて、より体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15.試演会

事前学習	体調管理に留意し G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	後期に向けての反省点をまとめておくこと。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	事前に指定された楽譜を準備し、楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	楽譜を読み込んでおくこと。単語の意味などを調べて指摘された際にはすぐ答えられるようにしておくことおくこと。	時間	45 分

2.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

3.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

4.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

5.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

6.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

7.音楽稽古(レチタティーヴォ、アリア、アンサンブル)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

8.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

9.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

10.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献をなどを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

11.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献などを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

12.立稽古(演技、音楽)

事前学習	繰り返し演奏し、関連する文献などを読み理解を深め、作品、役柄について分析したりすること。	時間	45 分
事後学習	授業で指摘を受けた内容を踏まえて、技術改善に努め、よく復習しておくこと。	時間	45 分

13.通し稽古(演技、音楽)

事前学習	通し稽古に向けて、よく準備すること。	時間	45 分
事後学習	G.P に向けて通し稽古での改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

14.ゲネラルプロローベ

事前学習	試演会に向けて体調管理に留意し、G.P では試演会本番と同じように演奏すること。	時間	45 分
事後学習	試演会に向けて改善点をまとめておくこと。	時間	45 分

15.試演会

事前学習	体調管理に留意し G.P での改善点をまとめ、最善を尽くすこと。	時間	45 分
事後学習	試演会を振り返り、技術改善の課題をまとめること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日 6 限後 調布教員室にて受け付ける。

【その他】

立ち稽古以降は、ひざ下丈、ロングスカート、また、動きやすい靴(パンプス)等、役柄に適した稽古着を準備すること。

声楽特殊研究 C①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	田島 亘祥 講師	曜日時限		月 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

声楽特殊研究 A.B の授業で取り上げる作品を扱う。ピアノ一台でオペラのオーケストラのように弾く技術を習得することである。

【到達目標】

オペラの試演会に向けて、指揮者と一緒に音楽を創造することができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

声楽コース。ピアノコース。必ず声楽特殊研究 A,B と併せて受講のこと。

オペラのスコアを研究してそれをピアノで弾くこと。

【授業の形式】

演習形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】**1.レッスン形式****楽譜の譜読み**

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

2.レッスン形式**楽譜の譜読み**

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

3.レッスン形式**楽譜の譜読み**

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

4.レッスン形式**楽譜の譜読み**

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

5.レッスン形式**楽譜の譜読み**

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

6.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

7.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

8.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

9.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

10.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

11.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

12.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

13.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

14.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

15.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

2.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

3.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

4.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

5.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

6.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

7.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

8.レッスン

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

9.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

10.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

11.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

12.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

13.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

14.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

15.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

授業後に授業の教室で行う。

声楽特殊研究 C②(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	田島 亘祥 講師	曜日時限	月 3 時限		
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

声楽特殊研究 A.B の授業で取り上げる作品を扱う。ピアノ一台でオペラのオーケストラのように弾く技術を習得することである。

【到達目標】

オペラの試演会に向けて、指揮者と一緒に音楽を創造することができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

声楽コース。ピアノコース。必ず声楽特殊研究 A.B と併せて受講のこと。

【授業の形式】

演習形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
		100%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

2.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

3.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

4.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

5.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

6.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

7.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

8.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

9.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

10.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

11.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

12.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

13.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

14.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

15.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

2.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

3.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

4.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習するか。	時間	45 分

5.レッスン形式

楽譜の譜読み

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

6.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

7.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

8.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

9.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分
------	--------------------	----	------

10.レッスン形式

弾き語り

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

11.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

12.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

13.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

14.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

15.レッスン形式

歌手付き

事前学習	オペラの内容を良く理解しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだことを良く復習すること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

授業後に授業の教室で行う。

ソルフェージュ特殊研究 B①②(a)(前期),(b)(後期)		
担当教員	寺嶋 陸也 講師	曜日時限
		火 3 時限

実施キャンパス	仙川	単位	各 1 単位	対象年次	修士 1 年～
---------	----	----	--------	------	---------

【授業の概要】

鍵盤上であらゆる音楽を話すことができる「鍵盤マスター」の育成を目指し、とくにオペラや歌曲伴奏など、声楽とのコラボレーションを支え、とりわけオーケストラのパートをピアノで表現する能力を拡げる。

【到達目標】

鍵盤上であらゆる音楽を説明したり、表現したりすることができるようになる。ピアノでオーケストラのような音色による演奏表現ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

十分なピアノ演奏の技術を持っていること。歌を歌うことが嫌いでないこと。

最大 10 名程度の人数制限を設け、オーディションを行う。

【授業の形式】

実習形式

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	20%	80%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ピアノでオーケストラの曲を演奏しするオーディションを行う。曲目は事前に発表する。授業内で取り上げる実作品や教材の詳細については実力調査の後、指定する。

事前学習	管弦楽曲や、オペラのアリア、協奏曲の伴奏など、オーケストラのパートをピアノで弾くことを試しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

2.オペラの名曲（モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない）をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

3.オペラの名曲（モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない）を

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

69

おもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

13.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

14.前期のまとめにむけて、授業内で学んだことの振り返り

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

15.前期のまとめ:演奏発表

事前学習	演奏発表に向けて用意をする。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習し後期につなげる。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

2.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

3.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

4.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

5.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

6.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

おもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

7.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

8.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

9.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

10.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

11.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

12.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

13.オペラの名曲(モーツァルト、ヴェルディ、ヴァーグナー、ビゼー、J.シュトラウス、プッチーニなど、但し伴奏とは限らない)をおもな教材として、そのオーケストラパートをピアノで演奏しながら、ピアノでの演奏表現の拡大と深化を目指す。

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

14.年度末のまとめにむけて、授業内で学んだことの振り返り

事前学習	課題にとり組む。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習をする。	時間	45 分

15.まとめ:年度末の演奏発表

事前学習	演奏発表に向けて用意をする。	時間	45 分
事後学習	授業で扱った課題に取り組み復習し、明日につなげる。	時間	45 分

【オフィスアワー】

火曜日 仙川キャンパス ソルフエージュ研究室

【教材】

基本的にはプリント等で対応しますが、長く取り組む作品については各自で楽譜を用意することをお願いする場合があります。

ソルフエージュ特殊研究 A①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 塚田 眞理 講師			曜日時限		月 3 時限
実施キャンパス 仙川	単位	各 1 単位		対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

これまでに培ってきたソルフエージュ力を落とさずに維持すること、さらに向上させることを目的とする。様々な時代・様式の楽曲に出来る限り触れながら、聴力・読譜力・表現力・応用力…をバランスよく養っていききたい。それぞれが積極的な姿勢で何かを掴み、実際の音楽表現に繋げていきたい。

【到達目標】

- ・ハ音記号、移調楽器などいろいろな読譜が今より出来るようになる。
- ・正しく聴き、書くことと共に、暗記力、初見力、分析力を今よりアップし、様々なスタイルの課題が出来るようになる。
- ・調性感、和声感、フレーズ感、リズム感を養い、それらを演奏に反映し音楽を構築出来るようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ソルフエージュが好きであること、和声の理解が充分にあること、
楽しみながら自身の課題を見つけ積極的に克服しようとする姿勢があること。
試験により選抜する。

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
----	------------	------

30%	30%	40%
-----	-----	-----

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に

判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.1.各自の習熟度チェックとフィードバック

2.前期の授業方針の確認

事前学習	これまでに実施したソルフェージュ課題を復習しておくこと。ソルフェージュにおいて苦手な点、強化したい点を確認しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

2.1.様々なスタイルによる聴音課題(1 回目)

2.視唱課題(1 回目)3clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(1 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

3.1.様々なスタイルによる聴音課題(2 回目)

2.視唱課題(2 回目)3clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(2 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

4.1.様々なスタイルによる聴音課題(3 回目)

2.視唱課題(3 回目)3clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(3 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

	と。		
--	----	--	--

5.1.様々なスタイルによる聴音課題(4 回目)

2.視唱課題(4 回目)3clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(4 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

6.1.様々なスタイルによる聴音課題(5 回目)

2.視唱課題(5 回目)3clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(5 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

7.1.様々なスタイルによる聴音課題(6 回目)

2.視唱課題(6 回目)3clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(6 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

8.ここまでのまとめと復習、これからの取り組みについての確認

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	これまでに実施した課題で苦手だったものを復習しておくこと。ここまでの振り返り苦手な点、強化したい点を確認しておくこと。	時間	45 分

9.1.様々なスタイルによる聴音課題(7 回目)

2.視唱課題(7 回目)4~5clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(7 回目)リズム、重唱他

事前学習	これまでの課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

	と。		
--	----	--	--

10.1.様々なスタイルによる聴音課題(8 回目)

2.視唱課題(8 回目)4~5clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(8 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

11.1.様々なスタイルによる聴音課題(9 回目)

2.視唱課題(9 回目)4~5clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(9 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

12.1.様々なスタイルによる聴音課題(10 回目)

2.視唱課題(10 回目)4~5clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(10 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

13.1.様々なスタイルによる聴音課題(11 回目)

2.視唱課題(11 回目)4~5clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(11 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

14.1.様々なスタイルによる聴音課題(12 回目)

2.視唱課題(12 回目)4~5clé やリズム付き、移調、実作品より抜粋

3.アンサンブル(12 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
------	--	----	------

事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分
------	---------------------------------------	----	------

15.前期のまとめと復習、これからの取り組みについての確認

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	これまでに実施した課題で苦手だったものを復習しておくこと。ここまです振り返り苦手な点、強化したい点を確認しておくこと。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.1.後期の授業方針の確認

2.様々なスタイルによる聴音課題(1 回目)

3.様々なスタイルによる視唱課題(1 回目)

4.アンサンブル(1 回目)リズム、重唱他

事前学習	これまでの課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

2.1.様々なスタイルによる聴音課題(2 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(2 回目)

3.アンサンブル(2 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

3.1.様々なスタイルによる聴音課題(3 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(3 回目)

3.アンサンブル(3 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

4.1.様々なスタイルによる聴音課題(4 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(4 回目)

3.アンサンブル(4 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

5.1.様々なスタイルによる聴音課題(5 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(5 回目)

3.アンサンブル(5 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

6.1.様々なスタイルによる聴音課題(6 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(6 回目)

3.アンサンブル(6 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

7.1.様々なスタイルによる聴音課題(7 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(7 回目)

3.アンサンブル(7 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

8.ここまでのまとめと復習、これからの取り組みについての確認

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	これまでに実施した課題で苦手だったものを復習しておくこと。ここまです振り返り苦手な点、強化したい点を確認しておくこと。	時間	45 分

9.1.様々なスタイルによる聴音課題(8 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(8 回目)

3.アンサンブル(8 回目)リズム、重唱他

事前学習	これまでの課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

10.1.様々なスタイルによる聴音課題(9 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(9 回目)

3.アンサンブル(9 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

11.1.様々なスタイルによる聴音課題(10 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(10 回目)

3.アンサンブル(10 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

12.1.様々なスタイルによる聴音課題(11 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(11 回目)

3.アンサンブル(11 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

13.1.様々なスタイルによる聴音課題(12 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(12 回目)

3.アンサンブル(12 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

14.1.様々なスタイルによる聴音課題(13 回目)

2.様々なスタイルによる視唱課題(13 回目)

3.アンサンブル(13 回目)リズム、重唱他

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で演習した課題を復習し、上手く出来なかった課題は更によく復習すること。	時間	45 分

15.1 年間のまとめと復習、これからの取り組みについての確認

事前学習	出された課題が習得された上で授業に取り組むこと。疑問点がある場合は整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	1 年間で実施した課題を復習し、苦手だった課題を特によく復習し、今後につなげること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

月曜日 4 限後、火曜日 2 限後、ソルフエージュ研究室

【テキスト】

【教材】

【その他】

授業時にプリントを配布する。

ソルフエージュ演習①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	鈴木 しのぶ 講師		曜日時限	金 2 時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 1 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

ソルフエージュ教育の歴史や教材研究を通して「ソルフエージュとは何か」「ソルフエージュ教育とは何か」について考察する。

視唱や聴音などに代表されるソルフエージュ教育が、音楽の感じ方や理解のしかたをどのように形作るのかについて、いろいろ

ろな視点から考えてみたい。

【到達目標】

- (1)ソルフェージュやソルフェージュ教育について学び、理解を深めること。
- (2)ソルフェージュについて学ぶことで、将来、後進を指導する際の教育指針を持てるようになること。
- (3)ソルフェージュについて学ぶことで、各自が音楽についての考察を深めること。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

ソルフェージュ教育コース専攻生、その他、担当教師が履修を認めた者

【授業の形式】

講義及び演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	40%	60%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.1. オリエンテーション

2. はじめにー初心者からソルフェージュを学ぶー

事前学習	今まで自分が受けてきたソルフェージュ教育について、各自で検証すること。	時間	45 分
事後学習	日常の音楽活動が、ソルフェージュ教育の現場とどのような結び付きになるのか考えること。	時間	45 分

2.音に名前を付ける①

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

3.音に名前を付ける②

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

4.音に名前を付ける③

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

5.音に名前を付ける④

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

6.音に名前を付ける⑤

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

7.音に名前を付ける⑥

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

8.音に名前を付ける⑦

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

9.聴く・書く・弾く①

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

10.聴く・書く・弾く②

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

11.聴く・書く・弾く③

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

12.聴く・書く・弾く④

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

13.聴く・書く・弾く⑤

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

14.1. 前期のまとめ

2. 各自のレポート作成

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

15.聴く・書く・弾く⑥

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.ソルフェージュ教育の歴史①

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

2.ソルフェージュ教育の歴史②

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

3.ソルフェージュ教育の歴史③

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

4.ソルフェージュ的思考スタイル①

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

5.ソルフェージュ的思考スタイル②

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

6.ソルフェージュ的思考スタイル③

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

	から考察すること。		
--	-----------	--	--

7.日本におけるソルフェージュ教育の現状

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

8.ソルフェージュ教育の実践①

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

9.ソルフェージュ教育の実践②

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

10.ソルフェージュ教育の実践③

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

11.ソルフェージュ教育の実践④

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

12.ソルフェージュ教育の実践⑤

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

13.1. 後期のまとめ

2. 各自のレポート作成

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

14.ソルフェージュ教育の実践⑥

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分

15.ソルフェージュ教育の実践⑦

事前学習	前回の内容を復習すること。	時間	45 分
------	---------------	----	------

事後学習	今回の授業内容について、自身の音楽活動とのかかわりやつながりという観点から考察すること。	時間	45 分
------	--	----	------

【オフィスアワー】

授業前後: 仙川教員室

音楽学特殊研究 A①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	友利 修 特任教授		曜日時限	火 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

「新しい音楽学」の大きな流れに随伴し 1980 年代から復権した、音楽記号学、トピック論、叙述理論・物語論、間テキスト論、解釈学的アプローチなどの名の下に遂行された音楽作品の「意味」への分析的アプローチを、具体的な先行研究の例とともに理解し、現在までのその発展について知る。後期は前期の基礎的内容を Text - Intertext - Context という観点から整理しなおし、ジャンルをポピュラーに広げ、より詳しい具体的な楽曲の分析を先行研究とともに見ていく。

【到達目標】

音楽学の諸分野とその研究動向を幅広く理解するための学習の一環とし、特に最新の研究動向についての概観を得ながら、具体的な手法を学び、それらが自らの研究で応用できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

西洋音楽史についての基礎知識、楽譜を用いた分析の基礎的態度。多用な楽曲に感性の開かれた耳。

【授業の形式】

講義内容に基いて、積極的なディスカッションへの参加を求めます。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.「音楽の意味」への分析的アプローチ： 1980 年代の転換 1 形式主義から意味への問いへ

事前学習	音楽の分析とは何か、音楽分析に求められるものについての考えを、自分のこれまでの具体的な経験とともに整理し、授業内で簡単に発表できるように、準備しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

2.「音楽の意味」への分析的アプローチ： 1980 年代の転換 2 記号論的アプローチの独立

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

3.音楽に意味を聴く手がかり：トピック論をめぐって 1 — 発展の概観と主要著作

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

4.音楽に意味を聴く手がかり：トピック論をめぐって 2 — 分析へのいくつかの応用例を通して効用と問題点をかいま見る

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

5.音楽に意味を聴く手がかり：トピック論をめぐって 3 — トピック論の基礎づけと理論的展開。Monelle と Hatten

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

6.音楽形式に意味を聞く：ナラティヴィティ論をめぐって 1 — ドラマとしてのソナタ形式論から「物語性」の型の意識へ

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

7.音楽形式に意味を聞く：ナラティヴィティ論をめぐって 2 — 「ドラマ」から「物語性」の型の認識の確立へ

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

8.ナラティヴィティ論をめぐって 3 — ナラティヴィティの認識からナラトロジーの方法論(のカオス)へ

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

9.ナラティヴィティ論をめぐって 4 — 古典的論文の紹介 Tarasti

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

10.「外部」と間テキスト性 1 — 音楽における間テキスト性の概念、先行研究事例の概観

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

11.「外部」と間テキスト性 2 — 間テキスト性を通した外部と内部への問い

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

12.音楽に織り込まれる「外部」：自然、生、性、社会あるいは解釈学 — Kramer, Kramer, Kramer、シューベルトのセクシュアリティについての議論が開いたもの

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

13.総合的事例研究—リスト《巡礼の年 第1年 スイス》を例に

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

14.総合的事例研究—Madonna

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

15.全体のまとめと今後への展望

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.音楽の理解における Text - Intertext - Context

事前学習	前期の内容を十分に復習しておくこと。	時間	
------	--------------------	----	--

事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	
------	---	----	--

2.Abba 《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 1

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

3.Abba 《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 2

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

4.Abba 《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 3

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

5.Abba 《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 4

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

6.Madonna《Lucky Star – Hung Up: From the Confession Tour 2006》 1

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

7.Madonna《Lucky Star – Hung Up: From the Confession Tour 2006》 2

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

8.パラテキスト論と音楽 1 Gérard Genette のパラテキスト論

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

9.パラテキスト論と音楽 1 音楽におけるパラテキストの広がり

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

10.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》1

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

11.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》2

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

12.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》3

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

13.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》4

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

14.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》5

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

15.全体のまとめと今後への展望

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	

【オフィスアワー】

火曜日、調布教室にて授業前後に時間を確保します。

【その他】

教材は Google Classroom にて適宜アップロード、指定する。

音楽学特殊研究 A②(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	友利 修 特任教授		曜日時限	火 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

「新しい音楽学」の大きな流れに随伴し 1980 年代から復権した、音楽記号学、トピック論、叙述理論・物語論、間テキスト論、解釈学的アプローチなどの名の下に遂行された音楽作品の「意味」への分析的アプローチを、具体的な先行研究の例とともに理解し、現在までのその発展について知る。後期は前期の基礎的内容を Text - Intertext - Context という観点から整理しなおし、ジャンルをポピュラーに広げ、より詳しい具体的な楽曲の分析を先行研究とともに見ていく。

【到達目標】

音楽学の諸分野とその研究動向を幅広く理解するための学習の一環とし、特に最新の研究動向についての概観を得ながら、具体的な手法を学び、それらが自らの研究で応用できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

西洋音楽史についての基礎知識、楽譜を用いた分析の基礎的態度。多用な楽曲に感性の開かれた耳。

【授業の形式】

講義内容に基いて、積極的なディスカッションへの参加を求めます。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.「音楽の意味」への分析的アプローチ: 1980 年代の転換 1 形式主義から意味への問いへ

事前学習	音楽の分析とは何か、音楽分析に求められるものについての考えを、自分のこれまでの具体的な経験とともに整理し、授業内で簡単に発表できるように、準備しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

2.「音楽の意味」への分析的アプローチ: 1980 年代の転換 2 記号論的アプローチの独立

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

3.音楽に意味を聴く手がかり: トピック論をめぐる 1 — 発展の概観と主要著作

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

4.音楽に意味を聴く手がかり: トピック論をめぐる 2 — 分析へのいくつかの応用例を通して効用と問題点をかいま見る

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

5.音楽に意味を聴く手がかり: トピック論をめぐる 3 — トピック論の基礎づけと理論的展開。Monelle と Hatten

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

6.音楽形式に意味を聞く: ナラティヴィティ論をめぐる 1 — ドラマとしてのソナタ形式論から「物語性」の型の意識へ

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

7.音楽形式に意味を聞く: ナラティヴィティ論をめぐる 2 — 「ドラマ」から「物語性」の型の認識の確立へ

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

8.ナラティヴィティ論をめぐる 3 — ナラティヴィティの認識からナラトロジーの方法論(のカオス)へ

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

9.ナラティヴィティ論をめぐる 4 — 古典的論文の紹介 Tarasti

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

10.「外部」と間テキスト性 1 — 音楽における間テキスト性の概念、先行研究事例の概観

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

11.「外部」と間テキスト性 2 — 間テキスト性を通じた外部と内部への問い

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

12.音楽に織り込まれる「外部」：自然、生、性、社会あるいは解釈学 — Kramer, Kramer, Kramer、シューベルトのセクシュアリティについての議論が開いたもの

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

13.総合的事例研究—リスト《巡礼の年 第1年 スイス》を例に

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

14.総合的事例研究—Madonna

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

15.前期全体のまとめと今後への展望

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.音楽の理解における Text – Intertext – Context

事前学習	前期の内容を十分に復習しておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

2.Abba 《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 1

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

3.Abba 《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 2

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

4.Abba 《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 3

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参	時間	45 分

	照しながら、丁寧に復習すること。		
--	------------------	--	--

5.Abba《Fernando》(Philip Tagg の分析によりながら) 4

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

6.Madonna《Lucky Star – Hung Up: From the Confession Tour 2006》1

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

7.Madonna《Lucky Star – Hung Up: From the Confession Tour 2006》2

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

8.パラテキスト論と音楽 1 Gérard Genette のパラテキスト論

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

9.パラテキスト論と音楽 1 音楽におけるパラテキストの広がり

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

10.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》1

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

11.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》2

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

12.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》3

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

13.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》4

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参	時間	45 分

	照しながら、丁寧に復習すること。		
--	------------------	--	--

14.リスト《巡礼の年 第1年 スイス》5

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

15.全体のまとめと今後への展望

事前学習	前回の授業内で予告した論文および楽曲の楽譜、音源に馴染んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	授業内で配布した研究者らの著作、論文からのレジュメを、扱われた楽曲を参照しながら、丁寧に復習すること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

火曜日、調布教室にて授業前後に時間を確保します。

【その他】

教材は Google Classroom にて適宜アップロード、指定する。

音楽学特殊研究 B①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	上尾 信也 講師		曜日時限	水 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

吟遊詩人・楽師と楽器

文学史、音楽史、演劇史で各個に議論されていた中世の芸能者を分析する。特に、①文芸や音楽の創作者・技芸者として、②技芸のみならず情報の媒介者として、③近代の歴史観・芸術観では毀誉褒貶の社会的存在として、「吟遊詩人」を考察する。同時に彼らの用いた声と楽器の社会的意味についても調査、考察する

【到達目標】

- ・ヨーロッパ中世史に関する中世主義史観に対する考察の成果を俯瞰し読解できる。
- ・概要で提示したテーマやキーワードを通して、時間軸を超えた問題意識を提示できる。
- ・各回の授業で与えられたテーマについて、調査・検討し自らの見解を提示できる。
- ・説得力のある文章表現で与えられた課題について表現できる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

とくになし

【授業の形式】

講義を中心に、ディスカッションと各自の調査報告をまじえて進行する

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%		50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時および Classroom でフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.1: 歴史学と史料－ファクト、フィクタ、ディクタ

ファクトとフィクション、文献・非文献資料と提起された歴史像の変容

事前学習	池上俊一『歴史学の作法』東京：東京大学出版会、2022 小澤 実／佐藤雄基『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学－歴史を捉え、書き、編む』東京：東京大学出版会、2025 といった参考文献をざっと読んでおく。	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

2.2: 歴史観と時代区分

比較史の視点／ヨーロッパの内と外／近代の問題

事前学習	ウィンストン・ブラック、大貫俊夫（監訳）『中世ヨーロッパ－ファクトとフィクション』平凡社、2021 岩井淳（編）『複合国家から読み解く世界史：「国民国家史観」再考』東京：山川出版社、2024 などの参考文献をざっと読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

3.3: 中世・中世主義とは何か

事前学習	『西洋中世文化事典』を楽しむ！！ https://newspicks.com/topics/enjoyemec/ 岩波「ヨーロッパの中世」シリーズ:特に佐藤彰一『中世世界とは何か』(ヨーロッパの中世 1)、2008;小澤実, 薩摩秀登, 林邦夫『辺境のダイナミズム』2009;堀越宏一『ものと技術の弁証法』2009;大黒俊二『声と文字』などの参考文献を読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

4.4: 中世主義の叙述と表現

大文字の歴史学と社会史・文化史、基盤と階層、表象と表現、絵画と音楽、主題と変奏

事前学習	参考文献などを再読する	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

5.5: 歴史の表現としての映画

映画の力、補綴的記憶、リアリズムの相克

事前学習	戦争映画について調べておく	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

6.6: 映画と中世主義

中世映画に見る史実との落差と現在

事前学習	図師宣忠(編著)『映画で味わう中世ヨーロッパ―歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』京都:ミネルヴァ書房 2024 などの参考文献を読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

7.7:「吟遊詩人」の中世史―トルバドゥールとミンネジンガーという「伝説」

フランス中世文学史の中のトルバドゥール、ドイツ中世文学史の中のミンネジンガー

事前学習	上尾信也『吟遊詩人増補改訂版』新紀元社、2026)◆第1章 歴史の中の吟遊詩人を読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

8.8: 史料―ダンテ『神曲』、「ヴィダス」(伝記)、マネッセ歌謡写本

トルバドゥール写本からみる、トルバドゥールの生きたとされる時代と150年後の写本が成立する時代の落差

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』◆第2章 トルバドゥールの世界を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

9.9: トルバドゥールの歌、十字軍の物語

トルバドゥールの多くが参加した十字軍の物語化について

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』◆第2章 トルバドゥールの世界◆第3章 トルバドゥール列伝を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

10.10: ミネジジガーの調べ、マイスタージジガーの歌謡

文学史と口承歌謡

事前学習	井出万秀『ドイツ中世文学史』東京：郁文堂 2025 兵藤裕己『物語伝承論』東京：青土社、2025 などの参考文献、教科書『吟遊詩人増補改訂版』◆第4章 ミネジジガーの世界を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

11.11: 聖母マリアのカンティーガスー楽器の中世史

事前学習	浅香武和(編著)、浅野ひとみ、杉本ゆり、上尾信也『カンティガス・デ・サンタ・マリアへの誘いー聖母マリア頌歌集』東京：論創社 2023:第七章『聖母マリア頌歌集』エスコリアルE 写本にみる中世の楽器と楽師について(上尾信也)、教科書『吟遊詩人増補改訂版』◆第1章 歴史の中の吟遊詩人を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

12.12: 遊芸人の系譜ージョングルール

歌謡・芸能を伝える者、古代から近代までの芸能者の系譜

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』◆第6章 吟遊詩人とは、を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

13.13: ジョングルールの声ー「bon son」と「dolce melos」

声や歌がことば以上に伝えるもの

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』増補第7章ジョングルールの声を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

14.14: 中世の音は聞こえないー五感の歴史学へ

感情・感性の歴史学 総論:感性の歴史コルバンから感情社会学まで

中世の感情表現

文献 文字と書物

非文献 声と音・音楽、色と衣、表象、

事前学習	教科書とレジュメ、参考文献などを再読する	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめたものを中心に、報告の準備をする	時間	60 分

15.報告とまとめ

事前学習	調査報告の資料を作る	時間	60 分
事後学習	報告後のディスカッションを基に報告書をまとめる	時間	30 分

【授業展開と内容-後期】

1.「楽器」 Musical Instruments: real or fantasy

楽器学の方法:楽器学 残存する楽器の復元と現代の楽器からの推測、文献史料・図像資料などからの復元。

リアリティかファンタジーか

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

2.音楽の記憶と記録

種の記憶、リズム、ポリリズム

集団、メロディーと個

経験による音楽

よい響きを求める(包まれ感、母胎、性的快楽)への感性

良い響きのためのメリスマ歌唱、器楽の装飾オーナメンテーション、と持続低音あるいはドローン

オルガヌムとは響き

――

考古学

骨製フルート、人類最古の楽器と判明 | ナショナル ジオグラフィック日本版サイト

事前学習	https://share.google/WdKHVCTWMqj89eSv など事前配布資料を読む	時間	
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

3.古代の楽器 Musical Instruments of the Ancient Greek and Rome

アンフォラの楽器 ギリシア file 1 file 1-1 古代ユーラシア、1-2 ギリシアとローマ

インドルスの楽器 ローマ file 2 インドルスの楽器論

アウロス

リラ

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

4.聖書の楽器 Musical Instruments of the Bible

詩篇と黙示録 file 3 file3-1 詩編の楽器、3-2 黙示録の楽器

栄光の門の楽器

キタラ

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

5.図像史料の比較

1 ユトレヒト詩篇とシュトゥットガルト詩篇のキタラ

インドルス『語源』の記述は典拠か。

リアル(答え合わせ)としての栄光の門と聖母マリアのカンティーガス写本

2 ヴィルドゥングとプレトリウスの楽器

聖書、古代、海外

3 楽器の復興と発達

近代の古代楽器と個性楽器

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

6.歌謡の楽器 Musical Instruments in the Medieval Europe

聖母マリアのカンティーガスの楽器

トルバドゥールとミンネジンガーの楽器

ヴィダス写本とマネッセ写本

ヴィエール

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

7.天使の奏楽というファンタジー

天使の奏楽

ムミンクとヴェネツィア派

象徴としての楽器

聴覚—五感

性と死

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

8.ルネサンスとバロック＝楽器の革新期

ルネサンスとはなにか

ルネサンス概念—音楽史の時代区分、近代音楽史学の歪み(ゆがみとひずみ)

事前学習	事前配布資料『西洋中世研究』6「音楽史におけるルネサンス再考——作曲家と作品の「越地域性」をめぐって」(上尾信也)を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

9.演奏の楽器～楽器・楽譜・演奏指南書 Musical Instruments of the Renaissance

ヴィルドゥングからプレトリウスまで

演奏の楽器 1

16 世紀の楽器群

オルガン

ショーム(管楽器)

鍵盤楽器(クラヴィコード、チェンバロ)

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

10. 鍵盤／楽譜／ユーラシア～楽器をめぐる諸問題

ヒュドラリウスかパイプオルガンか What was pipe-organ? ～鍵盤とは何か

声楽譜と奏法譜—楽譜を見て演奏するのか、演奏を書き写したのか Notation and Music Play

ユーラシアとケルト、ビザンツとイスラームルーツを探せ What is the origine?～撥弦と弓奏擦弦の謎

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

11. 19世紀前半の音楽カタログから見える楽器

ピアノ／ハープ／ギター

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

12. オーケストラの楽器のリアリティ

コンサートのレパートリーから

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

13. ピアノへの道

産業革命と帝国主義

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

14. 楽器のその後

19 世紀のファンタジー 堅琴

リラの寓意

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめたものを中心に、報告の準備をする	時間	60 分

15.まとめと報告

事前学習	調査報告の資料を作る	時間	30 分
事後学習	報告後のディスカッションを基に報告書をまとめる	時間	60 分

【オフィスアワー】

水曜日 5 時限後に時間を確保します

【テキスト】

1.吟遊詩人 増補改訂版 上尾信也 2026 年

備考:3 月刊行

【教材】

参考文献

『西洋中世文化事典』を楽しむ！！<https://newspicks.com/topics/enjoyemec/>

岩波「ヨーロッパの中世」シリーズ:特に佐藤彰一『中世世界とは何か』(ヨーロッパの中世 1)、2008;小澤実, 薩摩秀登, 林邦夫『辺境のダイナミズム』(ヨーロッパの中世3)、2009;堀越宏一『ものと技術の弁証法』(ヨーロッパの中世5)、2009;大黒俊二『声と文字』(ヨーロッパの中世 6)、2010;原野昇、木俣元一『芸術のトポス』(ヨーロッパの中世7)、2009;池上俊一『儀礼と象徴の中世』(ヨーロッパの中世8)、2008

池上俊一『歴史学の作法』東京:東京大学出版会、2022

小澤 実/佐藤雄基『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学ー歴史を捉え、書き、編む』東京:東京大学出版会、2025

ウインストン・ブラック、大貫俊夫(監訳)『中世ヨーロッパファクトとフィクション』平凡社、2021

Speculum: A Journal of Medieval Studies, 100-1 (2025 Jan.) Special issue: Medieval Studies and Its Institutions

<https://www.journals.uchicago.edu/toc/spc/current>

岩井淳(編)『複合国家から読み解く世界史:「国民国家史観」再考』東京:山川出版社、2024

図師宣忠(編著)『映画で味わう中世ヨーロッパー歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』京都:ミネルヴァ書房 2024

井出万秀『ドイツ中世文学史』東京:郁文堂 2025

兵藤裕己『物語伝承論』東京:青土社、2025

浅香武和(編著)、浅野ひとみ、杉本ゆり、上尾信也『カンティガース・デ・サンタ・マリアへの誘いー聖母マリア頌歌集』東京:論創社、2023

Clouzot, Martine, Le Jongleur Memoire de L'Image Au Moyen Age: Figures, Figurations Et Musicalite Dans Les Manuscrits

Enlumines (1200–1330), Bern et al.:Peter Lang, 2011

Rastall, Richard, Minstrels and Minstrelsy in Late Medieval England, with Andrew Taylor, Woodbridge: Boydell, 2023

Ziolkowski, Jan M., The Juggler of Notre Dame and the Medievalizing of Modernity, 6 vols., Cambridge, UK: Open Book, 2018

Ziolkowski, Jan M., Reading the Juggler of Notre Dame: Medieval Miracles and Modern Remakings. Cambridge: Open Book Publishers, 2022.

【その他】

参考文献は、事前学習欄の参照のほか、各授業で指示します。また配布資料は Classroom であらかじめ共有します

音楽学特殊研究 B②(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 上尾 信也 講師			曜日時限		水 5 時限
実施キャンパス 調布	単位	各 2 単位		対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

吟遊詩人・楽師と楽器

文学史、音楽史、演劇史で各個に議論されていた中世の芸能者を分析する。特に、①文芸や音楽の創作者・技芸者として、②技芸のみならず情報の媒介者として、③近代の歴史観・芸術観では毀誉褒貶の社会的存在として、「吟遊詩人」を考察する。同時に彼らの用いた声と楽器の社会的意味についても調査、考察する

【到達目標】

- ・ヨーロッパ中世史に関する中世主義史観に対する考察の成果を俯瞰し読解できる。
- ・概要で提示したテーマやキーワードを通して、時間軸を超えた問題意識を提示できる。
- ・各回の授業で与えられたテーマについて、調査・検討し自らの見解を提示できる。
- ・説得力のある文章表現で与えられた課題について表現できる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

とくになし

【授業の形式】

講義を中心に、ディスカッションと各自の調査報告をまじえて進行する

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%		50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時および Classroom でフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.1: 歴史学と史料ーファクト、フィクタ、ディクタ

ファクトとフィクション、文献・非文献資料と提起された歴史像の変容

事前学習	池上俊一『歴史学の作法』東京：東京大学出版会、2022 小澤 実／佐藤雄基『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学ー歴史を捉え、書き、編む』東京：東京大学出版会、2025 といった参考文献をざっと読んでおく。	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

2.2: 歴史観と時代区分

比較史の視点／ヨーロッパの内と外／近代の問題

事前学習	ウィンストン・ブラック、大貫俊夫（監訳）『中世ヨーロッパーファクトとフィクション』平凡社、2021 岩井淳（編）『複合国家から読み解く世界史：「国民国家史観」再考』東京：山川出版社、2024 などの参考文献をざっと読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

3.3: 中世・中世主義とは何か

事前学習	『西洋中世文化事典』を楽しむ！！ https://newspicks.com/topics/enjoyemec/ 岩波「ヨーロッパの中世」シリーズ：特に佐藤彰一『中世世界とは何か』〈ヨーロ	時間	60 分
------	---	----	------

	ツパの中世 1)、2008;小澤実, 薩摩秀登, 林邦夫『辺境のダイナミズム』2009;堀越宏一『ものと技術の弁証法』2009;大黒俊二『声と文字』などの参考文献を読む		
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

4.4: 中世主義の叙述と表現

大文字の歴史学と社会史・文化史、基盤と階層、表象と表現、絵画と音楽、主題と変奏

事前学習	参考文献などを再読する	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

5.5: 歴史の表現としての映画

映画の力、補綴的記憶、リアリズムの相克

事前学習	戦争映画について調べておく	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

6.6: 映画と中世主義

中世映画に見る史実との落差と現在

事前学習	図師宣忠(編著)『映画で味わう中世ヨーロッパ―歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』京都:ミネルヴァ書房 2024 などの参考文献を読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

7.7:「吟遊詩人」の中世史―トルバドゥールとミンネジガーという「伝説」

フランス中世文学史の中のトルバドゥール、ドイツ中世文学史の中のミンネジガー

事前学習	上尾信也 『吟遊詩人増補改訂版』新紀元社、2026) ◆第 1 章 歴史の中の吟遊詩人を読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

8.8: 史料―ダンテ『神曲』、「ヴィダス」(伝記)、マネッセ歌謡写本

トルバドゥール写本からみる、トルバドゥールの生きたとされる時代と 150 年後の写本が成立する時代の落差

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』◆第 2 章 トルバドゥールの世界を読む	時間	60 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30 分

9.9: トルバドゥールの歌、十字軍の物語

トルバドゥールの多くが参加した十字軍の物語化について

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』◆第2章 トルバドゥールの世界◆第3章 トルバドゥール列伝を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

10.10: ミネジグーの調べ、マイスタージグーの歌謡

文学史と口承歌謡

事前学習	井出万秀『ドイツ中世文学史』東京：郁文堂 2025 兵藤裕己『物語伝承論』東京：青土社、2025 などの参考文献、教科書『吟遊詩人増補改訂版』◆第4章 ミネジグーの世界を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

11.11: 聖母マリアのカンティガースー楽器の中世史

事前学習	浅香武和(編著)、浅野ひとみ、杉本ゆり、上尾信也『カンティガース・デ・サンタ・マリアへの誘いー聖母マリア頌歌集』東京：論創社 2023:第七章『聖母マリア頌歌集』エスコリアル E 写本にみる中世の楽器と楽師について(上尾信也)、教科書『吟遊詩人増補改訂版』◆第1章 歴史の中の吟遊詩人を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

12.12: 遊芸人の系譜ージョングルー

歌謡・芸能を伝える者、古代から近代までの芸能者の系譜

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』◆第6章 吟遊詩人とは、を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

13.13: ジョングルーの声ー「bon son」と「dolce melos」

声や歌がことば以上に伝えるもの

事前学習	『吟遊詩人増補改訂版』増補第7章ジョングルーの声を読む	時間	60分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	30分

14.14: 中世の音は聞こえないー五感の歴史学へ

感情・感性の歴史学 総論:感性の歴史コルバンから感情社会学まで

中世の感情表現

文献 文字と書物

非文献 声と音・音楽、色と衣、表象、

事前学習	教科書とレジュメ、参考文献などを再読する	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめたものを中心に、報告の準備をする	時間	60 分

15. 報告とまとめ

事前学習	調査報告の資料を作る	時間	60 分
事後学習	報告後のディスカッションを基に報告書をまとめる	時間	30 分

【授業展開と内容-後期】

1. 「楽器」 Musical Instruments: real or fantasy

楽器学の方法: 楽器学 残存する楽器の復元と現代の楽器からの推測、文献史料・図像資料などからの復元。

リアリティかファンタジーか

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

2. 音楽の記憶と記録

種の記憶、リズム、ポリリズム

集団、メロディーと個

経験による音楽

よい響きを求める(包まれ感、母胎、性的快楽)への感性

良い響きのためのメリスマ歌唱、器楽の装飾オーナメンテーション、と持続低音あるいはドローン

オルガヌムとは響き

――

考古学

骨製フルート、人類最古の楽器と判明 | ナショナル ジオグラフィック日本版サイト

事前学習	https://share.google/WdKHVCTWMqjJ89eSv など事前配布資料を読む	時間	
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

3. 古代の楽器 Musical Instruments of the Ancient Greek and Rome

アンフォラの楽器 ギリシア file 1 file 1-1 古代ユーラシア、1-2 ギリシアとローマ

アウロス

リラ

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

4.聖書の楽器 Musical Instruments of the Bible

詩篇と黙示録 file 3 file3-1 詩編の楽器、3-2 黙示録の楽器

栄光の門の楽器

キタラ

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

5.図像史料の比較

1 ユトレヒト詩篇とシュトゥットガルト詩篇のキタラ

インドルス『語源』の記述は典拠か。

リアル(答え合わせ)としての栄光の門と聖母マリアのカンティーガス写本

2 ヴィルドゥングとプレトリウスの楽器

聖書、古代、海外

3 楽器の復興と発達

近代の古代楽器と個性楽器

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

6.歌謡の楽器 Musical Instruments in the Medieval Europe

聖母マリアのカンティーガスの楽器

トルバドゥールとミンネジンガーの楽器

ヴィダス写本とマネッセ写本

ヴィエール

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

7.天使の奏楽というファンタジー

天使の奏楽

ムミンクとヴェネツィア派

象徴としての楽器

聴覚—五感

性と死

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

8.ルネサンスとバロック＝楽器の革新期

ルネサンスとはなにか

ルネサンス概念—音楽史の時代区分、近代音楽史学の歪み(ゆがみとひずみ)

事前学習	事前配布資料『西洋中世研究』6「音楽史におけるルネサンス再考——作曲家と作品の「越地域性」をめぐって」(上尾信也)を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

9.演奏の楽器～楽器・楽譜・演奏指南書 Musical Instruments of the Renaissance

ヴィルドゥングからプレトリウスまで

演奏の楽器 1

16 世紀の楽器群

オルガン

ショーム(管楽器)

鍵盤楽器(クラヴィコード、チェンバロ)

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

10.鍵盤／楽譜／ユーラシア～楽器をめぐる諸問題

ヒュドラリウスかパイプオルガンか What was pipe-organ? ～鍵盤とは何か

声楽譜と奏法譜―楽譜を見て演奏するのか、演奏を書き写したのか Notation and Music Play

ユーラシアとケルト、ビザンツとイスラームルーツを探せ What is the origine?～撥弦と弓奏擦弦の謎

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

11.19世紀前半の音楽カタログから見える楽器

ピアノ／ハープ／ギター

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

12.オーケストラの楽器のリアリティ

コンサートのレパートリーから

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

13.ピアノへの道

産業革命と帝国主義

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
事後学習	授業内容をまとめておく。不明な点や関心を持った点について調査、考察する。	時間	60 分

14.楽器のその後

19 世紀のファンタジー 堅琴

リラの寓意

事前学習	事前配布資料を読む	時間	30 分
------	-----------	----	------

事後学習	授業内容をまとめたものを中心に、報告の準備をする	時間	60 分
------	--------------------------	----	------

15.まとめと報告

事前学習	調査報告の資料を作る	時間	30 分
事後学習	報告後のディスカッションを基に報告書をまとめる	時間	60 分

【オフィスアワー】

水曜日 5 時限後に時間を確保します

【テキスト】

1.吟遊詩人 増補改訂版 上尾信也 2026 年

備考:3 月刊行

【教材】

参考文献

『西洋中世文化事典』を楽しむ！！<https://newspicks.com/topics/enjoyemec/>

岩波「ヨーロッパの中世」シリーズ:特に佐藤彰一『中世世界とは何か』〈ヨーロッパの中世 1〉、2008;小澤実, 薩摩秀登, 林邦夫『辺境のダイナミズム』(ヨーロッパの中世3)、2009;堀越宏一『ものと技術の弁証法』(ヨーロッパの中世5)、2009;大黒俊二『声と文字』(ヨーロッパの中世 6)、2010;原野昇, 木俣元一『芸術のトポス』(ヨーロッパの中世7)、2009;池上俊一『儀礼と象徴の中世』(ヨーロッパの中世8)、2008

池上俊一『歴史学の作法』東京:東京大学出版会、2022

小澤 実/佐藤雄基『グローバルヒストリーのなかの近代歴史学ー歴史を捉え、書き、編む』東京:東京大学出版会、2025

ウィンストン・ブラック、大貫俊夫(監訳)『中世ヨーロッパファクトとフィクション』平凡社、2021

Speculum: A Journal of Medieval Studies, 100-1 (2025 Jan.) Special issue: Medieval Studies and Its Institutions

<https://www.journals.uchicago.edu/toc/spc/current>

岩井淳(編)『複合国家から読み解く世界史:「国民国家史観」再考』東京:山川出版社、2024

図師宣忠(編著)『映画で味わう中世ヨーロッパー歴史と伝説が織りなす魅惑の世界』京都:ミネルヴァ書房 2024

井出万秀『ドイツ中世文学史』東京:郁文堂 2025

兵藤裕己『物語伝承論』東京:青土社、2025

浅香武和(編著)、浅野ひとみ、杉本ゆり、上尾信也『カンティガース・デ・サンタ・マリアへの誘いー聖母マリア頌歌集』東京:論創社、2023

Clouzot, Martine, Le Jongleur Memoire de L'Image Au Moyen Age: Figures, Figurations Et Musicalite Dans Les Manuscrits Enlumines (1200-1330), Bern et al.:Peter Lang, 2011

Rastall, Richard, Minstrels and Minstrelsy in Late Medieval England, with Andrew Taylor, Woodbridge: Boydell, 2023

Ziolkowski, Jan M., The Juggler of Notre Dame and the Medievalizing of Modernity, 6 vols., Cambridge, UK: Open Book, 2018

Ziolkowski, Jan M., Reading the Juggler of Notre Dame: Medieval Miracles and Modern Remakings. Cambridge: Open Book Publishers, 2022.

【その他】

参考文献は、事前学習欄の参照のほか、各授業で指示します。また配布資料は Classroom であらかじめ共有します

歌曲伴奏研究①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 星野 明子 講師			曜日時限		金 3 時限
実施キャンパス 調布	単位	各 1 単位		対象年次	修士 1 年

【授業の概要】

歌曲のピアノパートに求められている表現、演奏法を学ぶ。

共演者としてどのように歌曲にアプローチするか、どのように歌をサポートして歌曲の世界を立体的に創り上げていくか…歌い手とピアニストがお互いのパートを理解をしながら合同で進める実践的な授業。詩人の描いた世界を作曲家が音楽として立ち上げて歌曲が成立する＝文学と音楽の密接な関係を理解してピアノに求められる事柄などを改めて意識したい。作曲家の描いた歌曲の世界を如何に立体的に創り上げて行くかを研究する。

【到達目標】

・ドイツ歌曲の系譜をたどりつつ、自然と人間、憧れと神秘などロマン派の詩作、歌曲を中心に取り上げる。その哲学、語法を学び、音色や表現法等を丁寧に研究することにより、音楽を深く理解して演奏できるようになる。

・歌とピアノの合同授業なので、お互いのパートへの理解を深めて良いアンサンブルができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

＜履修資格＞ピアノコース、声楽コース その他ドイツ歌曲に素養のある学生

＜履修に必要な予備知識＞楽譜を読む事は勿論、予め詩の内容を把握して授業に臨むこと。

詩と作曲、詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。

【授業の形式】

「公開レッスン形式の授業」及び「演奏会形式の発表」から成る。

各日の演奏担当者は、担当曲について口頭で発表してから、演奏をする。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%	30%	20%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の演奏に対しては、その場で注意事項を伝える。

学期末の支援会ではプログラムノートの提出を求める。プログラムノートは添削をして、一定レベルに達したものをクラス全体のプログラムノートとしてまとめて配布する。

【授業展開と内容-前期】

1.<ガイダンスと演奏担当者決め>

詩と音楽について: 歌曲におけるピアノの役割、表現の可能性について考える。

事前学習	歌曲とは…？詩と音楽、歌とピアノの関係について考えておくこと。	時間	30 分
事後学習	授業で学んだことを踏まえて、今後の学習に生かせるように整理しておくこと。	時間	60 分

2.W.A.Mozart 歌曲

- Das Veilchen (Goethe) K.476
- Abendempfindung an Laura (Campe) K.523
- Als Luise die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte (Baumberg) K.520

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

3.L.v.Beethoven 歌曲

- Adelaide (Matthisson) Op.46
- Wonne der Wehmut (Goethe) Op.83-1
- Andenken (Matthisson) WoO.136

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
------	---	----	------

事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分
------	--	----	------

4.F.Schubert 歌曲 1

- Gretchen am Spinnrade (Goethe) D118
- Heidenröslein (Goethe) D257
- Erlkönig (Goethe) D328

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

5.F.Schubert 歌曲 2

- Der Wanderer (S.v.Lübeck) D489
- Ganymed (Goethe) D544
- Frühlingsglaube (Uhland) D686

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

6.F.Schubert 歌曲 3

- Suleika I (Willemer) D720
- Suleika II (Willemer) D717

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

7.F.Schubert 歌曲 4

- Im Abendrot (Lappe) D799
- Die Junge Nonne(Seidl) D828
- Im Frühling (Schulze) D882

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。	時間	60 分
------	-----------------------------------	----	------

	・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。		
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

8.Schubert 歌曲の復習(予備日)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

9.R.Schumann: Myrthen Op.25 より

1.Widmung (Rückert)

3.Nußbaum (Mosen)

7.Du bist wie eine Blume(Heine)

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

10.R.Schumann: Myrthen Op.25 より

9. Lied der Suleika (Willemer)

11.Lied der Braut (Rückert)

24.Du bist wie eine Blume (Heine)

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

11.R.Schumann: Liederkreis Op.39 (J.Eichendorf)

1.In der Fremde

2.Intermezzo

3.Waldesgespräch

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

12.R.Schumann: Liederkreis Op.39 (J.Eichendorff)

4.Die Stille

5.Mondnacht

6.Schöne Fremde

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

13.R.Schumann: Liederkreis Op.39 (J.Eichendorff)

9. Wehmut

11. Im Walde

12. Frühlingsnacht

事前学習	・演奏する楽曲についてのプログラムノート提出を求める。(20 日程前) ・共演者と事前準備をしっかりして演奏に臨むこと。	時間	60 分
事後学習	演奏について振り返り、改善点を見つけて修正する。	時間	30 分

14.復習

事前学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	60 分
事後学習	改善点を見つけて修正する。	時間	30 分

15.演奏発表

事前学習	表現者として、それぞれの歌曲に込められた音楽を共演者と発表できるように演奏力を高める。	時間	30 分
事後学習	前期のまとめとして、授業で会得した事柄を他の楽曲でも応用できるように、更にしっかり復習をすること。	時間	60 分

【授業展開と内容-後期】

1.J.Brahms 歌曲 1

・Liebestreu (Reinick) Op.3-1

・Wie bist du meine Königin (Daumer) Op.32-9

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

2.J.Brahms 歌曲 2

- ・Von ewiger Liebe (Wenzig) Op.43-1
- ・Die Mainacht (Hölty) Op.43-2

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

3.J.Brahms 歌曲 3

- ・Botschaft (Daumer) Op.47-1
- ・Meine Liebe ist grün (F.Schumann) Op.63-5

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

4.J.Brahms 歌曲 4

- ・Geheimes (Candidus) Op.71-3
- ・Alte Liebe (Candidus) Op.72-1

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

5.J.Brahms 歌曲 5

- ・Wir wandelten (Daumer) Op.96-2
- ・Wie Melodien zieht es mir (Groth) Op.105-1

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

6.J.Brahms 歌曲 6

- ・Immer leiser wird mein Schlummer (Lingg) Op.105-2
- ・Auf dem Kirchhofe (Liliencron) Op.105-4
- ・Ständchen (Kugler) Op.106-1

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

7.R.Strauss 歌曲 1

- ・Zueignung(Gilm) Op.10-1
- ・Die Nacht (Gilm) Op.10-3
- ・Allerseelen (Gilm) Op.10-8

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

8.R.Strauss 歌曲 2

- ・Ständchen (Schack) Op.17-2
- ・All mein' Gedanken,mein Herz und mein Sinn (Dahn) Op.21-1
- ・Kornblumen (Dahn) Op.22-1

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

	する。		
--	-----	--	--

9.R.Strauss 歌曲 3

- Cäcilie (H.Hart) Op.27-2
- Heimliche Aufforderung(Mackay) Op.27-3
- Morgen! (Mackay) Op.27-4

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

10.R.Strauss 歌曲 4

- Schlagende Herzen (Bierbaum) Op.29-2
- Nachtgang (Bierbaum) Op.29-3

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

11.R.Strauss 歌曲 5

- Das Rosenband (Klopstock) Op.36-1
- Ich Schwebte (Henckell) Op.48-2

事前学習	・指定された楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

12.R.Strauss 歌曲 6

- Einerlei (Arnim) Op.69-3

•Schlechtes Wetter (Heine) Op.69-5

事前学習	・演奏する楽曲についてのプログラムノート提出を求める。(20 日程前) ・当日は、共演者と事前準備をしっかりと演奏に臨むこと。	時間	60 分
事後学習	演奏について振り返り、改善点を見つける。	時間	30 分

13.R.Strauss 歌曲 7

復習

事前学習	未消化な部分、疑問点等を整理しておくこと。	時間	30 分
事後学習	納得のいかない部分、疑問点等を整理して次の演奏に向けてよく消化しておくこと。	時間	60 分

14.演奏発表 (準備)

事前学習	表現者として、それぞれの歌曲に込められた音楽を共演者と発表できるように演奏力を高める。	時間	60 分
事後学習	演奏について振り返り、改善点を見つける。	時間	30 分

15.演奏発表

事前学習	表現者として、それぞれの歌曲に込められた音楽を共演者と発表できるように演奏力を高める。 1 年間の授業を振り返り、疑問点、納得のいかない点について整理しておくこと。	時間	30 分
事後学習	授業を通して学んだことを他の楽曲でも、自らの音楽、表現として応用できるように理解を深めておくこと。	時間	60 分

【オフィスアワー】

金曜日の授業前後は調布の教員室に居るので、質問がある場合は声がけしてください。

その他、随時、メールでの問い合わせに応じます。

【テキスト】

1.ドイツ歌曲の歴史 渡辺 譲 1997 年 ¥3,200 9784276131897

備考:音楽之友社

2.シューベルトの歌曲をたどって F.デイスカウ

原田茂生 訳 2012 年 ¥7,500 9784560082232

備考:白水社

3.冬の旅- 24 の象徴の森へ 梅津時比古 2007 年 ¥2,300 9784487802289

備考:東京書籍

4.R.シュトラウス歌曲全集 1

R.シュトラウス歌曲全集 2 K.Richter 監修

星野明子・大島博 訳 2014 年 ¥3,800 9784117148220

備考:全音楽譜出版社

5.シューマンとロマン主義の時代 M.Brion

喜多尾道冬・須磨一彦訳 1984 年 ¥3,500 4-87546-016-3

備考:国際文化出版社

(絶版:図書館参照)

6.詩に映るゲーテの生涯 柴田 翔 1996 年 ¥760 4-621-05186-5

備考:丸善

7.ヨーロッパの森から

-ドイツ民俗誌- 谷口幸男・福島正純・福居和彦 1981 年 ¥750 4140013974

備考:日本放送出版協会

(絶版:図書館参照)

8.シューマン

作曲家 -人と作品シリーズ- 藤本一子 2008 年 ¥1,400 978-4-276-22179-6 C1073

備考:音楽之友社

9.ブラームス

作曲家- 人と作品シリーズ- 西原 稔 2006 年 ¥1,400 4-276-22184-6 C1073

備考:音楽之友社

【その他】

Classroom 上に、楽譜を

歌曲伴奏研究②(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 星野 明子 講師			曜日時限		金 2 時限
実施キャンパス 調布	単位	各 1 単位		対象年次	修士 2 年

【授業の概要】

歌曲伴奏研究①で学んだことを基に更に内容の濃い表現、演奏法を学ぶ。

前期は、一つの詩に複数の作曲家が作曲している作品を取り上げ、作曲家の個性、書法とその時代を浮き彫りにしたい。

後期は、後期ロマン派とそれ以降の作品を取り上げる。詩と音楽の融合である歌曲をピアノ奏者と歌手それぞれが理解し合い、作曲家の描いた歌曲の世界を如何に立体的に創り上げて行くかを研究する。

【到達目標】

・文学と音楽の両面からその時代、哲学、語法等を学び、それに即した音色や表現法等を丁寧に研究することにより、音楽を深く理解できるようになる。

・歌とピアノの合同授業なので、それぞれのパートへの理解を深める事ができ、表現豊かな演奏ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

＜履修資格＞ピアノコース、声楽コース その他ドイツ歌曲に素養のある学生

＜履修に必要な予備知識＞楽譜を読む事は勿論、予め詩の内容を把握して授業に臨むこと。

詩と作曲、詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をすること。

【授業の形式】

「公開レッスン形式の授業」及び「演奏会形式の演奏発表」から成る。

演奏担当者は、作品について(詩と作曲、詩人と作曲家及びその時代等)口頭で発表してから演奏する。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%	30%	20%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

演奏については、毎回注意点を指摘する。

学期末の試演会では、プログラムノートの提出を求める。添削して返し、一定のレベルに仕上がったものを全員分のプログラムノートとしてまとめて配布する。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス

・詩と音楽について

・一つの詩に複数作曲されている作品の例を示し、担当曲、ペアを決める。

事前学習	詩と音楽の密接な関係、作曲家の個性、曲の様式など、1年次で学んだ事を整理しておくこと。	時間	30分
事後学習	授業で学んだことを踏まえて、今後の学習に生かせるように整理しておくこと。	時間	60分

2. Du bist wie eine Blume (Heinrich Heine)

• R. Schumann Op. 25-24

• F. Liszt S. 287

H. Wolf Er ist's (Eduard Mörike)

• R. Schumann Op. 79-24

• H. Wolf (Mörike Lieder 6)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30分

3. Ganymed (Johann Wolfgang von Goethe)

• F. Schubert D544 Op. 19-3

• H. Wolf (Goethe Lieder No. 50)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30分

4. An eine Äolsharfe (Eduard Mörike)

• J. Brahms Op. 19-5

• H. Wolf (Mörike Lieder 11)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60分
------	--	----	-----

事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分
------	--	----	------

5.Immer leiser wird mein Schlummer (Hermann Lingg)

・J.Brahms Op.105-2

・H.Pfitzner Op.2-6

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

6.Das Rosenband (Friedrich Gottlieb Klopstock)

F.Schubert D280

R.Strauss Op.36-1

A.v.Zemlinsky

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

7.同一詩の作品(予備日)

事前学習	個々の作曲家について、詩の捉え方の違い、書法など理解を深めておく。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

8.Wilhelm Meister より (Johann Wolfgang von Goethe)

Mignon Lieder

【F.Schubert】

事前学習	ゲーテの教養小説『ヴィルヘルムマイスターの修行時代から』『ミニヨン』を取り上げるのであらずだけでも読んでおくこと。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備	時間	60 分
------	--	----	------

	備すること。 演奏担当者は、それぞれの作曲家の『ミニヨン像』を明らかにする事により、作曲家の意図する音楽をしっかりと読みとって表現する。		
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

9.Wilhelm Meister より (Johann Wolfgang von Goethe)

Mignon Lieder

【R.Schumann】

事前学習	ゲーテの教養小説『ヴィルヘルムマイスターの修行時代から『ミニヨン』を取り上げるのであらずじだけでも読んでおくこと。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモティーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、それぞれの作曲家の『ミニヨン像』を明らかにする事により、作曲家の意図する音楽をしっかりと読みとって表現する	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

10.Wilhelm Meister より (Johann Wolfgang von Goethe)

Mignon Lieder

【H.Wolf】

事前学習	ゲーテの教養小説『ヴィルヘルムマイスターの修行時代から『ミニヨン』を取り上げるのであらずじだけでも読んでおくこと。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモティーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、それぞれの作曲家の『ミニヨン像』を明らかにする事により、作曲家の意図する音楽をしっかりと読みとって表現する	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

11.Wilhelm Meister より (Johann Wolfgang von Goethe)

復習(予備日)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモティーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、それぞれの作曲家の『ミニヨン像』を明らかにする事により、作曲家の意図する音楽をしっかりと読みとっておくこと。	時間	60 分
------	---	----	------

事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分
------	--	----	------

12.復習

事前学習	曲に対する理解と共感を深めて、共演者と共に演奏表現を追求する。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

13.演奏発表(準備)

事前学習	・演奏発表する楽曲についてのプログラムノート提出を求める。(20 日程前) ・共演者と事前準備をしっかりとて演奏に臨むこと	時間	60 分
事後学習	演奏について振り返り、改善点を見つけて修正する。	時間	30 分

14.復習

事前学習	内容への深い理解のために、再度楽譜の細かい部分まで読みとる。	時間	60 分
事後学習	更に詩と音楽への共感をもって共演者と演奏できるように準備する。	時間	30 分

15.演奏発表

事前学習	表現者としてそれぞれの歌曲に相応しい演奏ができるように、演奏力を高める。	時間	30 分
事後学習	個々の作曲家の詩の捉え方、音楽表現、その時代についての理解を深め、自らの音楽へ反映できるように研究する。	時間	60 分

【授業展開と内容-後期】

1.H.Wolf 歌曲 1a メーリケ歌曲集より

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかりと準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

2.H.Wolf 歌曲 1b メーリケ歌曲集より

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモチーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかりと準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

3.H.Wolf 歌曲 2 アイヒェンドルフ歌曲集より

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモティーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

4.H.Wolf 歌曲 3 スペイン歌曲集より

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモティーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

5.H.Wolf 歌曲 4 ゲーテ歌曲集より

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモティーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

6.H.Wolf 歌曲 5 イタリア歌曲集より

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩の韻律を意識してよく読んでくること。ドイツ語を履修していない人も、詩と邦訳を照らし合わせて、フレーズやモティーフ、音楽の展開を理解できるよう準備すること。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

7.G.Mahler 歌曲 1a

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
------	--	----	------

事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分
------	--	----	------

8.G.Mahler 歌曲 1b

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

9.H.Pfitzner 歌曲 1a

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

10.A.Berg 及び A.Schönberg 歌曲

(履修者に相応しい曲を選曲する)

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

11.自由課題

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・楽曲について、詩と音楽の両面から良く検討しておくこと。 ・演奏担当者は、自信を持って演奏に臨めるようにしっかり準備しておくこと。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ事を自らの音楽、表現として消化できるように理解を深め、勉強する。	時間	30 分

12.自由課題

事前学習	・詩人と作曲家及びその時代について考察・研究をする。 ・演奏する楽曲についてのプログラムノート提出を求める。(20 日程前) ・共演者と事前準備をしっかりとて演奏に臨むこと。	時間	60 分
事後学習	演奏について振り返り、改善点を見つけて修正する。	時間	30 分

13.復習

事前学習	未消化な部分、疑問点等を整理しておくこと。	時間	30 分
事後学習	授業での学びを踏まえ、更に理解を深めるよう研究する。	時間	60 分

14.演奏発表 1

事前学習	表現者としてそれぞれの歌曲に相応しい演奏ができるように、演奏力を高める。	時間	60 分
事後学習	演奏について振り返り、改善すべき点を修正する。	時間	30 分

15.演奏発表 2

事前学習	1 年間の学びを振り返り、疑問点、改善すべき点を整理しておく。	時間	30 分
事後学習	授業で得たことを、更に自身の音楽・表現として応用できるように研究を深める。	時間	60 分

【オフィスアワー】

金曜日の授業前後、調布の教員室に居るので声がけしてください。

随時、メールでの問い合わせにも応じます。

【テキスト】

1.ドイツ歌曲の歴史 渡辺 譲 著 1997 年 ¥3,200 9784276131897

備考:音楽之友社

2.ヴィルヘルムマイスターの修行時代 W.ゲーテ 各社版

備考:各社版

3.西東詩集 W.ゲーテ 各社版

備考:各社版

4.R.シュトラウス歌曲集 K.リヒター 監修

星野明子・大島博 訳 2014 年 ¥3,800 9784117148220

備考:全音楽譜出版社

5.世紀末芸術 高階秀爾 1963 年 ¥1,320 978-4-480-09158-1

備考:筑摩書房

(紀伊国屋書店より 1981 年

ISBN:978-4314003360)

6.世紀末ウィーン文化探求 西村雅樹 著 2009 年 ¥2,800 9784771020559

備考:晃洋書房

(絶版:図書館参照)

7.ドイツ名詩選 生野幸吉・桧山哲彦 1993 年 ¥1,067 4003246012

備考:岩波書店

【教材】

必要に応じて、その都度プリントを配布する。

歌曲演習 I (b)(後期)					
担当教員 大橋 ゆり 教授			曜日時限		水 4 時限
実施キャンパス 調布	単位	2 単位		対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

＜ドイツ歌曲＞

ドイツ歌曲を深く解釈して演奏表現が出来るようにする事を目的とする。ドイツ歌曲の系譜をたどりつつ、レパートリー作りを行う。各履修者の声質に合う作品を選び、ドイツ語の正しいディクシオン・詩の朗読法・作曲家ごとの様式感・歌唱法を学ぶ。最終授業において発表会を行う。

【到達目標】

ドイツ歌曲を深く解釈し演奏表現ができるようになる。ドイツ歌曲のレパートリーを増やせるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

履修対象： 声楽コース、ピアノコース、その他、担当教師が履修を認めた者

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1. ガイダンス、演習曲目決定、詩の朗読法

事前学習	既習のドイツ歌曲を確認すると共に、取り組みたい作曲家・曲目を考えておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

2.J.ブラームスの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

3.J.ブラームスの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

4.J.ブラームス、H.ヴォルフの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

5.H.ヴォルフの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

6.H.ヴォルフの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

7.H.ヴォルフの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

8.R.シュトラウスの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

9.R.シュトラウスの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

10.R.シュトラウス、A.シェーンベルクの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

11.A.ベルク、J.マルクスの歌曲

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

12.J.マルクスの歌曲、発表会のリハーサル

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

13.発表会のリハーサル

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

14.発表会のリハーサル

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

15.発表会、学習内容のまとめ

事前学習	指定された課題が演奏できるようにしておくこと。	時間	45 分
事後学習	授業で習得した技術や知識がどのように自分の実技に活かせるか、考えること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

水曜日 調布教室にて授業前後に時間を確保します。

歌曲演習Ⅱ(a)(前期)					
担当教員 太田 朋子 講師			曜日時限		水 4 時限
実施キャンパス 調布	単位	2 単位	対象年次	修士 1 年～	

【授業の概要】

〈フランス近代歌曲～主にグノーからプーランク～の演習〉フランス近代歌曲の作品を、作曲家・詩人・時代背景・様式感など

を展望しつつ、それぞれの声質や個性に合うレパートリーとして選び、演習する。

【到達目標】

- 1.歌唱のためのフランス語を、少なくとも発音記号に頼れば自力で発語できるようになる。
- 2.フランス近代歌曲の様式感を知った上での音楽表現ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

大学院修士課程 1 年以上。専攻を問わず、基本は歌唱を中心に授業に臨んでもらうが、ピアノ科の学生は希望があれば伴奏を演習してもよい。

フランス語の初歩的な知識があれば授業がわかりやすくなるので望ましいが、必須ではない。

【授業の形式】

演習形式。おおよそ1授業回に3組の公開レッスン形式をとる。演奏発表する学生に対し、教師が指導するほか、他の学生からのコメントや質問も交えて授業展開する。

演奏する作品については、発表する学生だけでなく、全員が作品について下調べをし、また歌詞を読めるようにする。自身が演奏発表する作品については、レポート(作品についてのコメント 800 字程度及び、歌詞(詩)の日本語訳)を提出する。シラバスに記載の作品は目安であり、各自が演習を希望するものを申し出ればできる限り対応する。その他、教師やピアニストに相談してください

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%	20%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

必要に応じて、次回授業時などにフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

- 1.第 1 回は、Ravel “Trois chansons”より《Trois beaux oiseaux du Paradis》を用いてフランス語の読み方を中心に講義・演習する。また、次回からの演習曲を割り振るので、声質を教師に知らせて欲しい。自ら演習したい曲がある場合も申し出ること。

事前学習	Ravel の《Trois beaux oiseaux du Paradis》を歌えるように(言葉は読めなくとも良い)してくる。音源などを聞いても良い(合唱曲にもなっている)。できる範囲で単語を辞書で調べておく。	時間	45 分
事後学習	《Trois beaux oiseaux du Paradis》を歌詞で歌えるようにする。その他、楽語も調べ、質問があれば準備しておく。	時間	45 分

- 2.前回の授業で勉強した Ravel の歌曲、及び、Gounod 《Viens! les gazons sont verts!》を中心に演習する。

調性は、今後特に記載のない限り自由とする。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

3.Duparc 《Chanson triste》を中心に演習する。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

4.Fauré 《Mandoline》を中心に演習する。

ト長調より低い調性にしないこと。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

5.Debussy 《Il pleure dans mon cœur (Ariettes oubliées)》を中心に演習する。原調(嬰ト短調＝シャープ五つ)が望ましい。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

6.Roussel 《Le Jardin mouillé》を中心に演習する。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

7.Chausson 《Le Colibri》を中心に演習する。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

8.Ravel 《Sainte》を中心に演習する。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

9.Satie 《Ludion》より、を中心に演習する。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

10.Poulenc 《Ce doux petit visage(女声)》、《La Grenouillère(男声)》を中心に演習する。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

11.これまでの授業で発表できなかった作品を演習する。

事前学習	提示された演習曲について、下調べをし、発音できるようにする。発表者は演奏準備、レポート作成。	時間	45 分
事後学習	演習した作品を見直し、課題のある箇所はよく復習して歌えるようにする。	時間	45 分

12.これまで発表した作品の中から、最終授業回に披露するものを選んで復習する。(この日までに、最終発表の作品を決めること)

事前学習	これまで発表したものを総復習する。	時間	45 分
事後学習	最終授業回に向けて、発表曲の完成度を高める。	時間	45 分

13.最終授業回に披露する作品を選んで復習する。

事前学習	これまで発表したものを総復習する。	時間	45 分
事後学習	最終授業回に向けて、発表曲の完成度を高める。	時間	45 分

14.次回の発表会のリハーサル。自由な質疑応答。

事前学習	発表曲を暗譜で歌えるようにする。	時間	45 分
事後学習	最終授業回に向けて、発表曲の完成度を高める。	時間	45 分

15.学習到達度の確認として、発表会形式で演奏する。

事前学習	この最終授業回を演奏会と捉え、歌唱は暗譜で、自身の表現ができるようにする。	時間	60 分
事後学習	前期を通じて知った作品を振り返り、今後のレパートリーを組み立てる。	時間	30 分

【オフィスアワー】

水曜日 調布教員室にて授業後に時間を確保します。

【教材】

「フランス歌曲の演奏と解釈」ピエール・ベルナック著/林田きみ子訳 音楽之友社

この書籍は絶版のため、図書館で探すこと。

様々な楽譜を使用するので、随時クラスルームを通じて提示されたものを、各自図書館などで探す。入手困難な場合は、教師に相談して欲しい。

【その他】

仏和辞典は必ず発音記号が付いているものを使用し、カタカナで発音表記のあるものは、この授業のためには使わないこと。

歌唱を目的として新たに購入する場合は、「大修館書店 新スタンダード仏和辞典」(この電子辞書はない)を推奨する。

台本研究(後期)					
担当教員 鈴木 准 准教授			曜日時限		木 4 時限
実施キャンパス 調布	単位	2 単位		対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

オペラ作品を演奏する上で必要な解釈を、台本へのアプローチを通して行う。具体的にはモーツァルト《コジ・ファン・トゥッテ》《魔笛》を中心に学ぶ。

演奏家としての経験を踏まえ教育を行う。

【到達目標】

オペラ作品の台本とその成立背景などを理解し、演奏に活用することができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

テキストとして指定する書籍の内容を理解し、議論を深めることができること。

【授業の形式】

講義を中心に行うが、それぞれの解釈を発表し話し合う場を設ける。

適宜、DVD、CD の鑑賞を行う。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	30%	70%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に

判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時以降にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1.導入～それぞれの役を歌い演じるために

事前学習	自分の好きなオペラを少なくとも 1作品選び、その理由をまとめておくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

2.モーツァルトのオペラ

時代ごとの変化とその特徴1

事前学習	モーツァルトのオペラ作品を時系列にまとめる。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

3.モーツァルトのオペラ

時代ごとの変化とその特徴2

事前学習	オペラ・セリア、オペラ・ブッフア、ジグシュピールについて簡潔にまとめる。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

4.《コジ・ファン・トゥッテ》1 成立と時代背景

事前学習	《コジ・ファン・トゥッテ》のあらすじをまとめる。また、自分が演じる可能性のある役を選び、その特徴をまとめておくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

5.《コジ・ファン・トゥッテ》2 台本作者ロレンツォ・ダ・ポンテについて

事前学習	ロレンツォ・ダ・ポンテについて可能な限り調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

6.《コジ・ファン・トゥッテ》3 第1幕

事前学習	第1幕の台本を読んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

7.《コジ・ファン・トゥッテ》4 第2幕

事前学習	第2幕の台本を読んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

8.《コジ・ファン・トゥッテ》5 まとめ

事前学習	第2回でまとめたあらすじを見直すこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

9.《魔笛》1 成立と時代背景

事前学習	《魔笛》のあらすじをまとめる。また、自分が演じる可能性のある役を選び、その特徴をまとめておくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

10.《魔笛》2 台本作者エマヌエル・シカネーダーについて

事前学習	エマヌエル・シカネーダーについて可能な限り調べておくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

11.《魔笛》3 台本に影響を与えた作品について

事前学習	授業内で配布される資料を読んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

12.《魔笛》4 第1幕

事前学習	第1幕の台本を読んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

13.《魔笛》5 第2幕

事前学習	第2幕の台本を読んでおくこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

14.《魔笛》6 まとめ

事前学習	第9回でまとめたあらすじを見直すこと。	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習すること。	時間	45 分

15.総括～台本の解釈と演奏への活用

事前学習	これまでの講義内容について整理しておくこと。	時間	45 分
事後学習	学習した内容を、今後の演奏に活かすことができるようまとめること。	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日 調布教室または教員室にて授業前に時間を確保します。

【テキスト】

1.オペラ対訳ライブラリー『コシ・ファン・トゥッテ』改定新版 小瀬村 幸子 2018 年 ¥2,000 4276355828

備考:旧版(2002 年)ではない。

2.オペラ対訳ライブラリー『魔笛』荒井 秀直 2000 年 ¥1,200 4276355532

修了研究 A(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	沼野 雄司 教授		曜日時限	水 2 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

修士論文・修了レポート執筆に向けて、さまざまな観点から音楽学的な指導を行う。2週間に一回の全体授業を行ない、その

ほかの時間で進捗に応じて個人指導を行なう。

【到達目標】

修士論文・修了レポートの完成

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特にない。

【授業の形式】

【対面】演習(個人指導中心)

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.修了レポート執筆に関する指導1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

2.修了レポート執筆に関する指導2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

3.修了レポート執筆に関する指導3

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

4.修了レポート執筆に関する指導4

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

5.修了レポート執筆に関する指導5

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

6.修了レポート執筆に関する指導6

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

7.修了レポート執筆に関する指導7

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

8.修了レポート執筆に関する指導8

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

9.修了レポート執筆に関する指導9

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

10.修了レポート執筆に関する指導 10

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

11.修了レポート執筆に関する指導 11

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

12.修了レポート執筆に関する指導 12

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

13.修了レポート執筆に関する指導 13

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

14.修了レポート執筆に関する指導 14

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

15.修了レポート執筆に関する指導 15

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

【授業展開と内容-後期】

1.修了レポート完成に関する指導1

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

2.修了レポート完成に関する指導2

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
------	----------------	----	------

事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分
------	----------------	----	------

3.修了レポート完成に関する指導3

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

4.修了レポート完成に関する指導4

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

5.修了レポート完成に関する指導5

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

6.修了レポート完成に関する指導6

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

7.修了レポート完成に関する指導7

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

8.修了レポート完成に関する指導8

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

9.修了レポート完成に関する指導9

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

10.修了レポート完成に関する指導 10

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

11.修了レポート完成に関する指導 11

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

12.修了レポート完成に関する指導 12

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

13.修了レポート完成に関する指導 13

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

14.修了レポート完成に関する指導 14

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

15.修了レポート完成に関する指導 15

事前学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	60 分
事後学習	指示に従って執筆を行なうこと	時間	30 分

【オフィスアワー】

特に定めないが、メール (numano@tohomusic.ac.jp) でアポイントメントを取ること。調布1号館 106 室

修了研究 B(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 安田 和信 准教授			曜日時限		金 4 時限
実施キャンパス 調布	単位	各 1 単位		対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

修了レポートを作成するために、音楽学の教員の立場から指導を実施する。特に前期の初めは各学生が取り組んでいる研究の経過についてクラスでプレゼンテーションをしながら、皆で議論を深めていくが、途中からは個人指導を中心にしていく予定である。

【到達目標】

修了レポートの完成

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし

【授業の形式】

演習および個人指導

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

原則として次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.修了レポート執筆に関する指導1

事前学習	レポートのテーマについて考えをまとめておく	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

2.修了レポート執筆に関する指導2

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

3.修了レポート執筆に関する指導3

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

4.修了レポート執筆に関する指導4

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

5.修了レポート執筆に関する指導5

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

6.修了レポート執筆に関する指導6

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

7.修了レポート執筆に関する指導7

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

8.修了レポート執筆に関する指導8

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

9.修了レポート執筆に関する指導9

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

10.修了レポート執筆に関する指導 10

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

11.修了レポート執筆に関する指導 11

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
------	--------------	----	------

事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
------	--------------	----	------

12.修了レポート執筆に関する指導 12

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

13.修了レポート執筆に関する指導 13

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

14.修了レポート執筆に関する指導 14

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

15.修了レポート執筆に関する指導 15

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.修了レポート執筆に関する指導1

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

2.修了レポート執筆に関する指導2

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

3.修了レポート執筆に関する指導3

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

4.修了レポート執筆に関する指導4

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

5.修了レポート執筆に関する指導5

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

6.修了レポート執筆に関する指導6

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

7.修了レポート執筆に関する指導7

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

8.修了レポート執筆に関する指導8

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

9.修了レポート執筆に関する指導9

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

10.修了レポート執筆に関する指導 10

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

11.修了レポート執筆に関する指導 11

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

12.修了レポート執筆に関する指導 12

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

13.修了レポート執筆に関する指導 13

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

14.修了レポート執筆に関する指導 14

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

15.修了レポート執筆に関する指導 15

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

【オフィスアワー】

金曜日 13:20-14:00 および 5 限後、調布。

修了研究 C(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	佐藤 康太 講師	曜日時限	月 2 時限		
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

研究レポートの作成指導を行います。個人指導を中心としますが、最初の数回は学術的な文章の書き方を演習形式で学びます。

【到達目標】

研究レポートの完成。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。

【授業の形式】

演習および個人指導。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

その都度授業内でフィードバックを行う。

【授業展開と内容-前期】

1.イントロダクション:学術的な文章とは

事前学習	自分のテーマを絞っておく。	時間	45 分
事後学習	自分の研究レポートに必要な資料を考え、図書館で検索しておく。	時間	45 分

2.文献検索、章立て

事前学習	研究レポートの構成を考えておく。	時間	45 分
事後学習	章立てを作成する。	時間	45 分

3.批判的な文献の読み方と引用の仕方

事前学習	自身のテーマに関わる文献を探しておく	時間	45 分
事後学習	自身の文献で引用例を作成し、注を付ける。	時間	45 分

4.研究レポートの執筆1

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

5.研究レポートの執筆2

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
------	--------------	----	------

事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
------	--------------	----	------

6.研究レポートの執筆3

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

7.研究レポートの執筆4

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

8.中間発表

事前学習	口頭発表のための資料等をそろえ、準備をする。	時間	60 分
事後学習	他の学生からの意見を踏まえ、内容を再検討する。	時間	30 分

9.章立て作成

事前学習	章立てを考えておく	時間	45 分
事後学習	添削された内容を見て、章立てを再考する	時間	45 分

10.研究レポートの執筆6

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

11.研究レポートの執筆7

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

12.研究レポートの執筆8

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

13.研究レポートの執筆9

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

14.研究レポートの執筆10

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

15.執筆に際しての注意

事前学習	事前に配布される「論文の書き方」を熟読しておく。	時間	60 分
事後学習	執筆順と夏休み中の作業工程を考える。	時間	30 分

【授業展開と内容-後期】

1.研究レポートの執筆1

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

2.研究レポートの執筆2

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

3.中間発表

事前学習	口頭発表のための資料等をそろえ、準備をする。	時間	60 分
事後学習	他の学生からの意見を踏まえ、内容を再検討する。	時間	30 分

4.研究レポートの執筆3

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

5.研究レポートの執筆4

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

6.研究レポートの執筆5

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

7.研究レポートの執筆6

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

8.研究レポートの執筆7

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

9.研究レポートの執筆8

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

10.研究レポートの執筆9

事前学習	口頭発表のための資料等をそろえ、準備をする。	時間	60 分
事後学習	他の学生からの意見を踏まえ、内容を再検討する。	時間	30 分

11.研究レポートの執筆10

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

12.研究レポートの執筆11

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

13.研究レポートの執筆12

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

14.研究レポートの執筆13

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

15.研究レポートの執筆14

事前学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分
事後学習	指導に従って執筆を行う。	時間	45 分

【オフィスアワー】

月曜の授業前後、調布教員室。

それ以外の曜日時間に関してはメールでアポイントメントを取ること。sato.kota@g.tohomusic.ac.jp

【教材】

R. J. ウインジェル『音楽の文章術』、宮澤淳一・小倉眞理訳、改定新版、春秋社、2014 年。

修了研究 D(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	宮木 朝子 講師		曜日時限		
実施キャンパス	調布	単位	各 1 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

修了レポートを作成するために、MSD のコース専門性を踏まえた指導を実施する。はじめの数回は各自のテーマについてヒアリングと議論によって方向性の確認を行う。その結果を受けて適宜資料の提供やアドバイスをを行った後、個人の執筆指導を中心とする。

【到達目標】

MSD のコース専門性を踏まえ、創作とも結びついた研究を行うことができるようになる。そうした研究の成果として、各自の創作と相互に関連を持つ研究レポートを完成することができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし

【授業の形式】

演習及び個人指導。適宜視聴覚機器やパソコンを活用したプレゼンテーションを行う。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	70%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習の場合は次回授業時にフィードバックを行う。個別指導の際は適宜メール等も使用したフィードバックを行う。

【授業展開と内容-前期】

1.各自のテーマについてヒアリングと議論 1

事前学習	自分の研究計画を踏まえてテーマを確認しておく。	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえたテーマの再考をする。	時間	45 分

2.各自のテーマについてヒアリングと議論 2

事前学習	再考したテーマについてプレゼンできるようにまとめる。	時間	45 分
事後学習	テーマについて詳細な検討を行う。	時間	45 分

3.テーマについてのプレゼンテーション

事前学習	プレゼンテーションの準備をする。	時間	45 分
事後学習	プレゼンテーション後のフィードバックに基づき、再検討を行う。	時間	45 分

4.修了レポート執筆に関する指導 1

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

5.修了レポート執筆に関する指導2

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

6.修了レポート執筆に関する指導3

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

7.修了レポート執筆に関する指導4

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

8.修了レポート執筆に関する指導5

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

9.修了レポート執筆に関する指導6

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

10.修了レポート執筆に関する指導7

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

11.修了レポート執筆に関する指導8

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

12.修了レポート執筆に関する指導9

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

13.修了レポート執筆に関する指導10

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

14.修了レポート執筆に関する指導11

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

15.中間発表 プレゼンテーション

事前学習	学期末中間報告の準備を行う。プレゼンテーション資料をまとめる	時間	45 分
事後学習	プレゼンテーションに対するフィードバックに基づき修正を行う。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.後期のガイダンスと執筆の経過報告

事前学習	経過報告のプレゼンテーションの準備を行う。	時間	45 分
事後学習	プレゼンテーションに対するフィードバックに基づき修正を行う。	時間	45 分

2.修了レポート執筆に関する指導 1

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

3.修了レポート執筆に関する指導2

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

4.修了レポート執筆に関する指導3

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

5.修了レポート執筆に関する指導4

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
------	--------------	----	------

事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
------	--------------	----	------

6.修了レポート執筆に関する指導5

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

7.修了レポート執筆に関する指導6

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

8.修了レポート執筆に関する指導7

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

9.修了レポート執筆に関する指導8

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

10.修了レポート執筆に関する指導9

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

11.修了レポート執筆に関する指導10

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

12.修了レポート執筆に関する指導11

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

13.修了レポート執筆に関する指導12

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

14.修了レポート執筆に関する指導13

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

15.修了レポート執筆に関する指導14

事前学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分
事後学習	指導を踏まえた調査・執筆	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日昼及び6 限後、調布キャンパス

創作演習 A(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	佐藤 岳晶 講師	曜日時限		金 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

厳格対位法の基礎から四声の華麗・大混合類までを演習する。メソッドとして確実に習得することを目指すと同時に、その背景にあるルネサンス期のポリフォニー声楽曲や当時の「作曲」の考え方についても理解を深めていく。厳格対位法は一時代の音楽観に基づいたメソッドであるが、その根源には、音と音の出会いについての「耳」と複数の音の運動に対する同時的想像力の拡張という西洋の作曲の普遍的技術に関わるものがある。従ってこの授業では、ルネサンス期以降の対位法の技術の継承も展望しつつ、その根源的なものを捉え、鍛え上げていくことを目標としたい。

【到達目標】

厳格対位法を実施できるようになる。

対位法・ポリフォニーについて、西洋音楽の歴史的視野の中で、その本質を理解できるようになる。

厳格対位法から習得したことを、自身の創作・演奏などに活かせるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

作曲専攻生対象

担当教員の判断により例外的に再履修または演奏専攻学生の履修を認めることがある

【授業の形式】

演習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に

判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス・導入

～対位法、ポリフォニーの概要／ルネサンス期の声楽ポリフォニーの概説／

現代における厳格対位法の学修意義～

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の復習	時間	60 分

2.ルネサンス期の声楽ポリフォニーの考察①

テクスチュアの対比:contrepoint simple と contrepoint fleuri

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の復習	時間	60 分

3.厳格対位法の演習:二声・全音符対位法 定旋律を下声に

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	60 分

4.厳格対位法の演習:二声・全音符対位法 定旋律を上声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

5.厳格対位法の演習:二声・二分音符対位法 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

6.厳格対位法の演習:二声・二分音符対位法 定旋律を上声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

7.ルネサンス期の声楽ポリフォニーの考察②順次進行の旋律美

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

8.厳格対位法の演習:二声・四分音符対位法 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

9.厳格対位法の演習:二声・四分音符対位法 定旋律を上声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

10.厳格対位法の演習:二声・移勢対位法 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

11.厳格対位法の演習:二声・移勢対位法 定旋律を上声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

12.ルネサンス期の声楽ポリフォニーの考察③

「定旋律」の活用:定旋律ミサ曲

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

13.厳格対位法の演習:二声・華麗対位法 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

14.厳格対位法の演習:二声・華麗対位法 定旋律を上声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

15.授業の総括

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

【授業展開と内容-後期】

1.ルネサンス期の声楽ポリフォニーの考察④

対位法の超絶技巧:巨大ポリフォニーの探求

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

2.厳格対位法の演習:三声・全音符対位法

事前学習	前回の授業で扱われた楽曲を聴く	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

3.厳格対位法の演習:三声・二部音符対位法／四部音符対位法

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

4.厳格対位法の演習:三声・混合類 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

5.厳格対位法の演習:三声・混合類 定旋律を上声／中声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

6.厳格対位法の演習:三声・華麗対位法 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

7.厳格対位法の演習:三声・華麗対位法 定旋律を上声／中声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

8.厳格対位法の演習:四声・大混合類 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

9.厳格対位法の演習:四声・大混合類 定旋律をそのほかの声部に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

10.厳格対位法の演習:四声・華麗対位法 定旋律を下声に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

11.厳格対位法の演習:四声・華麗対位法 定旋律をそのほかの声部に

事前学習	演習課題の実施	時間	60 分
事後学習	演習課題の振り返り	時間	30 分

12.ルネサンス期の声楽ポリフォニーの考察⑤カノンの技法の探求

事前学習	任意のルネサンス期のポリフォニー声楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

13.ルネサンス期以後の対位法／ポリフォニーの考察①J.S.バッハ

事前学習	任意の J.S.バッハのフーガによる楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

14.ルネサンス期以後の対位法／ポリフォニーの考察②

ロマン派(ホモフォニー様式における和声との融合)

事前学習	カノンが用いられた任意のロマン派の楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

15.ルネサンス期以後の対位法／ポリフォニーの考察③20 世紀

事前学習	カノン・模倣が用いられた任意の 20 世紀の楽曲を聴く	時間	30 分
事後学習	授業内容の振り返り	時間	60 分

【オフィスアワー】

金曜日 授業前後に時間を確保します。

【テキスト】

1.対位法 ノエル＝ギャロン／マルセル・ビッシュ(矢代秋雄 訳)

備考:購入は必須ではありません。

創作演習 C(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	石島 正博 教授		曜日時限	金 3 時限	
	佐藤 岳晶 講師				
	渡辺 裕紀子 講師				
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

<20-21 世紀の作曲語法研究>

前期:20 世紀に探求された様々な作曲技法の中から、そのうちのいくつかを考察する。取りあげる作品の分析においては、その技法と作曲者の思考回路を具体的に把握することを目指す。併せて、新しい技法の源泉となった過去の音楽作品についても触れることで、優れた創造における伝統への眼差しについても理解を広げる。全 15 回に記載した内容を基に、受講者の研究履歴に応じて、取りあげる作曲家・楽曲や分析のレベルを調整しつつ授業を進める。

後期:2000 年以降の現代音楽の多様な潮流をたどりながら、現代の作曲家がどのように音楽を捉え、社会の中で何を表現しようとしているのかを学ぶ。作品の背景や文脈を理解し、現代音楽の地図を自らの中に形作ることを目指す。さらに、これらの潮流を言語化し、自分なりの視点を持つことにも挑戦する。新たな作曲技法や記譜法の進化にも注目し、楽譜上の工夫や課題を考察しながら自身の創作や音楽表現につなげる。

【到達目標】

前期:20 世紀に探求された、いくつかの作曲技法を理解できるようになる。その作曲技法で創られた作品を分析できるようになる。これらの語法・技法を、創作の中で活用できるようになる。

後期:作曲家たちが何を前提にどんなことを考え、それをどのような技術や方法で一つの作品として実現しているのかを理解し、その上でそれを美学的にどう捉えるべきかを深く考察できるようになる。また、記譜に関する視点を学び、今を生きる作曲家たちの工夫を理解することで、その創作のプロセスを疑似体験し、現代音楽の多様な可能性に触れることを通じてより柔軟な思考をもって音楽を想像できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

前期:授業で扱う作曲家の作品や著作にできるだけ多くに触れる。

後期:現代の音楽に対して興味を持って取り組んでほしい。課題として創作を含むが、作曲専攻以外の積極的な参加も歓迎する。

作曲専攻生対象

担当教員の判断により例外的に再履修または演奏専攻学生の履修を認めることがある

【授業の形式】

演習(対面)

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時間内にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス、導入

事前学習	A.ベルクの《叙情組曲》を視聴覚資料等で聴く。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

2.十二音技法概説

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

3.ベルク①《抒情組曲》:作品全体の概説と音列について

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

4.ベルク②《抒情組曲》:第3楽章主部の分析①主部の序盤

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

5.ベルク③《抒情組曲》:第3楽章主部の分析②主部の中盤

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

6.ベルク④《抒情組曲》第3楽章の分析③主部の終盤

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

7.ベルク⑤《抒情組曲》第3楽章の分析④再現部

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

8.ベルク⑥《抒情組曲》第3楽章の分析⑤まとめ

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

9.音高とリズムの分離・再統合をめぐって①マシヨ《ノートルダム・ミサ》とル・ジュヌヌ《春》

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

10.音高とリズムの分離・再統合をめぐって②P.ブーレーズ《ストリクチュール I 》(概説)

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

11.ポリフォニーの遺産の 20 世紀における継承について／

バルトーク《弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽》第1楽章

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

12.リゲティ①概説と《ルクス・エテルナ》の分析①導入

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

13.リゲティ②《ルクス・エテルナ》の分析②曲の序盤

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

14.リゲティ③《ルクス・エテルナ》の分析②曲の中盤

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

15.リゲティ③《ルクス・エテルナ》の分析②曲の終盤

事前学習	前回の授業内容について復習する。	時間	30 分
事後学習	授業で扱われた諸事項について整理し、復習する。	時間	60 分

【授業展開と内容-後期】

1. ガイダンス、導入

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	次回扱う作曲家や作品の視聴	時間	45 分

2. <特殊奏法とノイズの美学(楽器による楽音／非楽音の組み合わせ)> ①

シェーンベルク、ベルク、ウェーベルンのそれぞれの作品を音色の拡張の視点から分析を行う。

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

3. <特殊奏法とノイズの美学(楽器による楽音／非楽音の組み合わせ)> ②

特殊奏法を使用した音色づくりについて学ぶ。Beat Furrer: Aer、Mark André: riss I ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

4. <アンサンブルと声による新しい新しいオーケストレーション> ①

声が入った音楽の新たな可能性について学ぶ。George Aperghis: Recitation、Beat Furrer: lot ófagos I、Erin Gee: Mouthpieces、Peter Ablinger: Speaking Piano ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

5. <アンサンブルと声による新しい新しいオーケストレーション> ②

新しいオペラの最前線について学ぶ。

Chaya Czernowin: Prima...ins Innere、Jennifer Walshe: XXX_LIVE_NUDE_GIRLS!!! ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

6. <非楽器化／非楽器の楽曲内での使用について>

楽器のプレパレーションにより非楽器化した例や、オブジェを使用した作品について、その音色の作り方や記譜について学ぶ。

Liza Lim: Invisibility、Rei Munakata: Buckle in the air ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

7. <空間と音楽> 空間を作品の中でどう扱うか、楽曲を見ながらその可能性についてディスカッションする。

Beat Furrer: FAMA、Simon Steen-Andersen: Chambered Music ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

8. <空間と音楽> 空間を作品の中でどう扱うか、学校内に限定してその場所の音を探る。

Simon Steen-Andersen: Run Time Error ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

9.<新しい繰り返しの音楽>スティーブ・ライヒ以降の繰り返しの音楽について学ぶ。

Morton Feldman: Coptic Light

Bernhard Lang: D.W., Bryn Harrison: Repetitions in Extended Time ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

10.<微分音の音楽>スペクトルの音楽から新しいミクロナリティの作品などを取り上げ、現代の作曲家が微分音をどのように扱っているか学ぶ。

Harry Parch, Georg Friedrich Haas, Ivan Wyschnegradsky の作品

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

11.<自然から発想する音楽>日常の音をどうオーケストレーションするか、楽曲を見ながら学ぶ。

Olivier Messiaen: 鳥のカatalog、Carola Bauckholt: Doppelbelichtung ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

12.<ビジュアルを伴う音楽作品>ビジュアルのイメージから音楽をどう想像するか、楽曲を見ながらディスカッションを行う。

Carola Bauckholt: Oh I see、Simon Steen-Andersen: Black Box Music ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

13.<ビジュアルを伴う音楽作品>ビジュアルを伴う作品をどう記譜するか、アーカイブするか、ディスカッションを行う。

Alexander Schubert: Sleep Laboratory ほか

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

14.<新しい記譜法>記譜から伝わる情報と伝わらない情報について楽曲を見ながら、ディスカッションを行う。

Helmut Lachenmann: Pression ほか、学生作品

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

15.<新しい記譜法>既存の五線譜による記譜法以外のノーテーションの意義と問題点について楽譜を見ながらディスカッションを行う。

Elena Rykova: 101% mind uploading, Aaron Cassidy: The wreck of former boundaries ほか、学生作品

事前学習	演習作品の視聴	時間	45 分
事後学習	扱った作曲家や作品の復習	時間	45 分

【オフィスアワー】

金曜日 授業時間の前後

【教材】

後期で使う参考資料(図書館所蔵)例:

[楽譜] Fama : 2004-2005 Hörtheater für großes Ensemble, acht Stimmen und Schauspielerinnen / Beat Furrer. -- Bärenreiter, 2016.

[楽譜] Riss 1 : für ensemble : (2015-17, rev. 2019) / Mark Andre. -- Edition Peters, 2016. -- (Peters contemporary chamber series).

[楽譜] Oh, I see. : for clarinet, violoncello, piano, 2 large balloons and video : (2015/16) / Carola Bauckholt. -- Peters, 2016. -- (Peters contemporary chamber series).

[楽譜] The wreck of former boundaries / Aaron Cassidy. -- [A. Cassidy], 2016.

[楽譜] Invisibility : für Violoncello mit zwei Bögen 2009 / Liza Lim. -- Ricordi, 2009.

[録音] Delusion of the fury--a ritual of dream and delusion / Harry Partch. -- Wergo, 2022.

[録音] Polyglot. -- Ensemble Modern Medien, 2021.

[録音] Coptic light ; String quartet and orchestra / Morton Feldman. -- Capriccio, 2020.

[録音] Time becoming / Bryn Harrison. -- Neu Records, 2020.

[録音] Riss / Mark Andre. -- Ensemble Modern Medien, 2019.

[録音] In vain / Georg Friedrich Haas. -- Kairos, 2017.

[録音] Caerulean. -- HCR, 2016.

[録音] Mouthpieces / Erin Gee. -- Col Legno, 2013.

[録音] Transference / Liza Lim ... [et al.]. -- HCR, 20

創作演習 D(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	田川 浩太郎 講師	曜日時限		火 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

コンピュータ音楽作曲のための標準ツールとなっている Max を用いた音楽創作法を会得する。

【到達目標】

- ・Max の基本的操作を行うことができるようになる。
- ・コンピューターによる音響制作の基礎的な技術や知識を習得する。
- ・Max を用いた音声信号処理および音合成の基礎技術を理解し、Max Patch を自ら構築できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

作曲専攻生対象

担当教員の判断により例外的に再履修または演奏専攻学生の履修を認めることがある

【授業の形式】

コンピュータを使った演習。

履修者は Max (<https://cycling74.com/products/max>) (<https://cycling74.com/products/max>) が

インストールされているラップトップ・コンピュータを持参することが望ましい。

Max は Macintosh コンピュータ、および Windows PC で稼働する。

(備考:Macintosh コンピュータ推奨)

授業開始当初は、Max の 30 日間無料デモライセンスを使用して学習を開始することを推奨する。

Max に関する詳細は <http://cycling74.com>(<http://cycling74.com>)を参照のこと。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1. ガイダンス (Max とコンピュータ音楽の概要)

事前学習	コンピュータ音楽について調べてみる	時間	60 分
事後学習	Max を使って作られた Interactive Computer Music を試聴してみる	時間	30 分

2. Max プログラミング基礎 1 (UI とオブジェクト)

事前学習	Max をコンピュータにインストールしてみる	時間	30 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	60 分

3. Max プログラミング基礎 2 (基本オブジェクト)

事前学習	宿題の Max Patch を作る	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

4. 音声信号処理基礎 1 (基本波形 sin/saw/squ/tri)

事前学習	波形について調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

5. 音声信号処理基礎 2 (周波数と音量制御)

事前学習	周波数について調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

6. コントロールデータ処理 1 (message/scale/expr)

事前学習	宿題の Max Patch を作る	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

7. コントロールデータ処理 2 (時間制御)

事前学習	宿題の Max Patch を作る	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

8. コントロールデータ処理 3 (MIDI 入出力)

事前学習	MIDI について調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

9. 音合成基礎 1 (フィルタ)

事前学習	身の回りの音を分析してみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

10. 音合成基礎 2 (エンベロープ)

事前学習	モノフォニックについて調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

11. 音合成基礎 3 (モノフォニック音源設計)

事前学習	フィルターについて調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

12. シンセサイザー構築演習 (poly~)

事前学習	シンセサイザーについて調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

13.ディスク・レコーディング (sfrecord~)

事前学習	音声ファイルの形式を調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

14.作品制作

事前学習	制作する作品について検討する	時間	45 分
事後学習	自分で Max Patch を制作する	時間	45 分

15.作品発表・プレゼンテーション

事前学習	プレゼンテーションの準備をしておく	時間	45 分
事後学習	習得した知識と技術を使って新たな Max Patch を制作してみる	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.スペクトル分析と音色設計

事前学習	必要なソフトウェアをインストールしておく	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

2.音響合成 1(減算合成 , フィルタの種類について)

事前学習	減算合成について調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

3.音響合成 2(AM 合成)

事前学習	Amplitude Modulation について調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

4.音響合成 3(FM 合成)

事前学習	Frequency Modulation について調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

5.サンプリングとプレイバック 1(sfplay~)

事前学習	オーディオについて調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

6.サンプリングとプレイバック 2(buffer~)

事前学習	サンプラーについて調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

7.サンプリングとプレイバック 3(wave~)

事前学習	実機・ソフト問わずサンプラーを触ってみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

8.時間処理とループ構造(groove~)

事前学習	サンプラー等のルーピング処理について調べる	時間	45 分
------	-----------------------	----	------

事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分
------	-------------------------------	----	------

9.エフェクト 1(Delay)

事前学習	Delay について調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

10.エフェクト 2 (Flanger , Chorus)

事前学習	Modulation 系 エフェクトについて調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

11.Plugin の活用 (vst~)

事前学習	オーディオプラグインの形式について調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

12.空間処理 (Panning)

事前学習	Panning について調べてみる	時間	45 分
事後学習	授業で作った Max Patch を再度ゼロから作ってみる	時間	45 分

13.作品制作演習 1

事前学習	制作する作品について検討する	時間	45 分
事後学習	自分の Max Patch の制作を進める	時間	45 分

14.作品制作演習 2

事前学習	自分の Max Patch の制作を進める	時間	45 分
事後学習	自分の Max Patch の制作を進める	時間	45 分

15.作品発表・プレゼンテーション

事前学習	プレゼンテーションの準備をしておく	時間	45 分
事後学習	習得した知識と技術を使って新たな作品を制作してみる	時間	45 分

【オフィスアワー】

実施教室にて授業前後に時間を確保します。

【教材】

Max に付属している Tutorial、および Help patches。

創作演習 E(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員			曜日時限		火 4 時限
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

様々な音楽の原点となる西洋音楽の和声法を基礎から学ぶ。四声体和声の実習を行い、進度に応じて楽曲の和声分析や様々な作品の視聴をしながら和声感覚を養っていく。

【到達目標】

和声の基礎的な配置と楽曲の基本的な和声構造を理解できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

【授業の形式】

講義と実習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
40%	10%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.オリエンテーション、予備知識

事前学習	これまでに学んだ和声についての確認	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

2.基本位置 3 和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

3.基本位置 3 和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

4.基本位置 3 和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

5.基本位置 3 和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

6.基本位置 3 和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

7.和音設定の原理、各種の調、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

8.和音設定の原理、各種の調、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

9.3 和音の第 1 転回位置、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

10.3 和音の第 1 転回位置、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

11.3 和音の第 2 転回位置、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

12.3 和音の第 2 転回位置、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

13.3 和音の第 2 転回位置、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

14.前期学習の総括

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

15.学習到達度の確認

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	前期の学習を復習しておくこと	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.前期の復習、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前期の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
------	--------------------------	----	------

事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分
------	-----------------	----	------

2.属七の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

3.属七の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

4.属七の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

5.属七の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

6.属七の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

7.属九の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

8.属九の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

9.属九の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

10.属九の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

11.属九の和音、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

12.D 和音の総括、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

13.D 和音の総括、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

14.後期学習の総括、楽曲分析、作品視聴

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	授業の内容を復習し理解すること	時間	45 分

15.学習到達度の確認

事前学習	前回の授業内容を復習し、疑問点をまとめておくこと	時間	45 分
事後学習	1年間の学習を復習しておくこと	時間	45 分

【オフィスアワー】

火曜日 12:00～12:40、ソルフェージュ研究室

【テキスト】

1.和声 理論と実習 I (音楽之友社) 池内友次郎 他 9784276102057

【教材】

適宜プリント等配布

創作演習 F(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	池田 哲美 講師	曜日時限		月 5 時限	
実施キャンパス	仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

この授業で取り扱う音楽範囲および素材は、西洋音楽に(いわゆるクラシック音楽に)限定されるが、その音楽の更なる変容や発展を考慮しつつ、まずは創作の基本、原点といえるものを捉えてゆく。間接的ではあるが、映画・映像から思い浮かぶ音像を描き、具体的な音として定着する学習し、作曲能力の全般的な向上を目指すことを方針とする。

【到達目標】

西洋音楽の和声やモード(旋法)などの知識(分析)、そしてその具体的な運用(小品の創作など)、より柔軟に書法を活用する能力の取得が目標となる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

原則として創作演習 E の単位取得後に創作演習 F を受講すること。ただし、学生の和声能力・経験によっては1年目に創作演習 F を取ることを創作演習 E の担当教員が認めることがある。

『和声理論と実習』I ～III(音楽之友社)、シャランの和声課題集などを使用するが、学生のそれぞれの進度に合わせて学習を進めて行く。

【授業の形式】

演習形式による楽曲創作と和声課題の実施。そして楽曲分析も行う。PC の持ち込みも可、視聴覚機器の使用あり。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.和声・形式などの確認と実施 1

自由の選択された楽曲形式による創作

事前学習	前期の復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

2.和声・形式などの確認と実施 2

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

3.和声・形式などの確認と実施 3

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

4.和声・形式などの確認と実施 4

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

5.ロマン派以降の和声使用による創作 1

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

6.ロマン派以降の和声使用による創作 2

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

7.ロマン派以降の和声使用による創作 3

事前学習	いままでに学習したものの確認	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

8.ロマン派以降の和声使用による創作 4

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

9.ロマン派以降の和声使用による創作 5

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

10.自由の選択された楽曲形式による創作 1

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

11.自由の選択された楽曲形式による創作 2

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

12.自由の選択された楽曲形式による創作 3

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

13.自由の選択された楽曲形式による創作 4

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

14.楽曲の発表 1

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

15.楽曲の発表 2

事前学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.旋法(モード)を使つての楽曲の創作 1

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
------	-----------	----	------

事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

2.旋法(モード)を使つての楽曲の創作 2

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

3.旋法(モード)を使つての楽曲の創作 3

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

4.旋法(モード)を使つての楽曲の創作 4

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

5.映画・映像を考慮しての創作の実施 1

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

6.映画・映像を考慮しての創作の実施 2

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

7.映画・映像を考慮しての創作の実施 3

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

8.映画・映像を考慮しての創作の実施 4

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

9.自由の選択された楽曲形式による創作 1

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

10.自由の選択された楽曲形式による創作 2

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

11.自由の選択された楽曲形式による創作 3

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

12.自由の選択された楽曲形式による創作 4

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

13.自由の選択された楽曲形式による創作 5

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

14.楽曲の発表 1

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

15.楽曲の発表 2

事前学習	継続して楽曲の創作	時間	45 分
事後学習	授業内に実施したものの復習	時間	45 分

【オフィスアワー】

授業後

【テキスト】

1.『和声理論と実習』Ⅰ～Ⅲ(音楽之友社) 島岡譲 他

【教材】

課題、必要なプリントを配布

創作演習 G(集中)					
担当教員 田川 浩太郎 講師			曜日時限		火 6 時限
実施キャンパス 調布	単位	1 単位		対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

作曲法演習 DII で習得した Max プログラミング技術を土台に、インタラクティブアート、マルチメディア作品制作のためのより高度なコンピュータ音楽創作技法を探究していく。

その過程として Fixed media 作品制作、Pro Tools による録音/編集といったコンピュータ音楽関連技術を総合的に学習していく。

【到達目標】

- ・音響合成技術を理解し、表現目的に応じて選択・設計できるようになる。
- ・合成音を制作環境へ統合し、時間構造および空間構造を構築することができるようになる。

・自身の作品について理論的観点から説明し、批評的に検証できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

【授業の形式】

コンピュータを使った演習。履修者は Max (<https://cycling74.com/products/max>) がインストールされているラップトップ・コンピュータを持参することが望ましい。

Max は Macintosh コンピュータ、および Windows PC で稼働する。(備考:Macintosh コンピュータ推奨)

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.4 月 14 日 (火)

各自が作曲したコンピュータ音楽作品の検証

事前学習	自己が制作したコンピュータ音楽作品を客観的に評価する。	時間	60 分
事後学習	コンピュータ音楽で使用するソフトウェアについて調べる	時間	30 分

2.5 月 12 日 (火)

音響合成演習 1

事前学習	グラニューラーションセシスについて調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作ったパッチを編集してみる	時間	45 分

3.6 月 16 日 (火)

音響合成演習 2

事前学習	フォルマントについて調べる	時間	45 分
事後学習	授業で作ったパッチを編集してみる	時間	45 分

4.7 月 14 日 (火)

音響合成技術探求

事前学習	MAX で加工したい音を録音しておく	時間	60 分
事後学習	MAX でさらなる加工を試してみる	時間	30 分

5.9 月 15 日 (火)

DAW 統合演習 1

事前学習	Pro Tools について調べてみる	時間	30 分
事後学習	Pro Tools Intro をインストールしてみる	時間	60 分

6.10 月 13 日 (火)

DAW 統合演習 2

事前学習	Pro Tools の 各種ツールについて復習しておく	時間	30 分
事後学習	MAX で加工した音を Pro Tools で編集してみる	時間	60 分

7.11 月 17 日 (火)

Fixed media 作品制作

事前学習	自身の作品について検討する	時間	45 分
事後学習	自身の作品の制作を進める	時間	45 分

8.1 月 19 日 (火)

プレゼンテーション

事前学習	プレゼンテーションの準備を行う	時間	45 分
事後学習	必要に応じて修正を行う	時間	45 分

【オフィスアワー】

実施教室にて授業前後に時間を確保します。

創作演習 H(b)(後期)					
担当教員			曜日時限		月 3 時限
実施キャンパス			単位	対象年次	
仙川			2 単位		修士 1 年～

【授業の概要】

＜民族音楽学からヨーロッパの伝統音楽を再考する＞

この講義のタイトルは「世界の民族音楽」であるが、今回の授業では、ヨーロッパ地域の伝統音楽を民族音楽学の方法から探求する。民族音楽学は、音楽学の一分野であり、人間と音楽の関係、とりわけ人間が音楽に関して取る行動の分析を中心にする。また、各地の音楽を差別せずに区別なく扱うのが、民族音楽学の基本である。

【到達目標】

授業によって、民族音楽学の基本的な概念と方法が理解できたかを調べ、学生が将来、自分たちの音楽活動のために、何らかの伝統文化、音楽を調査する能力を得られるようにする。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

作曲専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

【授業の形式】

講義を中心とする。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
50%	50%	

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に

判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-後期】

1.民族音楽学とはなにか。「民族音楽」は差別用語である。

事前学習	『ミュージックスとの付き合い方』265-266 ページを読む。	時間	45 分
事後学習	民族音楽学の基本的な考えを理解する。	時間	45 分

2.フランス領バスクの音楽を例にして、民族音楽学の考え方を確認する。

事前学習	西ヨーロッパの古い民族バスクについて、辞書などを使い、調べておく。	時間	45 分
事後学習	民族音楽学の考え方を確認する。	時間	45 分

3.記譜法と採譜の方法。

事前学習	『ミュージックスとの付き合い方』第 14 章を読んでおく。	時間	45 分
事後学習	記譜法と採譜を理解する。	時間	45 分

4.民族音楽学と録音。

事前学習	『ミュージックスとの付き合い方』第 13 章を読んでおく。	時間	45 分
事後学習	録音の特徴とは何か。人間にとってどういう意味を持っているかまとめる。	時間	45 分

5.民族音楽学と映像。

事前学習	辞書などを使い、映像とは何かを考えておく。	時間	45 分
事後学習	映像の特徴とは何か。人間にとってどういう意味を持っているかまとめる。	時間	45 分

6.歌と舞踊と演劇の関係。バスクの「マスカラード」と野外民衆劇「パストラル」。

事前学習	『ミュージックスとの付き合い方』第 11 章を読んでおく。	時間	45 分
事後学習	音楽の構造と社会的脈略に目を向ける。	時間	45 分

7.楽器と人間の関係

事前学習	『ミュージックスとの付き合い方』第8章を読んでおく。	時間	45 分
事後学習	楽器と人間の関係を考える。	時間	45 分

8.伝統音楽と作曲家の関係。ラヴェルとサラサーテを例に。

事前学習	作曲家モーリス・ラヴェルとパブロ・サラサーテについて、辞書などで調べておく。楽譜や音源などで、ラヴェルのバレエ音楽《ダフニスとクロエ終曲》と、サラサーテのヴァイオリン独奏曲《バスク奇想曲》に触れておく。	時間	45 分
事後学習	伝統音楽と作曲家の関係を理解する。	時間	45 分

9.フランス・オック地方の音楽を例にして、民族音楽学の考え方を確認する

事前学習	フランスのオック地方とは何か、辞書などを使って調べておく。	時間	45 分
事後学習	オックの文化と、民衆、作曲家の関係を理解し、民族音楽学の考えを確認する。	時間	45 分

10.宗教と音楽の関係。カタロニアの復活祭における民衆聖歌。

事前学習	フランスとスペインにまたがるカタロニア地域について調べておく。	時間	45 分
事後学習	カタロニアの文化と、民衆、作曲家の関係を理解し、民族音楽学の考えを確認する。	時間	45 分

11.宗教と音楽の関係。カタロニアの復活祭における民衆聖歌。

事前学習	宗教とはなにかを辞書で調べ、宗教と音楽の関係を考えておく。	時間	45 分
事後学習	カタロニアにおける宗教と音楽の関係を理解する。	時間	45 分

12.音楽における定型と変形。音楽様式と変化。

事前学習	『ミュージックスとの付き合い方』第 13 章のⅡ「音楽様式」を精読しておく。	時間	45 分
事後学習	自分の知っている音楽から、定型と変形の例を探す。	時間	45 分

13.現地調査のための採譜実習 1。授業で取り上げた音楽様式から例を選び、採譜実習を行ってみることにより、将来の現地調査の準備材料を得る。

事前学習	第3回の授業を復習しておく。また、『ミュージックスとの付き合い方』第 14 章の「Ⅰ 書記性とは」、を再読しておく。	時間	45 分
事後学習	授業で示した採譜の種類や方法を整理しておく。	時間	45 分

14.現地調査のための採譜実習 2。授業で取り上げた音楽様式から例を選び、採譜実習を行ってみることにより、将来の現地調査の準備材料を得る。

事前学習	第 13 回の授業を復習しておく。また、『ミュージックスとの付き合い方』第 14 章「I 書記性とは」、を再読しておく。	時間	45 分
事後学習	自分が将来、採譜が必要になった時の方法や手段を確認しておく。	時間	45 分

15.まとめ。民族音楽学の方法の再確認と、研究と作曲における倫理

事前学習	第 14 回までの講義を復習しておく。また、『ミュージックスとの付き合い方』第 15 章「V 民族音楽学における研究者と対象の関係」を精読しておく。	時間	45 分
事後学習	まとめる。	時間	45 分

【オフィスアワー】

月曜日 教室にて授業前後に時間を確保します。

【テキスト】

1.ミュージックスとの付き合い方 民族音楽学の広がり

徳丸吉彦 2016 年 ¥2,100 ISBN978-4-86528-143-9

備考:放送大学叢書 左右社

創作演習 I(b)(後期)					
担当教員 山中 千尋 講師			曜日時限		水 4 時限
実施キャンパス	仙川	単位	2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

ジャズやポップスのさまざまなリズムやグルーブを学び、同時にクラシック音楽でも重要な、ジャズの非和声音、変拍子についても言及します。クラシックの作曲・演奏家についてもジャズの理論を通じた考察や分析を行います。

【到達目標】

即興を自由にできるようになる

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

【授業の形式】

演習・演奏を中心に授業を進めます(セッション形式)

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
20%	40%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-後期】

1.ジャズ・ポップスのグループを学ぶ

事前学習		時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

2.ジャズ・ポップスのグループを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

3.ジャズ・ポップスのリズムを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

4.ジャズ・ポップスのリズムを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

5.ジャズ・ポップスのコードを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

6.ジャズ・ポップスのコードを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

7.ジャズ・ポップスのコード進行を学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

8.ジャズ・ポップスのコード進行を学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

9.ジャズ・ポップスのハーモニーを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

10.ジャズ・ポップスのハーモニーを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

11.ジャズ・ポップスのメロディーを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

12.ジャズ・ポップスのメロディーを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

13.イントロとエンディングを学ぶ

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

14.自分のオリジナル楽曲を作り演奏する

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む	時間	45 分

15.自分のオリジナル楽曲を作り演奏する

事前学習	課題に取り組む	時間	45 分
事後学習	課題に取り組む 課題提出	時間	45 分

【オフィスアワー】

水曜日 4 限後

創作演習 J(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員 田川 浩太郎 講師			曜日時限		火 3 時限
実施キャンパス 仙川	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～	

【授業の概要】

現代の音楽・音響制作は、DAW、MIDI、シンセシス、空間音響、AI 技術など多様なテクノロジーの上に成り立っている。

本授業では、DAW の基礎操作から始め、音楽・音響に必要なテクノロジーを幅広く学び実際の制作に役立てるスキルを習得する。

前期では制作に必要な基礎技術の習得と音響設計について扱う。

後期では映像作品を題材に音楽・音響プランの設計・検証・再構築を行い、最終的に完成作品として発表する。

【到達目標】

- ・DAW の基本的操作を行うことができるようになる。
- ・コンピューターによる音楽・音響制作の基礎的な技術や知識を習得する。
- ・映像に合わせた音楽・音響制作を実践し、具体的な制作プロセスを理解できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生(旧編作芸術コース専攻生)・副専攻生対象

将来「MSD」を副専攻履修しようと思っている者で、部会及び実技担当の了解を得ている者は例外的に履修が認められる場合がある。創作専攻生の履修については、同様に実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

【授業の形式】

講義と演習を組み合わせる。パソコンを使用した演習を行うため、5 月以降は各自ノートパソコンを持参すること。

(5 月以降に各自のノートパソコンを用意できない場合は、履修できないものとする。)

OS は問わないが、映像および音声扱うのに十分な性能を有することが望ましい。

なお、講義では主に Mac を用いて実演を行う。

また、各自の PC の音声出力に対応したヘッドフォンまたはイヤフォンを持参すること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目に基づき S, A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス:この授業について・コンピュータを用いた作曲について

事前学習	DTM 環境に必要な機材やソフトウェアについて調べる	時間	45 分
事後学習	自分の制作環境に必要な準備を整える	時間	45 分

2.DTM 環境と信号の流れ(オーディオとMIDI)

事前学習	DTM 環境に必要な機材やソフトウェアについて調べる	時間	45 分
事後学習	自分に最適な環境設定を行い、必要なツールをインストールする	時間	45 分

3.DAW 基礎 1(MIDI 入力)

事前学習	オーディオとMIDIの違いについて調べる	時間	45 分
事後学習	オーディオとMIDIについて復習する	時間	45 分

4.DAW 基礎 2(オーディオ録音)

事前学習	オーディオに関する in/out について調べる	時間	45 分
事後学習	自分で簡単な録音を行う	時間	45 分

5.MIDI データ演習 1 (MIDI 編集)

事前学習	Standard MIDI File について調べる	時間	45 分
事後学習	MIDI について復習する	時間	45 分

6.MIDI データ演習 2 (MIDI 表現)

事前学習	General MIDI について調べる	時間	45 分
事後学習	MIDI について復習する	時間	45 分

7.MIDI データ演習 3 (MIDI 入力課題)

事前学習	MIDI CC について調べる	時間	45 分
事後学習	MIDI について復習する	時間	45 分

8.オーディオデータ編集

事前学習	オーディオデータについて調べる	時間	45 分
事後学習	オーディオデータについて復習する	時間	45 分

9.エフェクト設計(EQ・Comp・Reverb)

事前学習	オーディオエフェクトについて調べる	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習しエフェクトをかける	時間	45 分

10.サウンドシンセシス基礎

事前学習	シンセサイザーについて調べる	時間	45 分
事後学習	実機・ソフト問わずシンセサイザーを触ってみる	時間	45 分

11.音響設計演習(立体音響)

事前学習	立体音響についてどのような技術があるか調べる	時間	45 分
事後学習	講義内容を踏まえ、用語の復習や周辺知識の習得を行う	時間	45 分

12.ミックスダウン基礎(バランスと奥行き)

事前学習	ミックスダウンについて調べる	時間	45 分
事後学習	講義内容を踏まえ、ミックスを行う	時間	45 分

13.制作演習 1(編集)

事前学習	素材の収集方法について検討する	時間	45 分
事後学習	音素材の様々な加工を試してみる	時間	45 分

14.制作演習 2(調整・バウンス)

事前学習	編集操作に慣れておく	時間	45 分
事後学習	完了しなかった編集作業を行う	時間	45 分

15.プレゼンテーション

事前学習	プレゼンテーションの準備を行う	時間	45 分
事後学習	習得した知識と技術を使って新たな作品を制作してみる	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.視覚表現分析(構図・カットリズム・色彩)

事前学習	写真・絵画・映像など様々な視覚表現の特性について考えをまとめておく。	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について知識を深める	時間	45 分

2.映像と音の関係構造(同期非同期・対位法)

事前学習	前回の講義内容を踏まえ、短い映像を分析してみる	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について知識を深める	時間	45 分

3.映像音響プラン設計(映像課題: Sherlock Jr. (1924))

事前学習	指定された映像作品に関する情報を調べてみる	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について知識を深める	時間	45 分

4.音色設計の構造分析

事前学習	映像作品で使われている音について分析してみる	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について知識を深める	時間	45 分

5.時間構造の設計

事前学習	映像作品から映像と音のタイミングについて分析してみる	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について知識を深める	時間	45 分

6.定位設計の検証

事前学習	音の定位について調べてみる	時間	45 分
事後学習	課題映像をもとに音の定位の変化による印象の違いを検証する	時間	45 分

7.マルチチャンネルによる音響表現の検証

事前学習	マルチチャンネルシステムについて調べてみる	時間	45 分
事後学習	講義内容をふまえ、課題映像の音作りへの応用の可能性を考えてみる	時間	45 分

8.中間提出

事前学習	提出準備を行う	時間	45 分
事後学習	必要に応じて修正を行う	時間	45 分

9.プラン構築(映像課題: A Trip to the Moon (1902))

事前学習	指定された映像作品に関する情報を調べてみる	時間	45 分
事後学習	講義内容を踏まえてサウンドプランを考えてみる	時間	45 分

10.音素材収集

事前学習	作成したプランをもとに音の収集方法を検討する	時間	45 分
事後学習	収集した音を編集し、映像に合わせる	時間	45 分

11.映像の音楽・音響制作実践 1

音色・音量・タイミングの比較検証編集実践

事前学習	作成したプランをもとに音色・音量・タイミングを検討する	時間	45 分
事後学習	音色・音量・タイミングを調整する	時間	45 分

12.映像の音楽・音響制作実践 2

ミックス・音像定位の検証編集実践

事前学習	作成したプランをもとにミックス・定位を検討する	時間	45 分
事後学習	定位とミックスバランスを調整する	時間	45 分

13.マスタリング基礎

事前学習	マスタリングについて調べてみる	時間	45 分
事後学習	作品の調整を行う	時間	45 分

14.制作演習

事前学習	これまでの講義内容を復習する	時間	45 分
事後学習	プレゼンテーションに備える	時間	45 分

15.プレゼンテーション

事前学習	プレゼンテーションの準備を行う	時間	45 分
事後学習	習得した知識と技術を使って新たな作品を制作してみる	時間	45 分

【オフィスアワー】

実施教室にて授業前後に時間を確保します。

創作演習 K(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	加藤 直正 特任講師		曜日時限	木 4 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

映像作品において実は重要なファクターである「サウンド」に焦点をあて、目に見えない音が果たす演出的、心理的機能を分

析し、サウンドデザインの基礎と技法を講義する。実写作品、アニメーション、さらにはラジオなど音声メディアでの作品を通して、芸術やマスコミの発展とともに進化してきたサウンドデザインの歴史を学び、音による表現・手法の未来への可能性を探究する内容とする。

【到達目標】

映像・音声作品のための効果音の種類とそれぞれの役割を学び、作成技法とプロセス、演出に寄与するサウンドエフェクトについて理解できるようになる。

映像・音声作品のための音楽プラン構築について学び、日本・世界のコンテンツ音楽の制作体制を理解できるようになる。

映像・音声作品の音楽と音響構成をトータルに構築するサウンドデザインについて理解・分析できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

コンテンツにおける効果音の役割や制作、音楽との相関性への探求心。

原則として、音声編集のできる DAW などをインストールした PC を持参すること。

【授業の形式】

講義と実習。実習に関しては後期に向けて DAW を活用する機会を増やしていく。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、「提出課題・作品発表等」と「受講姿勢」、それぞれの配分を総合的に判断し、A、B、C、D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生が授業内で課題のプレゼンを行い、それを講評する。

【授業展開と内容-前期】

1.サウンドデザインへのアプローチ

事前学習	映像作品における音の役割、重要性を理解し、音が映像の付属物ではないことを学ぶ。	時間	60 分
事後学習	興味のある映像作品の音楽以外の「サウンド」について調べる。	時間	30 分

2.サウンドデザインの概要

事前学習	サウンドデザインを構築する要素とそれぞれの役割を知る。	時間	60 分
------	-----------------------------	----	------

事後学習	授業で学んだ内容についてサウンドデザインと音声領域の役割について整理する。	時間	30 分
------	---------------------------------------	----	------

3.音響効果の歴史

事前学習	「擬音」から始まった音響効果の歴史と進化を紐解く。	時間	60 分
事後学習	初期のラジオ作品を分析し、音づくりの意図と手法を分析する。	時間	30 分

4.フォーリーの伝統と技法 1. (足音と衣擦れ)

事前学習	登場人物の意志を表現しリアリティを生み出すフォーリーを学ぶ。	時間	45 分
事後学習	事前学習で使った映像作品のフォーリーを分析する。	時間	45 分

5.フォーリーの伝統と技法2. (小道具とギャ)

事前学習	的確な素材と声で行動と時代を表出するフォーリーを学ぶ。	時間	45 分
事後学習	事前学習で使った映像作品のフォーリーをさらに分析する。	時間	45 分

6.抽象的音響表現

事前学習	現実を超えた SF やイメージシーンなどのサウンドクリエイトの実例を学ぶ。	時間	45 分
事後学習	興味のある作品のイメージサウンドの素材を考察する。	時間	45 分

7.環境音デザイン 1. (傾聴力の習熟)

事前学習	日常の音環境を意識する「耳の使い方」を学ぶ。	時間	45 分
事後学習	校舎内外の音環境に耳を澄まし、音の要素をまとめる。	時間	45 分

8.環境音デザイン 2. (静止画のデザイン)

事前学習	静止画を題材に環境音デザインの基礎を学ぶ。	時間	60 分
事後学習	多彩な静止画を題材に環境音デザインを習練する。	時間	30 分

9.環境音デザイン 3. (動画のデザイン)

事前学習	動画を題材に空間と時間のデザインを学ぶ。	時間	60 分
事後学習	事前学習の素材について、さらにアイデアを生み出す。	時間	30 分

10.環境音デザイン 4. (生きもの・自然環境)

事前学習	生きものの生態と日本人の季節感「花鳥風月」について学ぶ。	時間	60 分
事後学習	日本における鳥類、昆虫類の分布を学ぶ。	時間	30 分

11.サウンドデザイン課題制作・静止画編 1. (フィールドレコーディング)

事前学習	収録機材と方法についての基礎を学ぶ	時間	30 分
事後学習	学内にて各自音源を収録する。	時間	60 分

12.サウンドデザイン課題制作・静止画編 2. (編集)

事前学習	ライブラリー音源素材を学び、適切な素材を補完収集する。	時間	45 分
事後学習	素材を編集する。	時間	45 分

13.(遠隔授業)サウンドデザイン課題制作・静止画編 3. (完成)

事前学習	素材を編集する。	時間	30 分
事後学習	1 分の作品に完成させる。	時間	60 分

14.サウンドデザイン課題制作・静止画編 3.(試聴・講評)

事前学習	完成した作品の試聴。	時間	60 分
事後学習	出された意見を整理する。	時間	30 分

15.サウンドデザイン課題制作・総括

事前学習	自作品への課題、反省点などを適宜まとめる。	時間	45 分
事後学習	前期で学んだサウンドデザインへのスタンスを整理し、まとめる。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.音楽プランニングの基礎

事前学習	「擬音職人」から「音響デザイナー」に進化した職能の歴史を学ぶ。	時間	60 分
事後学習	授業内で学んだ内容を整理する。	時間	30 分

2.劇伴の機能

事前学習	演出サイドから見た劇伴の役割を学ぶ。	時間	60 分
事後学習	授業内で学んだ映像素材をさらに分析する。	時間	30 分

3.音楽プランニングの実際 1. (連続ドラマ)

事前学習	テレビの連続ドラマにおける「劇伴」の委嘱のプロセスを学ぶ。	時間	60 分
事後学習	授業内で学んだ内容を整理し、まとめる。	時間	30 分

4.音楽プランニングの実際 2. (単発ドラマ・映画)

事前学習	テレビの単発ドラマにおける「劇伴」の委嘱のプロセスを学ぶ。	時間	60 分
事後学習	授業内で学んだ内容を整理し、まとめる。	時間	30 分

5.音楽プランニングの実際 3. (テーマ音楽)

事前学習	テーマ曲制作の過程を基に「メッセージの抽出」を学ぶ。	時間	60 分
事後学習	興味のある作品のテーマ曲を分析する。	時間	30 分

6.音楽構成 1. (シーンのデザイン)

事前学習	一つのシーンを題材にねらいの把握について学ぶ。	時間	60 分
事後学習	授業内の素材を基にプランをまとめる。	時間	30 分

7.音楽構成 2. (全体構成)

事前学習	時間軸をコントロールし、コンテンツを演出する音楽構成の基礎を学ぶ。	時間	60 分
事後学習	事前学習の素材を基に音楽構成を分析する。	時間	30 分

8.サウンドデザイン課題制作・動画編 1.(音楽プラン)

事前学習	課題映像を試聴し、ねらいをまとめる。	時間	30 分
事後学習	音楽プランを作成する。	時間	60 分

9.サウンドデザイン課題制作・動画編 2.(環境音)

事前学習	課題映像の環境音素材を録音・収集する。	時間	45 分
------	---------------------	----	------

事後学習	環境音素材を編集し作成する。	時間	45 分
------	----------------	----	------

10.サウンドデザイン課題制作・動画編 3.(フォーリー)

事前学習	課題映像のフォーリー素材を録音・収集する。	時間	45 分
事後学習	フォーリー素材を編集し作成する。	時間	45 分

11.(遠隔授業)サウンドデザイン課題制作・動画編 4.(編集)

事前学習	課題映像のすべての素材を編集し、完成させる。	時間	75 分
事後学習	自身の作成過程について課題を整理する。	時間	15 分

12.サウンドデザイン課題制作・動画編5.(発表)

事前学習	完成作品のプレゼンの準備をする。	時間	60 分
事後学習	自身の意図と観客の「ズレ」を中心に気づきと課題をまとめる。	時間	30 分

13.音声メディアのサウンドデザイン 1.(ラジオドラマ)

事前学習	ラジオドラマを題材に映像のない音声表現の可能性を学ぶ。	時間	70 分
事後学習	事前学習の素材をさらに分析する。	時間	20 分

14.音声メディアのサウンドデザイン 2.(サウンドスケープ)

事前学習	NHK ラジオ「音の風景」を試聴しサウンドデザインの可能性を学ぶ。	時間	60 分
事後学習	音声メディアのデザインについて整理する。	時間	30 分

15.サウンドデザインの未来

事前学習	コンテンツを超えた社会に寄与するサウンドデザインへの考察。	時間	60 分
事後学習	1 年を通じた学びを整理し、自身の課題をまとめる。	時間	30 分

【オフィスアワー】

木曜日 17 時 30 分～18 時 30 分 調布教員室

【テキスト】

1.「サウンド派映画の聴き方」 小沼純一＋杉原賢彦＋二本木かおり＋編集部〔編〕

1999 年

2.「アニメ音響の魔法」 企画・取材 藤津亮太 2025 年

創作演習 L(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	亀川 徹 講師	曜日時限		水 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

マイクロホンを用いた収音技術や音楽制作のために必要なミキシング手法を実践をとおして理解する。またコンサートPAや立体音響による再生方法などについても理解を深める。

【到達目標】

マイクロホンの原理や録音・再生機器の仕組みを理解し、音楽制作のために必要な録音、ミキシングができるようになる。またコンサートPAについても基本的な操作ができるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある

音の扱う上での基本的な知識がある程度備えていることが望ましい。

「音の物理学」を履修済みであることを推奨する。

【授業の形式】

基本的な知識を習得講義と、実際の機器を操作しながら音の違いを体験する実習の双方を組み合わせた授業形態とする。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	50%	50%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

次回授業時にフィードバックする。

学年末試験／学年末レポートについては Classroom に講評を掲載する。

【授業展開と内容-前期】

1. ガイダンス、音の聴き方について

クリティカルリスニング

事前学習	普段録音する場合にどのような点を考えている振り返ってみる。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだ音の聴き方を様々な音源を聴いて実践してみる。	時間	45 分

2. マイクロホンの原理(1)

ダイナミックマイクとコンデンサマイク

マイクロホンの指向性

事前学習	電磁誘導、静電容量などマイクロホンの原理につながる電気音響の基礎について調べてみる	時間	45 分
事後学習	マイクロホンの原理、指向性の原理を振り返る。	時間	45 分

3. マイクロホンの原理 (2)

近接効果、風防

事前学習	手元に録音機器があれば、実際に何か録音してみて音源からの距離の違いによる音の違いを調べてみる。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだ近接効果、風防について手元に録音機器があれば、試してみる。	時間	45 分

4. 音響機器の基本 (1)

事前学習	録音に必要な録音機器について調べてみる。	時間	45 分
事後学習	録音におけるそれぞれの機器の役割について振り返る。	時間	45 分

5. 音響機器の基本 (2)

事前学習	スマホの録音機能とスタジオの録音機器の違いについて考えてみる。	時間	45 分
事後学習	実際に録音をおこなう場合の考慮しておく点について振り返る。	時間	45 分

6. 録音実習

事前学習	録音実習で使用するマイクロホンの種類、指向性について検討する。	時間	45 分
事後学習	授業で録音したデータを自身の聴取環境でも聴いてその違いを比べてみる。	時間	45 分

7. 試聴とディスカッション

事前学習	マイクロホンの種類や位置の違いについて、自身の環境でも振り返ってみる。	時間	45 分
事後学習	マイクロホンの種類や位置の違いについて、自身の環境でも振り返ってみる。	時間	45 分

8. 両耳聴、音像定位

事前学習	音の方向を聞き分ける仕組みについて調べてみる。	時間	45 分
事後学習	手元に録音機があれば、音の方向を変えて録音してみて、音の位置の違いを聴いてみる。	時間	45 分

9. ステレオ録音 (1)

様々なステレオ録音方式

事前学習	身の回りの音をきいて、それらの音がどの方向から聞こえるかをどのように知覚しているかについて考えてみる。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだ録音方式について音の違いを自身の聴取環境でも聴き比べてみる。	時間	45 分

10. ステレオ録音 (2)

レコーディングアングル

事前学習	ステレオ音源を聞いて、それぞれの楽器がどの方向から聞こえるかについて聴き比べてみる。	時間	45 分
------	--	----	------

事後学習	ステレオ音源を聞いて、授業で学んだ録音方式やレコーディングアングルを想像しながら聴き比べてみる。	時間	45 分
------	--	----	------

11.ステレオ録音実習

事前学習	録音実習のプランを検討する。	時間	45 分
事後学習	授業で録音したデータを自身の聴取環境でも聴いてみて、その違いを比べてみる。	時間	45 分

12.試聴・ディスカッション

事前学習	前回録音したデータを聞いてそれら違いを確認しておく。	時間	45 分
事後学習	マイクロホンの種類や位置の違いについて、自身の環境でも振り返ってみる。	時間	45 分

13.臨界距離

事前学習	ホールのステージの近くと離れた場合との音の違いについて調べてみる。	時間	45 分
事後学習	身近にあるホールやスタジオで実際に音を聴いてみて、授業で学んだ臨界距離を推定してみる。	時間	45 分

14.メインマイクとスポットマイク

事前学習	コンサートホールで録音された音源を聴き比べて、それらの違いについて考察する。	時間	45 分
事後学習	事前に聴き比べた音源を再度聴いてみて、授業で学んだメインマイクとスポットマイクの違いについて推測してみる。	時間	45 分

15.前期まとめ

事前学習	前期に学んだことで不明な点やさらに深めたい録音に関する知識があるか考えておく。	時間	45 分
事後学習	自身がステレオ録音をおこなう場合を想定して、必要な知識が身についたか振り返ってみる。	時間	45 分

【授業展開と内容-後期】

1.ミキシングの基本

事前学習	自身が使える DAW を選び、ミキシングができる環境を整えておく。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだミキシングの手順を自身の DAW 環境で試してみる。	時間	45 分

2.エフェクタ(1)イコライザ・フィルタ

事前学習	自身の DAW のイコライザについて調べておく。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだイコライザの使い方を自身の DAW で試してみる。	時間	45 分

3.エフェクタ(2)コンプレッサ・リミッタ

事前学習	自身の DAW のコンプレッサについて調べておく。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだコンプレッサの使い方を自身の DAW で試してみる。	時間	45 分

4.エフェクタ(3)リバーブ・ディレイ

事前学習	自身の DAW のリバーブ・ディレイについて調べておく。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだリバーブ・ディレイの使い方を自身の DAW で試してみる。	時間	45 分

5.様々なメーター

事前学習	自身の DAW のメーターについて調べておく。	時間	45 分
事後学習	授業で学んだメーターの違いを自身の DAW で確認しておく。	時間	45 分

6.録音実習1

リズムトラックの録音

事前学習	録音実習のプランを検討する。	時間	45 分
事後学習	授業で録音したデータを自身の DAW でも聴いてみる。	時間	45 分

7.録音実習2

オーバーダビング

事前学習	録音実習のプランを検討する。	時間	45 分
事後学習	授業で録音したデータを自身の DAW でも確認し、ミキシングしてみる。	時間	45 分

8.試聴、ディスカッション

事前学習	前回録音したデータのミキシングをやる中で気になった点や不明な点がないか確認しておく。	時間	45 分
事後学習	スタジオで聴いた音を自身環境でも聴いてみて、それらの音の違いや、他の人のミキシングの違いなどを振り返ってみる。	時間	45 分

9.PA の基本

事前学習	PA に必要な機材などを調べておく。	時間	45 分
事後学習	実際のコンサートで使用されている PA の機材について調べる。	時間	45 分

10.PA 実習

事前学習	PA 実習のプランを検討しておく。	時間	45 分
事後学習	実際に PA をやってみて気づいた点をまとめておく。	時間	45 分

11.立体音響再生技術(1)

5.1 サラウンド、ドルビーアトモスなど

事前学習	立体音響について調べてみる。	時間	45 分
事後学習	授業で取り上げた立体音響の特徴について振り返る。	時間	45 分

12.立体音響再生技術(2)

22.2 マルチチャンネル音響、アンビソニックス

事前学習	立体音響が具体的に用いられている事例を調べてみる。	時間	45 分
事後学習	スタジオで聴いた立体音響についての振り返り、ステレオとの違いをまとめてみる。	時間	45 分

13.立体音響制作のための録音・ミキシング

事前学習	自身の DAW でサラウンドや立体音響ができるか調べてみる。	時間	45 分
事後学習	自身の DAW でサラウンドや立体音響ができる場合、実際にミキシングを試し	時間	45 分

	てみる。		
--	------	--	--

14.立体音響制作の聴取環境とヘッドホン聴取・バイノーラル

事前学習	ヘッドホンによる聴取とスピーカーによる聴取の違いについて考えてみる。	時間	45 分
事後学習	スタジオで聴いたスピーカと自身の聴取環境でのヘッドホンで聴いた音の違いについてまとめる。	時間	45 分

15.立体音響作品試聴・後期まとめ

事前学習	後期に学んだことで不明な点やさらに深めたい録音に関する知識があるか考えておく。	時間	45 分
事後学習	自身が音楽録音をおこなう場合を想定して、必要な知識が身についたか振り返ってみる。	時間	45 分

【オフィスアワー】

質問は授業終了後や、Classroom、メールで随時受け付ける。

【教材】

授業前に講義資料を配布する。また参考文献についても適宜紹介する。

音楽・音響特殊研究(a)(前期)					
担当教員 宮木 朝子 講師			曜日時限		木 4 時限
実施キャンパス 調布	単位	1 単位		対象年次	修士 1 年

【授業の概要】

本授業は、作曲専攻の留学生を主な対象とし、日本語で修士論文や研究レポートを執筆するために必要な能力を身につけることを目的とする。前期は、学術論文執筆に必要な基礎的な知識を身につけ、文献レビューの演習を通じて、論文の構成や論理的な文章作成の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・学術論文執筆における基本的な知識を深め、論理的な文章を作成できるようになる。
- ・自分の研究テーマに基づいて、論文執筆の進行を計画し、次年度に向けた準備を整える。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

本授業は、修士論文や研究レポートを執筆予定の留学生を対象とする。

日本語での学術論文執筆に必要な基礎的な日本語能力が求められる。

英語の文献も扱うため、苦手な方は事前・事後の学習をしっかりと行うこと。

【授業の形式】

講義と課題のプレゼンテーションを組み合わせで行う。発表担当回には、レジュメやパワーポイントを作成しプレゼンテーションを行うこと。関連するアプリケーションの実習も行うため、パソコンを持参すること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.ガイダンス

事前学習	自分の興味のある研究テーマを考えてみる	時間	45 分
事後学習	講義内容を踏まえて取り組みたい研究テーマを整理しておく	時間	45 分

2.論文の構成

事前学習	学術論文の構成について調べる	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習し、関連する項目について知識を深めること	時間	45 分

3.問いの設定

事前学習	自分の興味をどのように「学術的問い」にできるか考えてみる	時間	45 分
事後学習	現時点での「問い」をまとめておく	時間	45 分

4.研究手法

事前学習	どのような研究手法があるのか調べてみる	時間	45 分
事後学習	興味をもった研究手法について知識を深める	時間	45 分

5.文献調査の方法

事前学習	自分の興味のあるテーマの先行研究を探してみる	時間	45 分
事後学習	講義内容を踏まえ、自分の興味のあるテーマに関連する文献を収集する	時間	45 分

6.文献管理

事前学習	これまで集めた文献を整理しておく	時間	45 分
事後学習	講義内容を踏まえ、自分の環境に合わせた文献管理方法を検討する	時間	45 分

7.引用のルール

事前学習	引用スタイルにはどのような種類があるか調べてみる	時間	45 分
事後学習	講義内容を復習し、関連する項目について知識を深めること	時間	45 分

8.文献レビュー1:学術論文(日本語)

事前学習	指定された文献を精読し、疑問点をまとめておくこと。また発表担当者は、レジюмеやパワーポイントを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について調べてみる	時間	45 分

9.文献レビュー2:学術論文(英語)

事前学習	指定された文献を精読し、疑問点をまとめておくこと。また発表担当者は、レジюмеやパワーポイントを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について調べてみる	時間	45 分

10.文献レビュー3:学位論文

事前学習	指定された文献を精読し、疑問点をまとめておくこと。また発表担当者は、レジюмеやパワーポイントを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。	時間	45 分
事後学習	講義内で扱った作品や関連文献について調べてみる	時間	45 分

11.資料の収集と発表1

事前学習	発表担当者は、レジюмеやパワーポイントを作成し、プレゼンテーションの準備をすること	時間	45 分
事後学習	講義内での議論を踏まえ、発表内容を再度整理しておく	時間	45 分

12.資料の収集と発表2

事前学習	発表担当者は、レジюмеやパワーポイントを作成し、プレゼンテーションの準備をすること	時間	45 分
事後学習	講義内での議論を踏まえ、発表内容を再度整理しておく	時間	45 分

13.資料の収集と発表3

事前学習	発表担当者は、レジюмеやパワーポイントを作成し、プレゼンテーションの準備をすること	時間	45 分
事後学習	講義内での議論を踏まえ、発表内容を再度整理しておく	時間	45 分

14.「問い」の再考と発表

事前学習	これまでの講義内容を踏まえ、自分の「問い」を再考すること	時間	45 分
事後学習	講義内での議論を踏まえ、現時点での「問い」をまとめておく	時間	45 分

15.まとめ

事前学習	前期の内容を踏まえ、自分の研究テーマと先行研究を整理しておく	時間	45 分
事後学習	自分の研究テーマに関連する文献調査を進めておく	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日 調布教室にて授業前後に時間を確保します。

音楽・音響特殊研究(b)(後期)					
担当教員 宮木 朝子 講師			曜日時限		木 4 時限
実施キャンパス 調布	単位	1 単位		対象年次	修士 1 年

【授業の概要】

本授業は、作曲専攻の留学生を主な対象とし、日本語で修士論文や研究レポートを執筆するために必要な能力を身につけることを目的とする。後期は、各自の研究テーマに基づき、研究背景や目的、研究方法を精緻化し、これまでの研究成果のプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

- ・学術論文執筆における基本的な知識を深め、論理的な文章を作成できるようになる。
- ・自分の研究テーマに基づいて、論文執筆の進行を計画し、次年度に向けた準備を整える。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

本授業は、修士論文や研究レポートを執筆予定の留学生を対象とする。

日本語での学術論文執筆に必要な基礎的な日本語能力が求められる。

英語の文献も扱うため、苦手な方は事前・事後の学習をしっかりと行うこと。

【授業の形式】

講義と課題のプレゼンテーションを組み合わせで行う。発表担当回には、レジュメやパワーポイントを作成しプレゼンテーションを行うこと。関連するアプリケーションの実習も行うため、パソコンを持参すること。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-後期】

1. ガイダンス・研究テーマの決定

事前学習	自身の研究テーマを発表できるように準備すること	時間	45 分
事後学習	自ら設定した研究テーマの意義について文章化すること	時間	45 分

2.先行研究の調査

事前学習	自ら設定した研究テーマに関連する先行研究を比較し、まとめておくこと	時間	45 分
事後学習	先行研究を踏まえた自分の研究テーマの位置付けを文章化すること	時間	45 分

3.研究方法の検討

事前学習	自ら設定した研究テーマにふさわしい研究方法を検討すること	時間	45 分
事後学習	研究方法を文章化すること	時間	45 分

4.資料・データ収集

事前学習	研究手法を踏まえて必要な資料・データ収集を行うこと	時間	45 分
事後学習	収集した資料・データをまとめておくこと	時間	45 分

5.分析

事前学習	収集した資料・データを分析すること	時間	45 分
事後学習	分析結果を文章化すること	時間	45 分

6.アウトラインの作成

事前学習	自分の研究のアウトラインを作成すること	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、アウトラインを精緻化すること	時間	45 分

7.研究の目的・背景

事前学習	自ら設定した研究テーマの研究の目的と背景を文章化する	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、修正する	時間	45 分

8.研究方法・計画

事前学習	講義内で紹介した分析ツールについて自ら設定した研究テーマの研究手法・計画を文章化するて調べてみる	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、修正する	時間	45 分

9.分析の実施と結果の解釈

事前学習	自ら設定した研究テーマに必要な分析を実施し、結果を文章化する	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、修正する	時間	45 分

10.研究の意義

事前学習	自ら設定した研究テーマの意義を文章化する	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、修正する	時間	45 分

11.アウトラインの精緻化と章立ての作成

事前学習	以前作成したアウトラインを精緻化し章立てを作成する	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、修正する	時間	45 分

12.レジュメの作成

事前学習	最終プレゼンテーションに向けたレジュメを作成する	時間	45 分
------	--------------------------	----	------

事後学習	フィードバックを踏まえて、修正する	時間	45 分
------	-------------------	----	------

13.最終プレゼンテーション1

事前学習	自ら設定した研究内容のプレゼンテーションを行う	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、課題点・今後の計画をまとめる	時間	45 分

14.最終プレゼンテーション2

事前学習	自ら設定した研究内容のプレゼンテーションを行う	時間	45 分
事後学習	フィードバックを踏まえて、課題点・今後の計画をまとめる	時間	45 分

15.まとめ

事前学習	章立ての見直しを行う	時間	45 分
事後学習	後期の学びを整理し、次年度の論文執筆に向けた準備を行う	時間	45 分

【オフィスアワー】

木曜日 調布教室にて授業前後に時間を確保します。

MSD 共同制作研究 I (a)(前期)					
担当教員	宮木 朝子 講師		曜日時限	木 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

映像/舞台作品の音楽とサウンドデザインについての講義、桐朋学園短期大学演劇専攻「コンテンポラリーダンス」「演劇/ミュージカル」や武蔵野美術大学映像学科「アニメーション」などの他大学との共同制作で、音楽とサウンドデザインの制作実習を行う。

【到達目標】

映像/舞台作品の音楽や音響の役割を分析できるようになる。

映像/舞台のための音楽制作のプロセスと技法を習得し、共同制作を通じて多様な表現の可能性を追求できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

他大学との共同制作を行うので、作品完成まで責任を持って取り組むことができること。DTM、DAW などによる音楽制作の経験があることが望ましい。

【授業の形式】

講義と音楽/サウンドデザイン制作実習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、「提出課題・作品発表等」と「受講姿勢」、それぞれの配分を総合的に判断して評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

共同制作の実習では、学生は授業内で音楽/サウンドデザインの構想についてのプレゼンを行い、教員が講評する。1 月の授業では、完成作品のプレゼンを行う。

【授業展開と内容-前期】

1.教員紹介、年間計画、施設と機材、音楽/サウンドデザイン制作環境

事前学習	興味のある映画、テレビ番組の音声(台詞、音楽、効果音)のみをヘッドホンで聴いてみる。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ音楽/音響制作、映像制作で使われる専門用語を整理する。	時間	30 分

2.言葉と音楽/サウンドデザイン

事前学習	映像のための音楽制作プロセスを調べる。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ映像と音響の制作環境、機材について整理する。	時間	30 分

3.映像分析、台本解釈

事前学習	静止画と動画の表現の違いについて考える。	時間	45 分
事後学習	興味のある CM の映像を分析し、監督の意図を考える。	時間	45 分

4.映像のための音楽制作技法 1. (短編アニメーション)

事前学習	短編アニメーションなどの映像と音楽/音響の関係について考える。	時間	45 分
事後学習	事前学習で使った映像作品の音楽/音響の役割を分析する。	時間	45 分

5.映像のための音楽制作技法 2. (映画、テレビ番組)

事前学習	事前学習で使った映像作品の音楽/音響の役割を分析する。	時間	45 分
事後学習	事前学習で使った映像作品について、授業後に再度映像と音楽/音響の関係を分析する。	時間	45 分

6.コンテンポラリーダンスと音楽

事前学習	クラシックバレエからコンテンポラリーダンスへの歴史をまとめる。	時間	45 分
事後学習	コンテンポラリーダンスと音楽の関係を調べる。	時間	45 分

7.コンテンポラリーダンスの音楽制作打ち合わせ (桐朋学園短期大学演劇専攻の授業見学/ディスカッション)

事前学習	コンテンポラリーダンスについての質問をまとめる。	時間	30 分
事後学習	コンテンポラリーダンスのための音楽制作のアイデアをまとめる。	時間	60 分

8.楽器録音/編集/ミックス実習 (録音エンジニアによるレクチャー)

事前学習	録音技術を活用した作曲技法について調べる。	時間	60 分
事後学習	録音に関わる専門用語をまとめる。	時間	30 分

9.コンテンポラリーダンスのための音楽録音

事前学習	コンテンポラリーダンスのための短い音楽を制作し、録音に必要なパート譜などの準備をする。	時間	60 分
------	---	----	------

事後学習	録音された音源について、問題点をみつける。	時間	30 分
------	-----------------------	----	------

10.録音編集/ミックス

事前学習	音源の問題点の解決方法について考える。	時間	60 分
事後学習	完成音源の確認。	時間	30 分

11.コンテンポラリーダンスのための音楽試聴-修正

事前学習	コンテンポラリーダンサーの音源についての意見をまとめる。	時間	30 分
事後学習	自作の音源に必要な修正を行う。	時間	60 分

12.コンテンポラリーダンスのための音楽試聴-完成

事前学習	コンテンポラリーダンスのための音楽プレゼン準備。	時間	45 分
事後学習	コンテンポラリーダンサーとの打ち合わせ。	時間	45 分

13.コンテンポラリーダンス本番/録画

事前学習	録画の準備。	時間	30 分
事後学習	映像編集。	時間	60 分

14.(遠隔授業)コンテンポラリーダンス映像試写

事前学習	コンテンポラリーダンス映像のプレゼン準備。	時間	60 分
事後学習	コンテンポラリーダンス映像のデータ確認。	時間	30 分

15.コンテンポラリーダンス映像試写、批評会

事前学習	コンテンポラリーダンス映像をコンテンツとして完成する。	時間	60 分
事後学習	自作品への反省をまとめる。	時間	30 分

【オフィスアワー】

木曜日 13 時 20 分～14 時 20 分 調布教員室

【教材】

「サウンドデザインバイブル」 沢口真生、染谷和孝、戸田信子著 兼六館出版

【その他】

共同制作のために、それぞれの専門分野の専門家によるレクチャーやディスカッション、打ち合わせを適宜入れる。楽器による録音と波形編集、ミックス、MA の実習を行う。

MSD 共同制作研究 I (b)(後期)					
担当教員 宮木 朝子 講師			曜日時限		木 5 時限
実施キャンパス 調布	単位	1 単位		対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

映像/舞台作品の音楽とサウンドデザインについての講義、桐朋学園短期大学演劇専攻「コンテンポラリーダンス」「演劇/ミュージカル」や武蔵野美術大学映像学科「アニメーション」などの他大学との共同制作で、音楽とサウンドデザインの制作実習を行う。

【到達目標】

映像/舞台作品の音楽や音響の役割を分析できるようになる。

映像/舞台のための音楽制作のプロセスと技法を習得し、共同制作を通じて多様な表現の可能性を追求できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

他大学との共同制作を行うので、作品完成まで責任を持って取り組むことができること。DTM、DAW などによる音楽制作の経験があることが望ましい。

【授業の形式】

講義と音楽/サウンドデザイン制作実習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、「提出課題・作品発表等」と「受講姿勢」、それぞれの配分を総合的に判断して評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

共同制作の実習では、学生は授業内で音楽/サウンドデザインの構想についてのプレゼンと行い、教員が講評する。1月の授業では、完成作品のプレゼンを行う。

【授業展開と内容-後期】

1.舞台と音楽

事前学習	舞台と音楽の関係について予習する。	時間	45 分
事後学習	機能音楽の歴史をまとめる。	時間	45 分

2.舞台作品のための音楽打ち合わせとディスカッション

事前学習	指定された舞台作品を鑑賞する。	時間	60 分
事後学習	ディスカッションの内容をまとめる。	時間	30 分

3.ミュージカル作品音楽分析

事前学習	指定されたミュージカル作品の音楽を分析し、発表できるように準備する。	時間	30 分
事後学習	指定されたミュージカル作品の担当部分の作曲家のアイデアをまとめる。	時間	60 分

4.短大連携の舞台作品打ち合わせ。

事前学習	舞台作品の台本を分析する。	時間	60 分
事後学習	編曲の修正。	時間	30 分

--	--	--	--

5.舞台作品の担当する音楽についてのプレゼン

事前学習	舞台作品の担当する音楽のアイデアをまとめる。	時間	60 分
事後学習	アイデアの修正。	時間	30 分

6.舞台作品の担当する音楽についての音源によるプレゼン

事前学習	音源プレゼン準備。	時間	30 分
事後学習	音楽を修正し完成する。	時間	60 分

7.アニメーション分析

事前学習	指定した短編アニメーションを鑑賞する。	時間	30 分
事後学習	短編アニメーションの映像、音楽、サウンドデザインを分析する。	時間	60 分

8.映像のための音響システム(マルチチャンネル/イマーシヴオーディオ)

事前学習	基本的な音響システムについて予習する。	時間	60 分
事後学習	授業で紹介する最新の音響システムを分類、整理する。	時間	30 分

9.アニメーション作品の音楽制作プロセス

事前学習	アニメーション制作のプロセスを予習する。	時間	45 分
事後学習	アニメーションのスタイルと音楽の関係についてまとめる。	時間	45 分

10.映像コンテンツのサウンドデザイン(サウンドデザイナーによる講義)

事前学習	映画のサウンドデザインについて予習する。	時間	45 分
事後学習	自分が選んだ映画のサウンドデザインを分析する。	時間	45 分

11.アニメーション制作者のプレゼンとディスカッション

事前学習	アニメーターへの質問をまとめる。	時間	20 分
事後学習	自身が音楽制作を希望するアニメーション作品を選び、音楽のアイデアをまとめる。	時間	70 分

12.アニメーション作品の音楽プレゼン

事前学習	アニメーションのための音楽を制作し、スコアとパート譜を制作する。	時間	80 分
------	----------------------------------	----	------

事後学習	プレゼンの反省と修正。	時間	10 分
------	-------------	----	------

13.遠隔授業/スタジオ録音)アニメーション作品の音楽録音/編集/ミックス(調布)

事前学習	録音のための演奏を依頼し、練習に立ち会う。	時間	70 分
事後学習	録音した音源のチェック。	時間	20 分

14.アニメーション作品 MA

事前学習	アニメーション作品 MA 準備。	時間	60 分
事後学習	アニメーション作品完成。	時間	30 分

15.アニメーション作品完成試写、批評会

事前学習	アニメーション作品試写準備。	時間	60 分
事後学習	アニメーション完成作品をメディアにする。	時間	30 分

【オフィスアワー】

木曜日 13 時 20 分～14 時 20 分 調布教員室

【教材】

「サウンドデザインバイブル」 沢口真生、染谷和孝、戸田信子著 兼六館出版

【その他】

共同制作のために、それぞれの専門分野の専門家によるレクチャーやディスカッション、打ち合わせを適宜入れる。楽器による録音と波形編集、ミックス、MA の実習を行う。

MSD 共同制作研究Ⅱ(a)(前期)					
担当教員	西岡 龍彦 特任教授		曜日時限	木 5 時限	
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

映像/舞台作品の音楽とサウンドデザインについての講義、桐朋学園短期大学演劇専攻「コンテンポラリーダンス」「演劇/ミュージカル」や武蔵野美術大学映像学科「アニメーション」などの他大学との共同制作で、音楽とサウンドデザインの制作実習を行う。

【到達目標】

映像/舞台作品の音楽や音響の役割を分析できるようになる。

映像/舞台のための音楽制作のプロセスと技法を習得し、共同制作を通じて多様な表現の可能性を追求できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

他大学との共同制作を行うので、作品完成まで責任を持って取り組むことができること。

DTM、DAW などによる音楽制作の経験があることが望ましい。

【授業の形式】

講義と音楽/サウンドデザイン制作実習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、「提出課題・作品発表等」と「受講姿勢」、それぞれの配分を総合的に判断して評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

共同制作の実習では、学生は授業内で音楽/サウンドデザインの構想についてのプレゼンと行い、教員が講評する。1月の授業では、完成作品のプレゼンを行う。

【授業展開と内容-前期】

1.教員紹介、年間計画、施設と機材、音楽/サウンドデザイン制作環境

事前学習	興味のある映画、テレビ番組の音声(台詞、音楽、効果音)のみをヘッドホンで聴いてみる。	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ音楽/音響制作、映像制作で使われる専門用語を整理する。	時間	30 分

2.言葉と音楽/サウンドデザイン

事前学習	映像のための音楽制作プロセスを調べる	時間	60 分
事後学習	授業で学んだ映像と音響の制作環境、機材について整理する。	時間	30 分

3.映像分析、台本解釈

事前学習	静止画と動画の表現の違いについて考える。	時間	45 分
事後学習	興味のある CM の映像を分析し、監督の意図を考える。	時間	45 分

4.映像のための音楽制作技法 1. (短編アニメーション)

事前学習	短編アニメーションなどの映像と音楽/音響の関係について考える。	時間	45 分
事後学習	事前学習で使った映像作品の音楽/音響の役割を分析する。	時間	45 分

5.映像のための音楽制作技法 2. (映画、テレビ番組)

事前学習	事前学習で使った映像作品の音楽/音響の役割を分析する。	時間	45 分
事後学習	事前学習で使った映像作品について、授業後に再度映像と音楽/音響の関係を分析する。	時間	45 分

6.コンテンポラリーダンスと音楽

事前学習	クラシックバレエからコンテンポラリーダンスへの歴史をまとめる。	時間	45 分
事後学習	コンテンポラリーダンスと音楽の関係を調べる。	時間	45 分

7.コンテンポラリーダンスの音楽制作打ち合わせ(桐朋学園短期大学演劇専攻の授業見学/ディスカッション)

事前学習	コンテンポラリーダンスについての質問をまとめる。	時間	30 分
事後学習	コンテンポラリーダンスのための音楽制作のアイデアをまとめる。	時間	60 分

8.楽器録音/編集/ミックス実習(録音エンジニアによるレクチャー)

事前学習	録音技術を活用した作曲技法について調べる。	時間	60 分
事後学習	録音に関わる専門用語をまとめる。	時間	30 分

9.コンテンポラリーダンスのための音楽録音

事前学習	コンテンポラリーダンスのための短い音楽を制作し、録音に必要なパート譜などの準備をする。	時間	60 分
事後学習	録音された音源について、問題点をみつける	時間	30 分

10.録音編集/ミックス

事前学習	音源の問題点の解決方法について考える。	時間	60 分
事後学習	完成音源の確認。	時間	30 分

11.コンテンポラリーダンスのための音楽試聴-修正

事前学習	コンテンポラリーダンサーの音源についての意見をまとめる。	時間	30 分
事後学習	自作の音源に必要な修正を行う。	時間	60 分

12.コンテンポラリーダンスのための音楽試聴-完成

事前学習	コンテンポラリーダンスのための音楽プレゼン準備。	時間	45 分
事後学習	コンテンポラリーダンサーとの打ち合わせ。	時間	45 分

13.コンテンポラリーダンス本番/録画

事前学習	録画の準備。	時間	30 分
事後学習	映像編集。	時間	60 分

14.(遠隔授業)コンテンポラリーダンス映像試写

事前学習	コンテンポラリーダンス映像のプレゼン準備。	時間	60 分
事後学習	コンテンポラリーダンス映像のデータ確認。	時間	30 分

15.コンテンポラリーダンス映像試写、批評会

事前学習	コンテンポラリーダンス映像をコンテンツとして完成する。	時間	60 分
事後学習	自作品への反省をまとめる。	時間	30 分

【オフィスアワー】

木曜日 13 時 20 分～14 時 20 分 調布教員室

【テキスト】

1.サウンドデザインバイブル 沢口真生、染谷和孝、戸田信子

備考:兼六館出版

【その他】

共同制作のために、それぞれの専門分野の専門家によるレクチャーやディスカッション、打ち合わせを適宜入れる。楽器による録音と波形編集、ミックス、MA の実習を行う。

MSD 共同制作研究Ⅱ(b)(後期)					
担当教員 西岡 龍彦 特任教授			曜日時限		木 5 時限
実施キャンパス 調布	単位	1 単位		対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

映像/舞台作品の音楽とサウンドデザインについての講義、桐朋学園短期大学演劇専攻「コンテンポラリーダンス」「演劇/ミュージカル」や武蔵野美術大学映像学科「アニメーション」などの他大学との共同制作で、音楽とサウンドデザインの制作実習を行う。

【到達目標】

映像/舞台作品の音楽や音響の役割を分析できるようになる。

映像/舞台のための音楽制作のプロセスと技法を習得し、共同制作を通じて多様な表現の可能性を追求できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

他大学との共同制作を行うので、作品完成まで責任を持って取り組むことができること。

DTM、DAW などによる音楽制作の経験があることが望ましい。

【授業の形式】

講義と音楽/サウンドデザイン制作実習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、「提出課題・作品発表等」と「受講姿勢」、それぞれの配分を総合的に判断して評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

共同制作の実習では、学生は授業内で音楽/サウンドデザインの構想についてのプレゼンと行い、教員が講評する。1 月の授業では、完成作品のプレゼンを行う。

【授業展開と内容-後期】

1.舞台と音楽

事前学習	舞台と音楽の関係について予習する。	時間	45 分
事後学習	機能音楽の歴史をまとめる。	時間	45 分

2.舞台作品のための音楽打ち合わせとディスカッション

事前学習	定された舞台作品を鑑賞する。	時間	60 分
事後学習	ディスカッションの内容をまとめる。	時間	30 分

3.ミュージカル作品音楽分析

事前学習	指定されたミュージカル作品の音楽を分析し、発表できるように準備する。	時間	30 分
事後学習	指定されたミュージカル作品の担当部分の作曲家のアイデアをまとめる。	時間	60 分

4.短大連携の舞台作品打ち合わせ。

事前学習	舞台作品の台本を分析する	時間	60 分
事後学習	編曲の修正。	時間	30 分

5.舞台作品の担当する音楽についてのプレゼン

事前学習	舞台作品の担当する音楽のアイデアをまとめる。	時間	60 分
事後学習	アイデアの修正。	時間	30 分

6.舞台作品の担当する音楽についての音源によるプレゼン

事前学習	音源プレゼン準備。	時間	30 分
事後学習	音楽を修正し完成する。	時間	60 分

7.アニメーション分析

事前学習	指定した短編アニメーションを鑑賞する。	時間	30 分
事後学習	短編アニメーションの映像、音楽、サウンドデザインを分析する。	時間	60 分

8.映像のための音響システム(マルチチャンネル/イマーシブオーディオ)

事前学習	基本的な音響システムについて予習する。	時間	60 分
事後学習	授業で紹介する最新の音響システムを分類、整理する。	時間	30 分

9.アニメーション作品の音楽制作プロセス

事前学習	アニメーション制作のプロセスを予習する。	時間	45 分
事後学習	アニメーションのスタイルと音楽の関係についてまとめる。	時間	45 分

10.映像コンテンツのサウンドデザイン(サウンドデザイナーによる講義)

事前学習	映画のサウンドデザインについて予習する。	時間	45 分
事後学習	自分が選んだ映画のサウンドデザインを分析する。	時間	45 分

11.アニメーション制作者のプレゼンとディスカッション

事前学習	アニメーターへの質問をまとめる。	時間	20 分
事後学習	自身が音楽制作を希望するアニメーション作品を選び、音楽のアイデアをまとめる。	時間	70 分

12.アニメーション作品の音楽プレゼン

事前学習	アニメーションのための音楽を制作し、スコアとパート譜を制作する。	時間	80 分
事後学習	プレゼンの反省と修正。	時間	10 分

13.(遠隔授業/スタジオ録音)アニメーション作品の音楽録音/編集/ミックス(調布)

事前学習	録音のための演奏を依頼し、練習に立ち会う。	時間	70 分
事後学習	録音した音源のチェック。	時間	20 分

14.アニメーション作品 MA

事前学習	アニメーション作品 MA 準備。	時間	60 分
事後学習	アニメーション作品完成	時間	30 分

15.アニメーション作品完成試写、批評会

事前学習	アニメーション作品試写準備	時間	60 分
事後学習	アニメーション完成作品をメディアにする。	時間	30 分

【オフィスアワー】

木曜日 13 時 20 分～14 時 20 分 調布教員室

【テキスト】

1.サウンドデザインバイブル 沢口真生、染谷和孝、戸田信子

備考:兼六館出版

【その他】

共同制作のために、それぞれの専門分野の専門家によるレクチャーやディスカッション、打ち合わせを適宜入れる。楽器による録音と波形編集、ミックス、MA の実習を行う。

MSD 共同制作研究Ⅲ(a)(前期)					
担当教員			曜日時限		木 5 時限
実施キャンパス		単位	1 単位	対象年次	修士 1 年～
調布					

【授業の概要】

映像/舞台作品の音楽とサウンドデザインについての講義、桐朋学園短期大学演劇専攻「コンテンポラリーダンス」「演劇/ミュージカル」や武蔵野美術大学映像学科「アニメーション」などの他大学との共同制作で、音楽とサウンドデザインの制作実習を行う。

【到達目標】

映像/舞台作品の音楽や音響の役割を分析できるようになる。

映像/舞台のための音楽制作のプロセスと技法を習得し、共同制作を通じて多様な表現の可能性を追求できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある

他大学との共同制作を行うので、作品完成まで責任を持って取り組むことができること。

DTM、DAW などによる音楽制作の経験があることが望ましい。

【授業の形式】

講義と音楽/サウンドデザイン制作実習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、「提出課題・作品発表等」と「受講姿勢」、それぞれの配分を総合的に判断して評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

共同制作の実習では、学生は授業内で音楽/サウンドデザインの構想についてのプレゼンを行い、教員が講評する。1月の授業では、完成作品のプレゼンを行う。

【授業展開と内容-前期】

1.教員紹介、年間計画、施設と機材、音楽/サウンドデザイン制作環境

事前学習	興味のある映画、テレビ番組の音声(台詞、音楽、効果音)のみをヘッドフォンで聴いてみる。	時間	60分
事後学習	授業で学んだ音楽/音響制作、映像制作で使われる専門用語を整理する。	時間	30分

2.言葉と音楽/サウンドデザイン

事前学習	映像のための音楽制作プロセスを調べる。	時間	60分
事後学習	授業で学んだ映像と音響の制作環境、機材について整理する。	時間	30分

3.映像分析、台本解釈

事前学習	静止画と動画の表現の違いについて考える。	時間	45分
事後学習	興味のあるCMの映像を分析し、監督の意図を考える。	時間	45分

4.映像のための音楽制作技法 1. (短編アニメーション)

事前学習	短編アニメーションなどの映像と音楽/音響の関係について考える。	時間	45分
事後学習	事前学習で使った映像作品の音楽/音響の役割を分析する。	時間	45分

5.映像のための音楽制作技法 2. (映画、テレビ番組)

事前学習	事前学習で使った映像作品の音楽/音響の役割を分析する。	時間	45分
事後学習	事前学習で使った映像作品について、授業後に再度映像と音楽/音響の関係を分析する。	時間	45分

6.コンテンポラリーダンスと音楽

事前学習	クラシックバレエからコンテンポラリーダンスへの歴史をまとめる。	時間	45分
事後学習	コンテンポラリーダンスと音楽の関係を調べる。	時間	45分

7.コンテンポラリーダンスの音楽制作打ち合わせ(桐朋学園短期大学演劇専攻の授業見学/ディスカッション)

事前学習	コンテンポラリーダンスについての質問をまとめる。	時間	30分
事後学習	コンテンポラリーダンスのための音楽制作のアイデアをまとめる。	時間	60分

8.楽器録音/編集/ミックス実習(録音エンジニアによるレクチャー)

事前学習	録音技術を活用した作曲技法について調べる。	時間	60分
------	-----------------------	----	-----

事後学習	録音に関わる専門用語をまとめる。	時間	30 分
------	------------------	----	------

9.コンテンポラリーダンスのための音楽録音

事前学習	コンテンポラリーダンスのための短い音楽を制作し、録音に必要なパート譜などの準備をする。	時間	60 分
事後学習	録音された音源について、問題点をみつける。	時間	30 分

10.録音編集/ミックス

事前学習	音源の問題点の解決方法について考える。	時間	60 分
事後学習	完成音源の確認。	時間	30 分

11.コンテンポラリーダンスのための音楽試聴-修正

事前学習	コンテンポラリーダンサーの音源についての意見をまとめる。	時間	30 分
事後学習	自作の音源に必要な修正を行う。	時間	60 分

12.コンテンポラリーダンスのための音楽試聴-完成

事前学習	コンテンポラリーダンスのための音楽プレゼン準備。	時間	45 分
事後学習	コンテンポラリーダンサーとの打ち合わせ。	時間	45 分

13.コンテンポラリーダンス本番/録画

事前学習	録画の準備。	時間	30 分
事後学習	映像編集。	時間	60 分

14.(遠隔授業)コンテンポラリーダンス映像試写

事前学習	コンテンポラリーダンス映像のプレゼン準備。	時間	60 分
事後学習	コンテンポラリーダンス映像のデータ確認。	時間	30 分

15.コンテンポラリーダンス映像試写、批評会

事前学習	コンテンポラリーダンス映像をコンテンツとして完成する。	時間	60 分
事後学習	自作品への反省をまとめる。	時間	30 分

【オフィスアワー】

木曜日 13 時 20 分～14 時 20 分 調布教員室

【教材】

「サウンドデザインバイブル」 沢口真生、染谷和孝、戸田信子著 兼六館出版

【その他】

共同制作のために、それぞれの専門分野の専門家によるレクチャーやディスカッション、打ち合わせを適宜入れる。楽器による録音と波形編集、ミックス、MA の実習を行う。

MSD 共同制作研究Ⅲ(b)(後期)					
担当教員	加藤 直正 特任講師		曜日時限		木 5 時限
実施キャンパス	調布	単位	1 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

映像/舞台作品の音楽とサウンドデザインについての講義、桐朋学園短期大学演劇専攻「コンテンポラリーダンス」「演劇/ミュージカル」や武蔵野美術大学映像学科「アニメーション」などの他大学との共同制作で、音楽とサウンドデザインの制作実習を行う。

【到達目標】

映像/舞台作品の音楽や音響の役割を分析できるようになる。映像/舞台のための音楽制作のプロセスと技法を習得し、共同制作を通じて多様な表現の可能性を追求できるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

MSD 専攻生対象

創作専攻生の履修については、実技担当および講座担当の了解を経て、部会が履修を認めることがある。

他大学との共同制作を行うので、作品完成まで責任を持って取り組むことができること。DTM、DAW などによる音楽制作の経験があることが望ましい。

【授業の形式】

講義と音楽/サウンドデザイン制作実習

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	60%	40%

【成績評価の要点②】

成績評価は、「提出課題・作品発表等」と「受講姿勢」、それぞれの配分を総合的に判断して評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

共同制作の実習では、学生は授業内で音楽/サウンドデザインの構想についてのプレゼンを行い、教員が講評する。1 月の授業では、完成作品のプレゼンを行う。

【授業展開と内容-後期】

1.舞台と音楽

事前学習	舞台と音楽の関係について予習する。	時間	45 分
事後学習	機能音楽の歴史をまとめる	時間	45 分

2.舞台作品のための音楽打ち合わせとディスカッション

事前学習	指定された舞台作品を鑑賞する。	時間	60 分
事後学習	ディスカッションの内容をまとめる。	時間	30 分

3.ミュージカル作品音楽分析

事前学習	指定されたミュージカル作品の音楽を分析し、発表できるように準備する。	時間	30 分
事後学習	指定されたミュージカル作品の担当部分の作曲家のアイデアをまとめる。	時間	60 分

4.短大連携の舞台作品打ち合わせ

事前学習	舞台作品の台本を分析する。	時間	60 分
事後学習	編曲の修正。	時間	30 分

5.舞台作品の担当する音楽についてのプレゼン

事前学習	舞台作品の担当する音楽のアイデアをまとめる。	時間	60 分
事後学習	アイデアの修正。	時間	30 分

6.舞台作品の担当する音楽についての音源によるプレゼン

事前学習	音源プレゼン準備。	時間	30 分
事後学習	音楽を修正し完成する。	時間	60 分

7.アニメーション分析

事前学習	指定した短編アニメーションを鑑賞する。	時間	30 分
事後学習	短編アニメーションの映像、音楽、サウンドデザインを分析する。	時間	60 分

8.映像のための音響システム(マルチチャンネル/イマーシブオーディオ)

事前学習	基本的な音響システムについて予習する。	時間	60 分
事後学習	授業で紹介する最新の音響システムを分類、整理する。	時間	30 分

9.アニメーション作品の音楽制作プロセス

事前学習	アニメーション制作のプロセスを予習する。	時間	45 分
事後学習	アニメーションのスタイルと音楽の関係についてまとめる。	時間	45 分

10.映像コンテンツのサウンドデザイン(サウンドデザイナーによる講義)

事前学習	映画のサウンドデザインについて予習する。	時間	45 分
事後学習	自分が選んだ映画のサウンドデザインを分析する。	時間	45 分

11.アニメーション制作者のプレゼンとディスカッション

事前学習	アニメーターへの質問をまとめる。	時間	20 分
事後学習	自身が音楽制作を希望するアニメーション作品を選び、音楽のアイデアをまとめる。	時間	70 分

12.アニメーション作品の音楽プレゼン

事前学習	アニメーションのための音楽を制作し、スコアとパート譜を制作する。	時間	80 分
事後学習	プレゼンの反省と修正。	時間	10 分

13.(遠隔授業/スタジオ録音)アニメーション作品の音楽録音/編集/ミックス(調布)

事前学習	録音のための演奏を依頼し、練習に立ち会う。	時間	70 分
事後学習	録音した音源のチェック。	時間	20 分

14.アニメーション作品 MA

事前学習	アニメーション作品 MA 準備。	時間	60 分
事後学習	アニメーション作品完成。	時間	30 分

15.アニメーション作品完成試写、批評会

事前学習	アニメーション作品試写準備。	時間	60 分
事後学習	アニメーション完成作品をメディアにする。	時間	30 分

【オフィスアワー】

木曜日 13 時 20 分～14 時 20 分 調布教員室

【教材】

「サウンドデザインバイブル」 沢口真生、染谷和孝、戸田信子著 兼六館出版

【その他】

共同制作のために、それぞれの専門分野の専門家によるレクチャーやディスカッション、打ち合わせを適宜入れる。楽器による録音と波形編集、ミックス、MA の実習を行う。

音楽学特別研究①(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	安田 和信 准教授	曜日時限		金 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 1 年～

【授業の概要】

この授業は前期では西洋音楽史に関する様々な問題を扱った文献(主に日本語による)を読解し、その内容についてプレゼンテーションすることに取り組む。取り上げる文献は履修者の顔ぶれを見て決めていきたい。音楽学以外のコースの学生の履修も歓迎する。

後期は西洋音楽史に関する様々な問題を扱った文献(主に英語による)を読解し、その内容についてプレゼンテーションすることに取り組む。外国語の文献を読むとはいえ、文献購読の授業ではないため、翻訳アプリなどを駆使しつつ、なるべく多くの文献に取り組みたいと考えている。取り上げる文献は履修者の顔ぶれを見て決めていきたい。後期に関しても音楽学以外の

コースの学生の履修を歓迎する。

【到達目標】

前期:主に日本語の文献を読み、その内容についてプレゼンテーションをできるようになる。

後期:主に英語の文献を読み、その内容についてプレゼンテーションをできるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。コースを問わず、熱心な受講者を歓迎する。

【授業の形式】

演習。

Classroom を通じて資料などを共有する。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	70%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に

判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.イントロダクション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

2.教員によるプレゼンテーション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

3.学生によるプレゼンテーション1

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

4.教員によるプレゼンテーション2

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
------	----------------	----	------

事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分
------	----------------------------------	----	------

5.学生によるプレゼンテーション3

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

6.学生によるプレゼンテーション4

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

7.学生によるプレゼンテーション5

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

8.学生によるプレゼンテーション6

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

9.学生によるプレゼンテーション7

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

10.学生によるプレゼンテーション8

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

11.学生によるプレゼンテーション9

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

12.学生によるプレゼンテーション 10

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

13.学生によるプレゼンテーション 11

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

14.学生によるプレゼンテーション 12

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

15.学生によるプレゼンテーション 13

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

【授業展開と内容-後期】

1.イントロダクション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

2.教員によるプレゼンテーション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

3.学生によるプレゼンテーション1

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

4.学生によるプレゼンテーション2

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

5.学生によるプレゼンテーション3

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

6.学生によるプレゼンテーション4

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

7.学生によるプレゼンテーション5

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

8.学生によるプレゼンテーション6

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

9.学生によるプレゼンテーション7

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

10.学生によるプレゼンテーション8

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

11.学生によるプレゼンテーション9

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

12.学生によるプレゼンテーション 10

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
------	----------------	----	------

事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分
------	----------------------------------	----	------

13.学生によるプレゼンテーション 11

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

14.学生によるプレゼンテーション 12

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

15.まとめ

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

【オフィスアワー】

金曜日の 5 限終了後、調布教員室。

音楽学特別研究②(a)(前期),(b)(後期)					
担当教員	安田 和信 准教授		曜日時限	金 3 時限	
実施キャンパス	調布	単位	各 2 単位	対象年次	修士 2 年～

【授業の概要】

この授業は前期では西洋音楽史に関する様々な問題を扱った文献(主に日本語による)を読解し、その内容についてプレゼンテーションすることに取り組む。取り上げる文献は履修者の顔ぶれを見て決めていきたい。音楽学以外のコースの学生の履修も歓迎する。

後期は西洋音楽史に関する様々な問題を扱った文献(主に英語による)を読解し、その内容についてプレゼンテーションすることに取り組む。外国語の文献を読むとはいえ、文献購読の授業ではないため、翻訳アプリなどを駆使しつつ、なるべく多くの文献に取り組みたいと考えている。取り上げる文献は履修者の顔ぶれを見て決めていきたい。後期に関しても音楽学以外のコースの学生の履修を歓迎する。

【到達目標】

前期:主に日本語の文献を読み、その内容についてプレゼンテーションをできるようになる。

後期:主に英語の文献を読み、その内容についてプレゼンテーションをできるようになる。

【履修資格/履修に必要な予備知識や技能】

特になし。コースを問わず、熱心な受講者を歓迎する。

【授業の形式】

演習。

Classroom を通じて資料などを共有する。

【成績評価の要点①】

試験	提出課題・作品発表等	受講姿勢
	70%	30%

【成績評価の要点②】

成績評価は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に

判断し、A, B, C, D で評価する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業時にフィードバックする。

【授業展開と内容-前期】

1.イントロダクション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

2.教員によるプレゼンテーション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

3.学生によるプレゼンテーション1

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

4.教員によるプレゼンテーション2

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

5.学生によるプレゼンテーション3

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

6.学生によるプレゼンテーション4

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

7.学生によるプレゼンテーション5

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

8.学生によるプレゼンテーション6

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

9.学生によるプレゼンテーション7

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

10.学生によるプレゼンテーション8

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

11.学生によるプレゼンテーション9

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

12.学生によるプレゼンテーション 10

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

13.学生によるプレゼンテーション 11

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

14.学生によるプレゼンテーション 12

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

15.学生によるプレゼンテーション 13

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

【授業展開と内容-後期】

1.イントロダクション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

2.教員によるプレゼンテーション

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

3.学生によるプレゼンテーション1

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
------	----------------	----	------

事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分
------	----------------------------------	----	------

4.学生によるプレゼンテーション2

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

5.学生によるプレゼンテーション3

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

6.学生によるプレゼンテーション4

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

7.学生によるプレゼンテーション5

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

8.学生によるプレゼンテーション6

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

9.学生によるプレゼンテーション7

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

10.学生によるプレゼンテーション8

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

11.学生によるプレゼンテーション9

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

12.学生によるプレゼンテーション 10

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

13.学生によるプレゼンテーション 11

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

14.学生によるプレゼンテーション 12

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

15.まとめ

事前学習	事前に資料に目を通しておく。	時間	20 分
事後学習	授業内容について再確認。必要に応じて関係文献をチェックすること。	時間	70 分

【オフィスアワー】

金曜日の 5 限終了後、調布教員室。